

高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第5冊

奥の坊遺跡群V (奥の坊遺跡 I・II区)

2006年12月

高松市教育委員会



I ~ IV区全景



SP21086出土土器

例　　言

1. 本報告書は、高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第5冊で、高松市高松町に所在する奥の坊遺跡I・II区（おくのはういせき I・IIく）の報告を収録した。
2. 発掘調査地ならびに調査期間は次のとおりである。
奥の坊遺跡　　調査地：高松市高松町奥ノ坊
発掘調査：平成10年9月14日～11年2月19日
整理作業：平成18年1月4日～12月28日
3. 発掘調査から整理作業及び報告書編集まで高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員大嶋和則が担当した。
4. 発掘調査から整理作業、報告執筆を実施するにあたって、下記の関係諸機関ならびに方々からご教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。（五十音順、敬称略）
香川県教育委員会、香川県埋蔵文化財センター（当時（財）香川県埋蔵文化財調査センター）、古高松土地改良区、地元自治会、地元水利組合
5. 発掘調査から整理作業、報告書執筆まで下記の方々の協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。（敬称略）
信吉純恵、大野宏和、川部浩司、増田ゆず（当時徳島文理大学）、末光甲正（讃岐文化遺産研究会）
6. 本調査に関連して、以下の業務を委託発注により実施した。
航空写真測量　　アジア航測株
遺物写真撮影　　西大寺フォト
7. 採図として、国土地理院発行1/25,000地形図「高松北部」「高松南部」「五剣山」「志度」を一部改変して使用した。
8. 本報告の高度値は海拔高を表し、方位・座標値は国土座標第IV系（日本測地系）の北を示す。
9. 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SB：掘立柱建物跡　SD：溝　SH：竪穴住居跡　SK：土坑　SO：落ち込み　SP：柱穴
NR：旧河道
10. 本書で使用した図版の縮尺は注記の無い場合は次のとおりである。
遺構：1/40　　土器：1/4　　石器・金属製品：1/2
11. 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 調査の経緯と経過

| | |
|----------------------|---|
| 第1節 事業全体の経緯と経過 | 1 |
| 第2節 奥の坊遺跡の発掘調査の経緯と経過 | 2 |
| 第3節 整理作業の経過 | 3 |

第2章 地理的・歴史的環境

| | |
|-----------|---|
| 第1節 地理的環境 | 4 |
| 第2節 歴史的環境 | 4 |

第3章 調査の成果

| | |
|------------|----|
| 第1節 I区の調査 | 7 |
| 第2節 II区の調査 | 18 |

第4章 まとめ

| | |
|--------------------|----|
| 第1節 遺構の変遷について | 68 |
| 第2節 高松平野における石器素材剥片 | 71 |
| 観察表 | 75 |
| 写真図版 | 83 |
| 報告書抄録 | 95 |

挿図目次

| | | | |
|----------------------------|----|-------------------------|----|
| 第1図 高松市東部運動公園(仮称)整備事業発掘調査地 | 2 | 第48図 SK21004平・断面図 | 43 |
| 第2図 奥の坊遺跡I・II区平面図 | 3 | 第49図 SK21005平・断面図 | 43 |
| 第3図 周辺遺跡分布図(S-1/25,000) | 6 | 第50図 SK21005出土遺物実測図 | 44 |
| 第4図 I区第2回調査地平面図 | 8 | 第51図 SK21006平・断面図 | 45 |
| 第5図 I区第1回調査地平面図 | 9 | 第52図 SK21006出土遺物実測図 | 45 |
| 第6図 I区北壁土層断面図 | 10 | 第53図 SK21007平・断面図 | 45 |
| 第7図 I区東壁土層断面図 | 11 | 第54図 SK21008平・断面図 | 46 |
| 第8図 SH12001平・断面図 | 12 | 第55図 SK21008出土遺物実測図 | 46 |
| 第9図 SK12001平・断面図 | 13 | 第56図 SK21009平・断面図 | 47 |
| 第10図 SK12002平・断面図 | 13 | 第57図 SK21010平・断面図 | 47 |
| 第11図 SK12003平・断面図 | 13 | 第58図 SK21010出土遺物実測図 | 48 |
| 第12図 SK12004平・断面図 | 13 | 第59図 SK21011平・断面図 | 49 |
| 第13図 SK12005平・断面図 | 14 | 第60図 SK21011出土遺物実測図 | 50 |
| 第14図 SK12006出土遺物実測図 | 14 | 第61図 SK21012平・断面図 | 50 |
| 第15図 SK12006平・断面図 | 14 | 第62図 SK21012出土遺物実測図 | 50 |
| 第16図 SK12007平・断面図 | 14 | 第63図 SK21013平・断面図 | 51 |
| 第17図 SB11001平・断面図 | 15 | 第64図 SK21013出土遺物実測図 | 51 |
| 第18図 SK11001平・断面図 | 16 | 第65図 SK21014平・断面図 | 51 |
| 第19図 SK11002平・断面図 | 16 | 第66図 SK21014出土遺物実測図 | 52 |
| 第20図 SK11002出土遺物実測図 | 16 | 第67図 SK21015平・断面図 | 53 |
| 第21図 SK11003平・断面図 | 17 | 第68図 SK21016平・断面図 | 53 |
| 第22図 SO11001出土遺物実測図 | 17 | 第69図 SK21016出土遺物実測図 | 54 |
| 第23図 II区遺構平面図 | 19 | 第70図 SK21017平・断面図 | 55 |
| 第24図 II区北壁土層断面図① | 21 | 第71図 SK21017出土遺物実測図 | 56 |
| 第25図 II区北壁土層断面図② | 22 | 第72図 SK21018平・断面図 | 56 |
| 第26図 包含層出土遺物実測図① | 23 | 第73図 SK21018出土遺物実測図 | 56 |
| 第27図 包含層出土遺物実測図② | 24 | 第74図 SK21019平・断面図 | 57 |
| 第28図 包含層出土遺物実測図③ | 25 | 第75図 SK21020平・断面図 | 57 |
| 第29図 包含層出土遺物実測図④ | 26 | 第76図 SK21021平・断面図 | 58 |
| 第30図 包含層出土遺物実測図⑤ | 27 | 第77図 SK21022平・断面図 | 58 |
| 第31図 包含層出土遺物実測図⑥ | 28 | 第78図 SK21023平・断面図 | 58 |
| 第32図 包含層出土遺物実測図⑦ | 29 | 第79図 SK21024平・断面図 | 58 |
| 第33図 包含層出土遺物実測図⑧ | 30 | 第80図 SK21025平・断面図 | 59 |
| 第34図 SH21001平・断面図 | 31 | 第81図 SK21025出土遺物実測図 | 59 |
| 第35図 SH21002-21003平・断面図 | 32 | 第82図 SK21026平・断面図 | 59 |
| 第36図 SH21002-21003出土遺物実測図 | 33 | 第83図 SK21027平・断面図 | 60 |
| 第37図 SB21001平・断面図 | 34 | 第84図 SK21028平・断面図 | 61 |
| 第38図 SB21001出土遺物実測図 | 35 | 第85図 SK21028出土遺物実測図 | 62 |
| 第39図 SB21002平・断面図 | 36 | 第86図 SK21028内ビット出土遺物実測図 | 62 |
| 第40図 SB21003平・断面図 | 37 | 第87図 SK21029平・断面図 | 63 |
| 第41図 SB21004平・断面図 | 38 | 第88図 SD21001平面図及び断面図 | 64 |
| 第42図 SB21005平・断面図 | 39 | 第89図 SD21002平・断面図 | 64 |
| 第43図 SB21005出土遺物実測図 | 39 | 第90図 SD21004平面図及び断面図 | 65 |
| 第44図 SK21001平・断面図 | 40 | 第91図 SD21004出土遺物実測図 | 65 |
| 第45図 SK21001出土遺物実測図 | 41 | 第92図 SD21005平・断面図 | 66 |
| 第46図 SK21002平・断面図 | 42 | 第93図 SD21006平・断面図 | 66 |
| 第47図 SK21003平・断面図 | 42 | 第94図 SP21086平・断面図 | 66 |

| | |
|---------------------|----|
| 第95図 SP21006出土遺物実測図 | 67 |
| 第96図 ピット出土遺物実測図 | 67 |
| 第97図 弥生時代中期前半の遺構平面図 | 68 |
| 第98図 古代の遺構平面図 | 69 |

| | |
|----------------------|----|
| 第99図 近世以降の遺構平面図 | 70 |
| 第100図 高松平野出土の大型素材剥片① | 72 |
| 第101図 高松平野出土の大型素材剥片② | 73 |

写真図版目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 写真1 調査区全景(南から) | 80 |
| 写真2 I区第2遺構面全景(南西から) | 80 |
| 写真3 I区第2遺構面光掲状況(南西から) | 80 |
| 写真4 II区完掘状況(北西から) | 80 |
| 写真5 SH12001完掘状況(北から) | 80 |
| 写真6 SB11001完掘状況(南から) | 80 |
| 写真7 SH21001完掘状況(北東から) | 80 |
| 写真8 SH21001完掘状況(北西から) | 80 |
| 写真9 SH21002・21003完掘状況(北から) | 81 |
| 写真10 SH21002・21003完掘状況(南から) | 81 |
| 写真11 SB21001完掘状況(内から) | 81 |
| 写真12 SR21001完掘状況(北西から) | 81 |
| 写真13 SR21003完掘状況(南から) | 81 |
| 写真14 SK21001土器出土状況(北西から) | 81 |
| 写真15 SK21001土器出土状況(北東から) | 81 |
| 写真16 SK21001土器出土状況(南から) | 81 |
| 写真17 SK21001土器出土状況(東から) | 82 |
| 写真18 SK21001土器出土状況(東から) | 82 |
| 写真19 SK21005土器出土状況(北東から) | 82 |
| 写真20 SK21005土器出土状況(西から) | 82 |
| 写真21 SK21005土器出土状況(北から) | 82 |
| 写真22 SK21006完掘状況(北から) | 82 |
| 写真23 SK21010土器出土状況(北から) | 82 |
| 写真24 SK21010土器出土状況(北東から) | 82 |
| 写真25 SK21011土器出土状況(北東から) | 83 |
| 写真26 土坑群完掘状況(北西から) | 83 |
| 写真27 土坑群完掘状況(北東から) | 83 |
| 写真28 SK21013土器出土状況(南西から) | 83 |
| 写真29 SK21014土器出土状況(北から) | 83 |
| 写真30 SK21016土器出土状況(南東から) | 83 |
| 写真31 SK21016土器出土状況(西から) | 83 |
| 写真32 SK21017完掘状況(南東から) | 83 |
| 写真33 SK21018土器出土状況(西から) | 84 |
| 写真34 SK21018土器出土状況(東から) | 84 |
| 写真35 SD21001完掘状況(北から) | 84 |
| 写真36 SP21086土器出土状況(北西から) | 84 |
| 写真37 SP21086土器出土状況(北西から) | 84 |
| 写真38 SP21086土器出土状況(北から) | 84 |
| 写真39 SP21086土器出土状況(北から) | 84 |
| 写真40 作業風景(西から) | 84 |
| 写真41 出土遺物① | 85 |
| 写真42 出土遺物② | 86 |
| 写真43 出土遺物③ | 87 |
| 写真44 出土遺物④ | 88 |
| 写真45 出土遺物⑤ | 89 |
| 写真46 出土遺物⑥ | 90 |

第1章 調査の経緯と経過

第1節 事業全体の経緯と経過

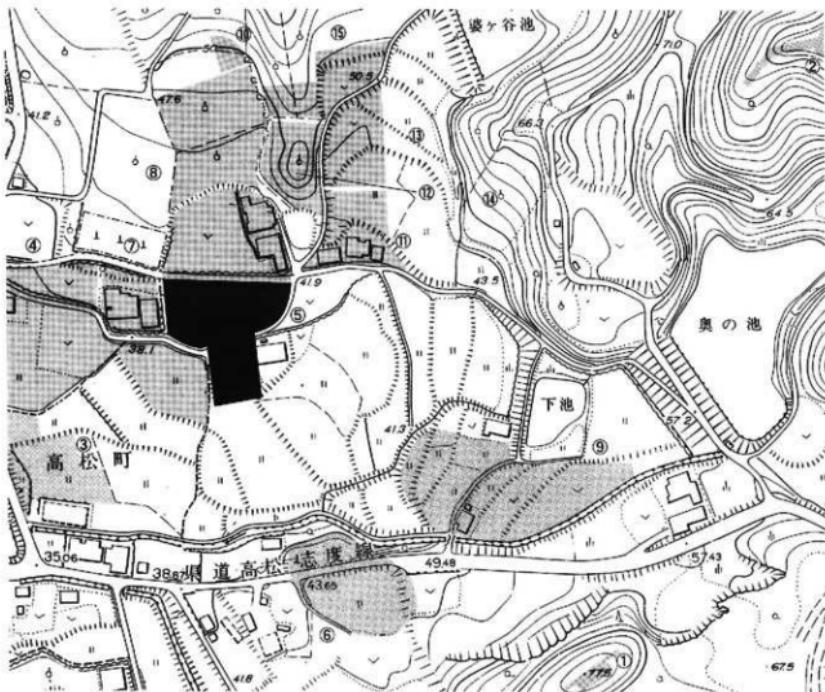
高松市では全市的なレベルでまとまった総合的なスポーツレクリエーション活動拠点として高松市東部運動公園（仮称）の整備が計画され、その基本構想・基本計画が平成5年度に策定された。運動公園整備予定地となつたのは高松市の東端の丘陵地帯で、高松町の奥ノ坊・大空・金川渓地区で、総事業面積は47.2haに及ぶ広大なものであった。整備予定地には香川県の弥生後期を代表する大空遺跡をはじめ、奥ノ坊古墳及びスベリ古墳の存在が知られており、この他にも未周知の埋蔵文化財が所在する可能性は高いと考えられた。このため工事に先立ち整備予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて都市開発部公園緑地課と協議を行い、事前に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の包蔵状況を明らかにすることを合意した。

高松市教育委員会では、平成7年度から用地買収の完了した土地について試掘調査を実施した。平成7年度には大空古墳、金川渓古墳、奥ノ坊2号墳（その後の本調査で3・4号墳も発見）を発見した。これを受け、再度都市開発部公園緑地課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、工事の前に記録保存を行うことで合意した。試掘調査はその後も継続して行い、平成9年度までに整備予定地内に203箇所のトレンチを掘削した。この調査により、周知の埋蔵文化財包蔵地であった大空遺跡、奥ノ坊古墳、スベリ古墳の3遺跡については、既にほとんど消滅しており事前の保護措置の必要がないことが判明した。一方、新たに奥の坊塚現前遺跡、奥の坊遺跡、奥の坊奥池西遺跡、大空北遺跡の4集落遺跡が発見された。新たに発見された遺跡の総面積は約30,000m²である。これらの遺跡についても順次都市開発部公園緑地課と協議を行い、工事前に記録保存を行うことで合意した。

一方、運動公園整備工事は平成9年度から洪水調整池の工事を行い、平成12年度後半から全体の造成工事を行うことが予定されていた。このため洪水調整池部分の発掘調査を早期に着手し、平成12年度前半までに全調査を終えることとした。調査対象地は遺跡総面積30,000m²のうち現遣及び現水路を除く約26,910m²とした。その後、工事計画が変更になり、平成14年度後半から全体造成工事が開始されることになり、発掘調査についても平成14年度前半まで期間を延長することとなった。このため、当初は掘削深度が深く、調査面積も広大で、調査期間も短いことから、掘削業務を委託発注して調査を実施していたが、平成11年度より比較的掘削深度の浅い部分については直営で調査を行った。また、平成15年1月には運動公園整備工事に使用する粘土を新田町久米池から採取することとなり、同地に所在する久米池遺跡についても工事に合わせて調査を実施した。

表1 東部運動公園（仮称）整備事業に伴う発掘調査経過

| 番号 | 遺跡名 | 調査区 | 調査期間 | 調査面積 (m ²) | 調査方法 | 報告書 |
|----|------------|----------|------------------------|------------------------|------|----------------|
| ① | 試掘調査 | 全域 | 1995.8.4 ~ 1997.10.8 | 2,997 | 直営 | I (1999.3刊) |
| ② | 大空古墳 | 全域 | 1996.2.14 ~ 1996.2.23 | 150 | 直営 | |
| ③ | 金川渓古墳 | 全域 | 1996.2.23 ~ 1996.3.8 | 300 | 直営 | |
| ④ | 奥の坊塚現前遺跡 | I ~ III | 1997.2.10 ~ 1997.3.24 | 1,560 | 委託 | |
| ⑤ | 奥の坊遺跡 | IV ~ VI | 1997.10.7 ~ 1998.3.13 | 5,200 | 委託 | II (2004.3刊) |
| ⑥ | 奥の坊遺跡 | III ~ IV | 1998.9.14 ~ 1999.2.19 | 4,900 | 委託 | |
| ⑦ | 大空北遺跡 | 全域 | 1999.4.16 ~ 1999.6.4 | 2,200 | 直営 | III (2004.12刊) |
| ⑧ | 奥の坊遺跡 | V | 1999.5.28 ~ 1999.7.13 | 700 | 直営 | |
| ⑨ | 奥の坊遺跡 | VI ~ VII | 1999.11.10 ~ 2000.3.3 | 2,300 | 委託 | 未刊 |
| ⑩ | 奥の坊奥池西遺跡 | 全域 | 2000.4.17 ~ 2000.7.25 | 3,600 | 直営 | |
| ⑪ | 奥の坊遺跡 | VII | 2000.10.2 ~ 2000.12.28 | 300 | 直営 | 未刊 |
| ⑫ | 奥の坊遺跡 | IX | 2000.10.5 ~ 2001.1.12 | 1,180 | 委託 | |
| ⑬ | 奥ノ坊古墳群（測量） | 全域 | 2001.6.5 ~ 2001.6.27 | - | 直営 | IV (2006.3刊) |
| ⑭ | 奥の坊遺跡 | X | 2001.8.27 ~ 2002.1.18 | 1,320 | 委託 | |
| ⑮ | 奥ノ坊古墳群 | 全域 | 2001.9.4 ~ 2001.11.28 | 1,020 | 直営 | IV (2006.3刊) |
| ⑯ | 奥の坊遺跡 | X I | 2002.4.2 ~ 2002.7.5 | 1,180 | 直営 | |
| | 久米池遺跡 | 全域 | 2003.1.8 ~ 2003.1.21 | 200 | 立会 | IV (2006.3刊) |



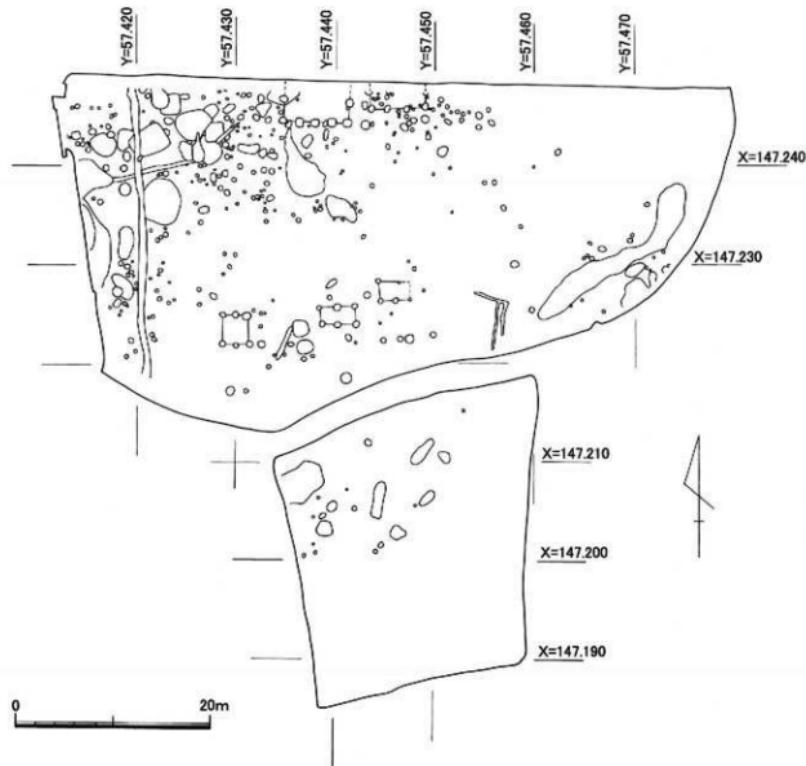
第1図 高松市東部運動公園(仮称)整備事業発掘調査地

第2節 奥の坊遺跡の発掘調査の経緯と経過

運動公園予定地内では、平成7年度から用地買収の進捗状況に応じて試掘調査を実施してきた。奥の坊遺跡は平成8年度の試掘調査によりその所在が明らかになったもので、遺跡は事業地の南斜面一体に広がりを見せ、その面積は約12,000m²にのぼることが判明した。

遺跡の南西部が洪水調整池工事予定地内に含まれ、平成11年度工事着手予定であったことから、平成10年度末までの発掘調査が望まれた。また、運動公園全体の造成が平成12年度下半期に予定されていたことから、その他の部分についても早期の調査が望まれた。都市開発部公園緑地課と協議を行った結果、遺跡の南西部を平成10年度、北東部を平成11年度で調査を実施することで合意した。しかしながら、平成9年度において、一部事業計画の変更があり、洪水調整池は平成12年度、造成は平成14年度下半期着手となることが決定したことから、平成10年度から5ヵ年をかけて発掘調査を実施することになった。また、調査費用軽減のため一部直営方式により調査を実施した。10年度にI～IV区、11年度にV～VII区、12年度にVIII・IX区、13年度にX区、14年度にXI区の調査を実施した。

本報告書で掲載したI・II区を含むI～IV区の調査は、平成10年9月14日～11年2月19日に実施した。調査面積は4,900m²である。



第2図 奥の坊遺跡I・II区平面図

第3節 整理作業の経過

東部運動公園（仮称）整備に伴う発掘調査は平成14年度まで行われた。このため、各調査年度の翌年度に土器洗浄や接合等の基礎整理を行うのみで、本格的な整理作業は全調査終了後の平成14年度後半から実施した。

奥の坊遺跡I・II区の整理作業は、平成11年度において基礎整理を実施し、本格的な整理作業は平成18年1月から12月において実施した。以下に工程表を掲載する。

表2 奥の坊遺跡I・II区整理作業工程表

| | 平成11年度 | 平成17年度 | | | 平成18年度 | | | | | | | | | |
|-------|--------|--------|----|----|--------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|--|
| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | |
| 基礎整理 | | | | | | | | | | | | | | |
| 実測 | | | | | | | | | | | | | | |
| トレイス | | | | | | | | | | | | | | |
| レイアウト | | | | | | | | | | | | | | |
| 報告書編集 | | | | | | | | | | | | | | |

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

高松市は香川県のほぼ中央に位置し、瀬戸内海に面している。高松市域の大部分は高松平野によって占められている。平野の境界を画する低位山塊及び屋島、紫雲山等の独立山塊は、侵食の容易な花崗岩層（三豊層群）が風化侵食に抵抗の強い安山岩層に覆われていたことによって侵食開拓から取り残されて形成されたメサまたはビュートと呼ばれるもので、讃岐のどかな田園風景の象徴の一つである。

高松平野は四国中央部に東西に連なる讃岐山脈に端を発する中小河川により形成された沖積地である。高松平野には、西から本津川、香東川、春日川、新川といった河川が瀬戸内海に向けて北流している。本調査区の位置する古高松（高松町・新田町・春日町）は、この中の春日川、新川にはほど近い地域である。春日・新川の両河川は水量に乏しく、平野中央部を流れる香東川のように大規模な扇状地は見られない。また、古高松の北部は、江戸時代初期の干拓により陸地化されたものであり、寛永10（1633）年の『讃岐国絵図』によると、その頃の海岸線はかなり内陸に入り込んでおり、屋島は島として描かれている。北を屋島に面した海岸（旧地形による）、東を立石山山塊、南を久米山丘陵、西を春日川によって限られた高松平野北東部の一角は、古代・中世を通じて「高松」（讃岐国山田郡高松郷）と呼ばれたが、天正16（1588）年の生駒親正による高松城築造以後は、城下高松に対して「古高松」と呼称されてきた。江戸時代以前の古高松の地形が推定可能な史料として香西成資が古老の話を元に享保4（1719）年に編纂した『南海通記』がある。その中に天正10（1582）年頃の地形として「…春日ノ里ニ至ル、此所ハ屋島山、右清尾山兩受ノ間、入海ニテ山田郡小山ノ下マ瀬サシ来ル、遠干湯ナ春日里ト木太郷ノ間、海ノ中道アツテ通用ス。…」との記述がある。ここでいう小山とは、現在の高松市新山町小山にあたると考えられ、この小山近辺まで海岸線あるいは河口が湾状に入り込んでいたと想定できる。

東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として発掘調査が行われた「奥ノ坊」は高松町の東端にあたり、地形的には旧高松市と旧牟礼町（現高松市牟礼町）にまたがる標高100～200mの山塊の、西側低丘陵地の尾根及び谷部に位置する地域である。現在はかなり内陸的な様相を示すが、上記の推定海岸線から考えると海岸から1～1.5kmと非常に近かったと推測される。

第2節 歴史的環境

高松平野では、昭和60年代以降、高松東道路建設、太田第2土地区画整理事業、高松空港跡地再開発などの大規模プロジェクトに伴い発掘調査件数が増大したことによって遺跡数は飛躍的に増大し、高松平野の形成過程や集落の様相が次第に明らかになってきている。今回の発掘調査事業地は高松平野の東部にあたり、平野北西部に位置する石清尾山塊と共に遺跡の多い地帯として早くから認識してきた地域である。

当事業地周辺の遺跡の大部分は弥生時代から古墳時代にかけてのものであるが、旧石器・縄文時代の遺物・遺構も若干知られている。旧石器時代については、本格的な遺構は知られていないが、久米池南遺跡（東山崎町）においてナイフ型石器が出土している。縄文時代については、小山・南谷遺跡において落とし穴状の土坑が14基検出されているほか、旧河道中から縄文土器が出土している。当事業地においても奥の坊奥池西遺跡において落とし穴と考えられる遺構が検出され、縄文土器が出土しており、小山・南谷遺跡との関連が注目される。一方、平野中央部の発掘調査においては旧河道からの晩期の上器の出土例は多いが、井手東I遺跡において地表面下約70cmからアカホヤの堆積層が確認されていることが特筆される。

弥生時代前期の遺跡としては、平野中央部では二重の環濠が検出された汲汲遺跡等が知られているが、平野東部では現在のところ発見されていない。中期前半では当事業で確認された奥の坊遺跡が知られている。南向きの緩斜面に営まれた集落で、多量の土器・石器に伴い分銅形土製品や擬朝鮮系無文土器等も出土している。また、丘陵部を東に越えた羽間遺跡では細形銅劍が出土している。中期後半では久米山東側丘陵上に立地する高地性集落の久米池南遺跡がある。後期前半では既に消滅してしまったが、香川県の弥生時代後期前半の標式土器が出土したことで知られる大空遺跡が当事業地内に所在した。また、

当事業地内の奥の坊境現前遺跡をはじめ、スベリ山南遺跡、南谷遺跡、小山・南谷遺跡がある。いずれの遺跡においても製塙十器が多量に出土することが知られている。後期後半では漆を採取していたと考えられる原中村遺跡があげられる。

古墳時代の集落遺跡は周辺では見られず、平野中央部においてあまり知られていない。一方、古墳は多く築造されている。高松平野では積石塚として有名な石清尾山古墳群があるが、平野東部では盛土古墳しか見られない。平野東部では諏訪神社古墳が古式の古墳であることが知られている。また、前期の高松市茶臼山古墳は全長60mの前方後円墳で、後円部には竪穴式石室が2箇所設けられており、第1主体からは鍵形石2点、画文帶神獸鏡1点などが出土している。中期では屋島の北端に所在する長崎鼻古墳において、阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が出土している。後期では副室構造の小山古墳、天井石が巨大な1石の石材で構築された山下古墳、T字型の石室を持つ瀧本神社古墳等特異な古墳が多い。中でも香川県で唯一石棚を持ち、畿内型の亀甲型陶棺を埋葬主体とし、承盤付銅鏡を副葬する久本古墳の存在は特筆できる。この他、小規模な長尾古墳群、岡山古墳群、岡山小古墳群、塗谷古墳群、平尾古墳群といった群集墳も見られる。当事業地においても、奥ノ坊古墳群、大空古墳、金川洞古墳の調査が実施されているが、いずれも損壊が著しく、詳細は不明である。

古代の遺跡では、「日本書紀」にも記載されている古代山城屋島城の存在が知られている。近年の調査で城門遺構や石垣が検出されている。また新田本村遺跡と小山・南谷遺跡では高松平野の条里地割に先行し、方向の異なる条里地割が発見されている。この先行条里地割が当事業地内の奥の坊境現前遺跡及び奥の坊遺跡においても確認されている。古代寺院としては山下庵寺がある。古式の瓦を出土していることが知られているが、発掘調査は行われていないので詳細は不明である。また屋島北嶺の千間堂において10~11世紀と考えられる礎石建物及び集石遺構が検出されており、屋島寺の前身遺構と考えられている。

中世に入ると高松平野でも武家の台頭が目立つ。特に中央政権との関わりも多く、数多くの戦いが行われている。まず、源氏と平氏が屋島で戦い、那須守・や佐藤継信の戦いぶりが『平家物語』によって今日まで伝えられている。南北朝期には讃岐の守護となつた高松(舟木)頼重が喜岡城を築城するが、北朝方の細川定祥の攻撃により落城した。その後喜岡城は秀吉の四回征伐時に落城している。中世の遺構としては、中世末~近世初頭にかけての溝で区画された屋敷が検出された川南・西遺跡があげられる。当事業地内では中世の遺物は出土するものの、遺構としては奥の坊奥池西遺跡において溝が検出された程度である。

近世の遺跡としては、近年高松城周辺で数多くの調査が実施されており、武家屋敷等が検出されている。平野東部では、東山崎・水山遺跡や川南・東遺跡等の農村が見られる。当事業地内では奥の坊遺跡において一部近世の屋敷地を検出しているにすぎない。

参考文献

- 古高松郷土誌編集委員会 1977『古高松郷土誌』
藤井雄二・山本英之 1989『久米池南遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会
藏本晋司・森下友子 1992『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1回 東山崎・水田遺跡』香川県教育委員会
片桐孝浩 1994『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡 平成5年度』香川県教育委員会
山元敏裕 1995『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4回 井手東1遺跡』高松市教育委員会
片桐孝浩 1997『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡II』香川県教育委員会
大嶋和則 1999『高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1回 奥の坊遺跡群I』高松市教育委員会
大嶋和則 2000『都市計画道路空町新田緑道文化財発掘調査報告 第2回 川南・東遺跡』高松市教育委員会
木下啓・2000『県道高松志度線緊急整備工事および県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 屋中村遺跡』香川県教育委員会
山元敏裕 2003『史跡天然記念物屋島-史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書I-』高松市教育委員会
大嶋和則 2004『高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2回 奥の坊遺跡群II』高松市教育委員会
大嶋和則 2004『高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3回 奥の坊遺跡群III』高松市教育委員会
大嶋和則 2004『高松市指定史跡 久古古墳』高松市教育委員会
大嶋和則 2006『高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4回 奥の坊遺跡群IV』高松市教育委員会
山元敏裕・末光正平 1999『郡山計画道路室町新田緑道文化財発掘調査報告 第1回 川南・西遺跡』高松市教育委員会
中西克也 2006『都市計画道路室町新田緑道文化財発掘調査報告 第3回 新田本村遺跡』高松市教育委員会



第3図 周辺遺跡分布図 (S = 1/25,000)

- | | | | | |
|------------|----------|--------------|-------------|--------------|
| 1 奥の坊權現前遺跡 | 2 奥の坊遺跡 | 3 大空北遺跡 | 4 奥の坊奥池西遺跡 | 5 奥ノ坊1号墳(消滅) |
| 6 奥ノ坊2~4号墳 | 7 金川湖古墳 | 8 大空古墳 | 9 スベリ古墳(消滅) | 10 大空遺跡(消滅) |
| 11 大空南遺跡 | 12 屋嶋城跡 | 13 喜岡城(高松城)跡 | 14 羽間遺跡 | 15 長尾1号墳 |
| 16 長尾2号墳 | 17 長尾3号墳 | 18 南谷遺跡 | 19 小山・南谷遺跡 | 20 新田本村遺跡 |
| 21 小山古墳 | 22 山下古墳 | 23 山下庵寺 | 24 久木古墳 | 25 岡山小古墳群 |
| 26 岡山古墳群 | 27 漆谷古墳群 | 28 久米池遺跡 | | |

第3章 調査の成果

第1節 I区の調査

(1) 調査地の概要と基本層序 (第4~7図)

調査区は奥の堀跡線の南端に位置する。なお、I区の南側には北東から南西方向に流れる旧河道が所在したことが、試掘調査で判明している。調査地も北東から南西方向にかけて傾斜が見られ、現地表面の標高は38.5~39.6mである。

調査に際しては、調査区の北壁と東壁において土層観察を行った。北壁部分では、概ね近世以降の耕作土層及び客土層が50cm堆積しており、その直下でいぶい黄橙色細砂~粗砂層の地山となっている。東壁では、北壁同様に近世以降の耕作土層及び客土層(第7図1~14層)が50cm堆積しており、北部ではこの直下で地山となる。南部では以下に遺物を包含する褐灰色シルト質極細砂層(第7図34層)、黒褐色砂泥粘土層(第7図34層)が堆積し、その下層において地山となる。地山も北東から南西にかけて緩やかに傾斜しており、標高37~38.5mである。

遺構面は、遺物包含層上面と地山上面の2面で検出した。遺物包含層上面で検出した遺構面を第1遺構面、地山直上で検出した遺構面を第2遺構面として調査を行った。第1遺構面では掘立柱建物跡1棟、土坑2基、旧河道1条、ピット等を検出し、その出土遺物から概ね近世以降の遺構面と考えられる。第2遺構面では、北半のみに遺構が集中するが、竪穴住居跡1棟、土坑7基、ピット等を検出し、その出土遺物から概ね弥生時代中期前半の遺構面と考えられる。

(2) 第2遺構面の遺構

SK12001 (第8図)

調査区北西端で検出した竪穴住居跡である。西辺は調査区外に延びるが、平面形態は不整形な隅丸方形を呈し、長辺4m以上、短辺3.5m、深さ22cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。床面において直径15~90cm、深さ5~20cmの円形のピット15基を検出したが、いずれが主柱穴になるかは不明である。また、中央部から西に延びる幅28cm、長さ184m以上、深さ5cmの用途不明の溝を検出した。ピット及び溝の埋土はすべて竪穴住居埋土と同じ黒褐色砂泥粘土である。出土遺物は弥生土器の小片のみであり、遺構の詳細な時期は不明であるが、周辺の遺構の時期から弥生時代中期前半と考えられる。

SK12001 (第9図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長辺3.04m、短辺1.06m、深さ17cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12002 (第10図)

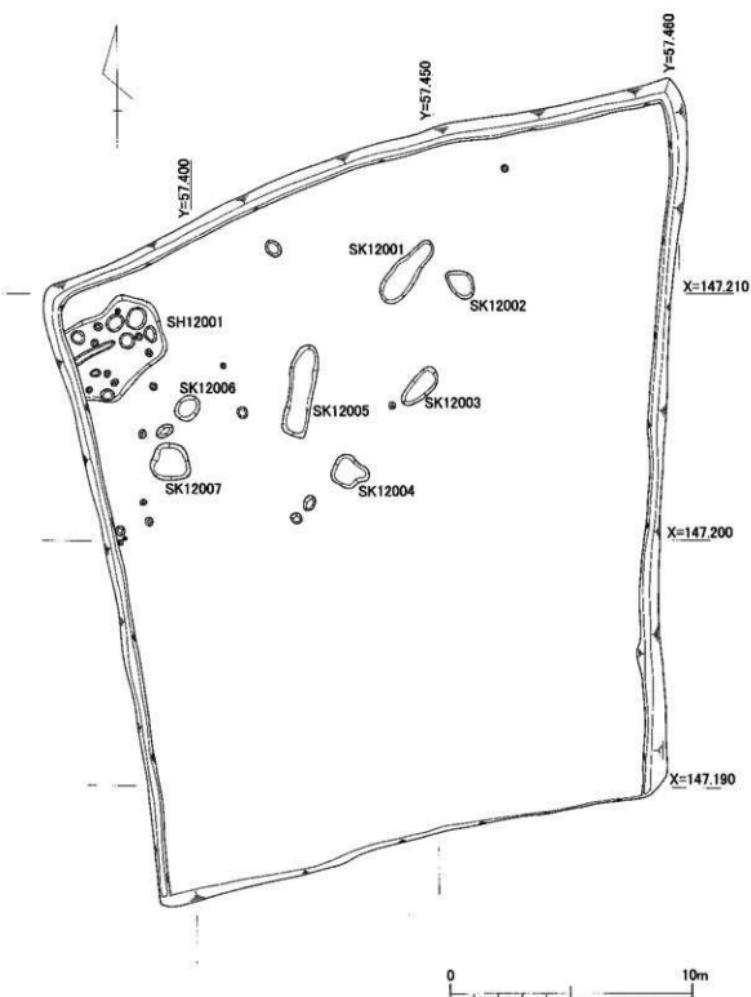
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面形態は梢円形を呈し、長径1.34m、短径1.01m、深さ12cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12003 (第11図)

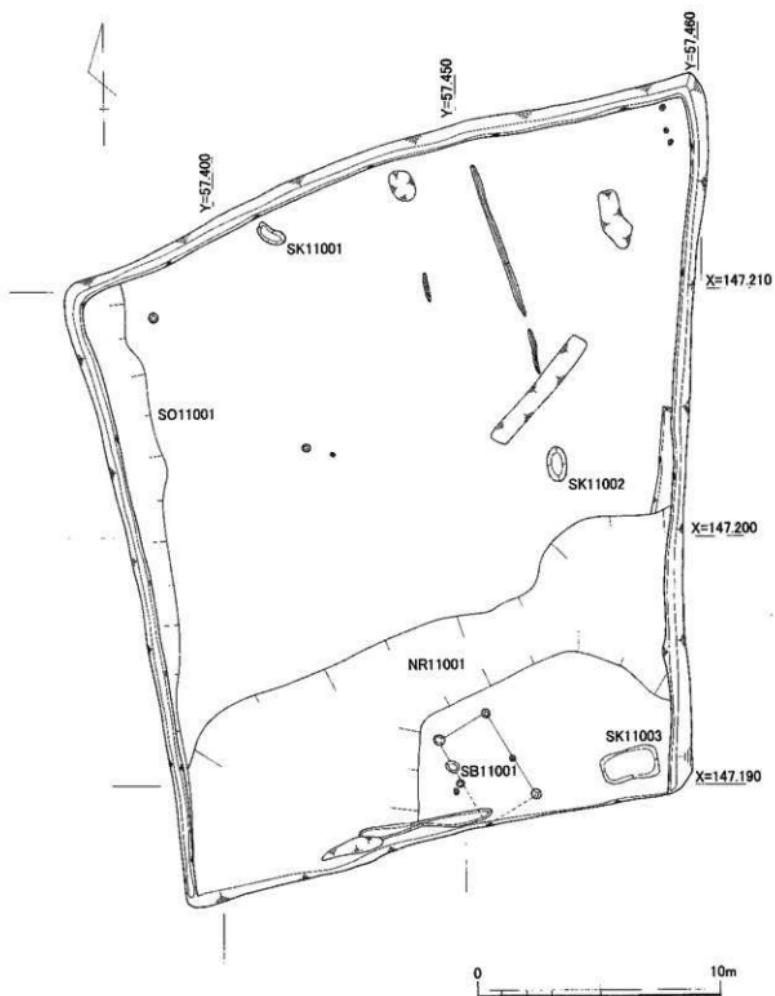
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面形態は梢円形を呈し、長径1.87m、短径90cm、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12004 (第12図)

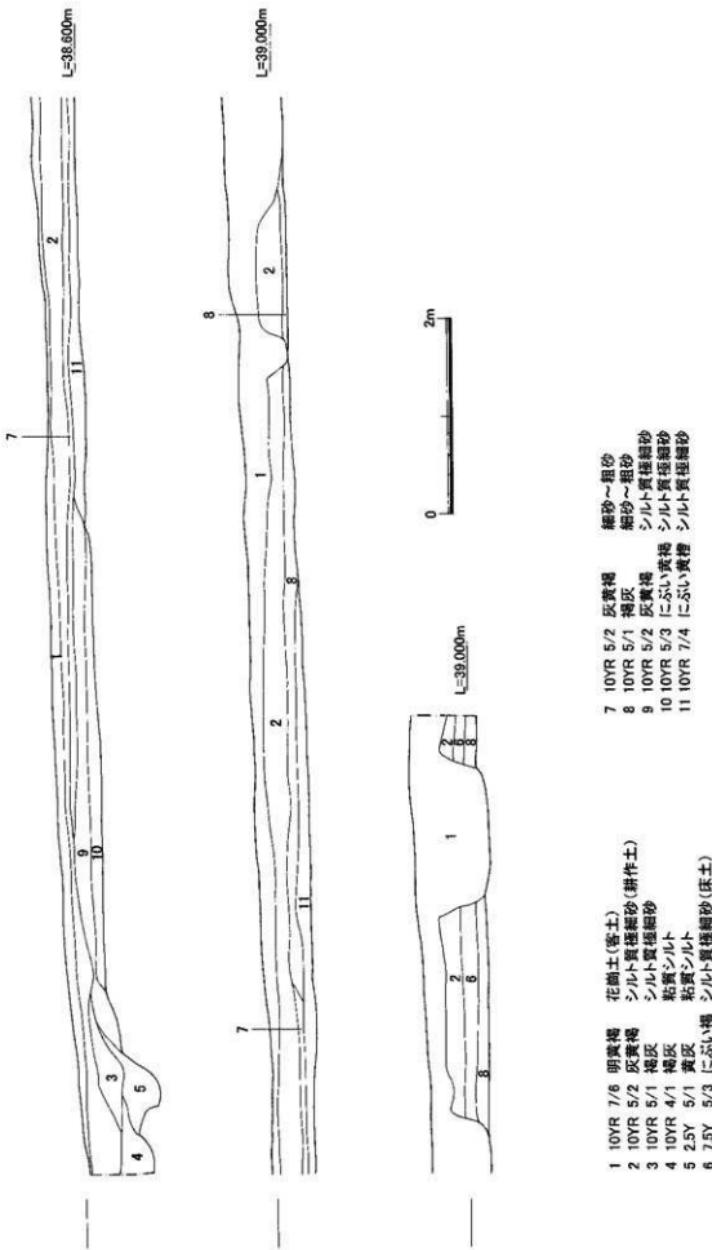
調査区の中央で検出した土坑である。平面形態は不整形な隅丸方形を呈し、長辺1.52m、短辺1.31m、深さ21cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。遺物は出土してお



第4図 I 区第2面調査地平面図 ($S = 1/200$)



第5図 I区第1面調査地平面図 (S = 1/200)



第6図 I区北壁土層断面図 (S=1/50)

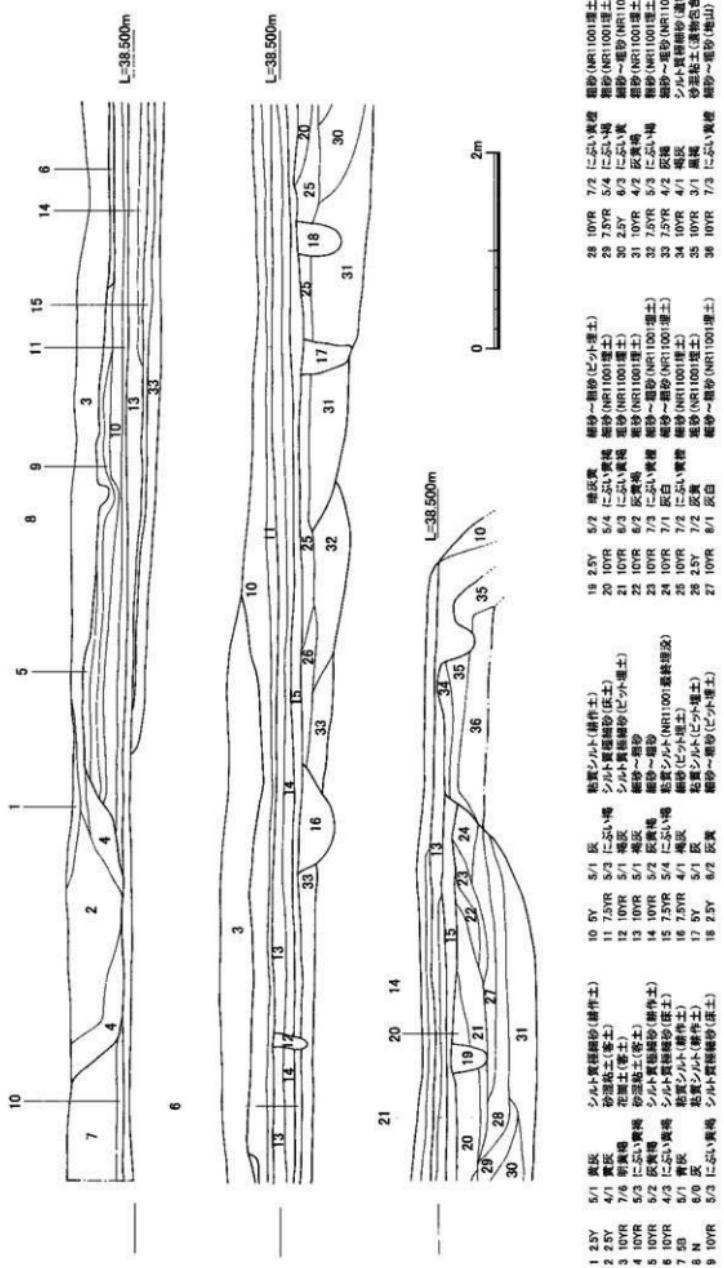


図7-1 東盤土層断面図 (S=1/50)

らず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12005 (第 13・14 図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長辺 3.75m、短辺 1.08m、深さ 17cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘土の単層である。

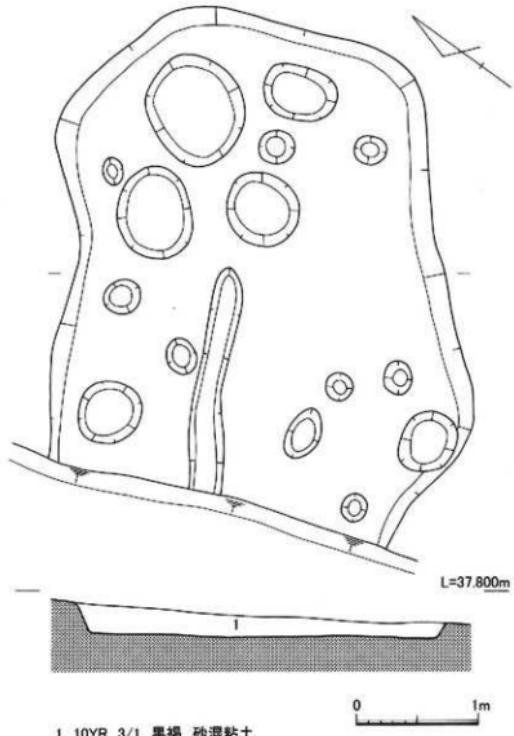
出土遺物は第 14 図 1 の弥生土器底部 1 点のみである。出土遺物から弥生時代中期の遺構と考えられる。

SK12006 (第 15 図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は梢円形を呈し、長辺 1.13m、短辺 90cm、深さ 15cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12007 (第 16 図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺 1.64m、短辺 1.48m、深さ 36cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は 2 層に分層できる。土坑の西側は黒褐色砂混粘土、東側は灰黄褐色細砂である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。



第8図 SH12001平・断面図

(3) 第 1 遺構面の遺構

SB11001 (第 17 図)

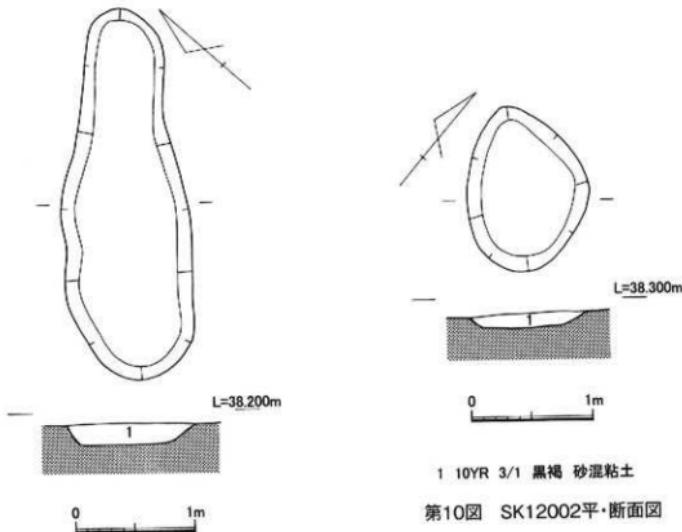
調査区の南部中央で検出した掘立柱建物跡である。東西 1 間 (2.33m) × 南北 2 間 (3.97m) で、主軸方位は N - 32° - W である。建物を構成する柱穴は径 20 ~ 42cm の円形ないし梢円形を呈し、深さ 8 ~ 20cm である。柱穴埋土はすべて灰白色シルト質極細砂の単層である。遺物は出土していないが、南北方向の柱間は、概ね 6 尺 5 寸を 1 間としていることから、近世の遺構と考えられる。

SK11001 (第 18 図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は梢円形を呈し、長辺 1.21m、短辺 54cm、深さ 20cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰白色シルト質極細砂の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

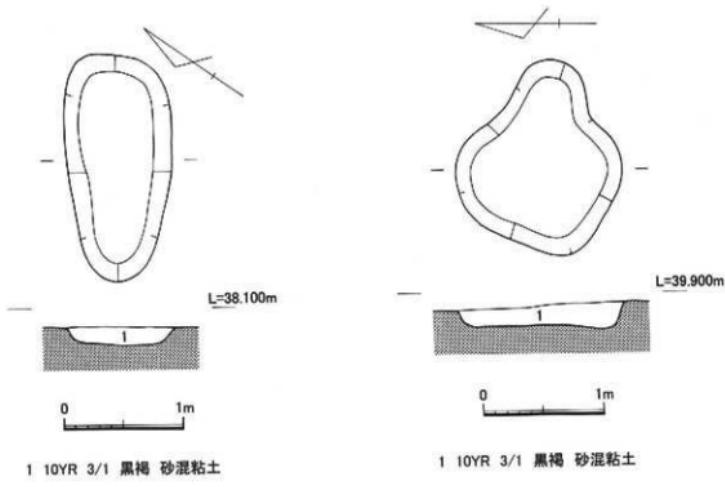
SK11002 (第 19・20 図)

調査区の東部中央で検出した土坑である。平面形態は梢円形を呈し、長辺 1.39m、短辺 77cm、深さ 8cm を測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は灰白色シルト質極細砂の単層である。



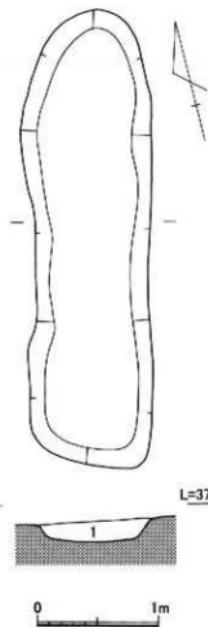
第10図 SK12002平・断面図

第9図 SK12001平・断面図



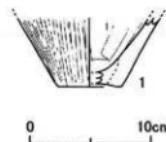
第11図 SK12003平・断面図

第12図 SK12004平・断面図

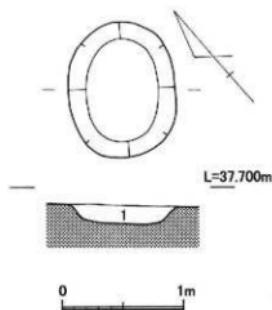


1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘土

第13図 SK12005平・断面図

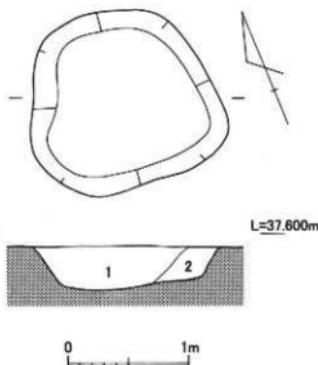


第14図 SK12005出土遺物実測図



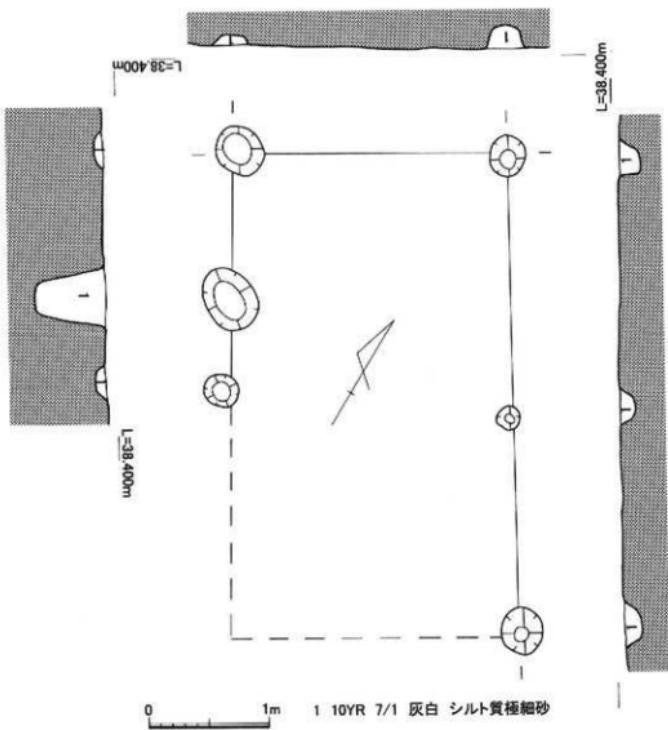
1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘土

第15図 SK12006平・断面図

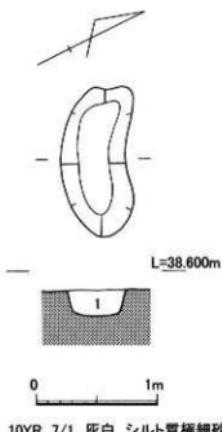


1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘土
2 10YR 4/2 灰黄褐 細砂

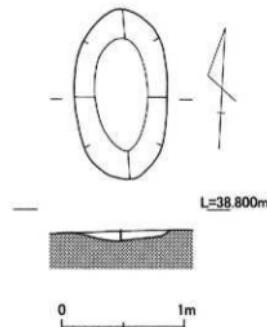
第16図 SK12007平・断面図



第17図 SB11001平・断面図



第18図 SK11001平・断面図



第19図 SK11002平・断面図

出土遺物は第20図2の亀山焼の壺1点のみである。頸部の屈曲は弱く、短い口縁部は端部をやや上方に拡張させている。外面は格子目タタキのち頸部のみ粗いタテハケ、内面は粗いヨコハケである。出土遺物から中世末～近世前半の遺構と考えられる。

SK11003 (第21図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面形態は隅丸長方形を呈し、長辺2.37m、短辺1.31m、深さ34cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。第1層は褐灰色砂混粘土、第2層はにぶい黄色粗砂、第3層は黒褐色砂混粘土である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

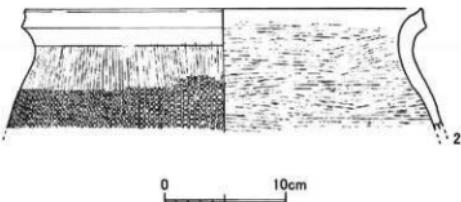
SO11001 (第5・22図)

調査区の西端で検出した落ち込みである。西側が調査区外のため不明であるが、西側へ徐々に下がっている。埋土は青灰色砂混粘土の単層である。調査区の西側は、現地表面で約1mの段差があることから、旧地形の段差と考えられる。

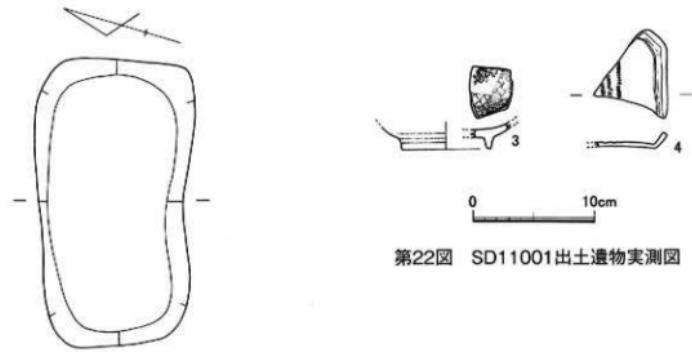
出土遺物は第22図に掲載した。3は肥前系磁器の碗である。染付けは銅版転写によるものである。4は産地不明陶器の卸し具である。出土遺物から近代以降の遺構と考えられる。

NR11001 (第5・7図)

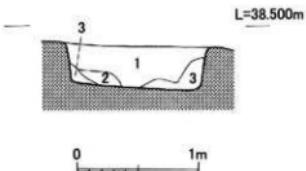
調査区の南部で検出した旧河道である。東から南西に向かって流れしており、最大幅9.5m、深さ1mを測る。埋土は15層に分層できたが、3層に大別できる。最終埋没層である上層はにぶい褐色粘質シルト(第7図15層)である。中層は細かく細分できるが、灰白からにぶい黄褐色の細砂から粗砂(第7図20～30層)である。下層は、厚い堆積であり、にぶい褐色から灰黄褐色の細砂から粗砂である。陶磁器の小片が出土していることから、近世以降の遺構と考えられる。



第20図 SK11002出土遺物実測図



第22図 SD11001出土遺物実測図



1 10YR 5/1 褐灰 砂混粘土
 2 2.5Y 6/4 にぶい黄 粗砂
 3 10YR 3/1 黒褐 砂混粘土

第21図 SK11003平・断面図

第2節 II区の調査

(1) 調査地の概要と基本層序 (第23～25図)

II区は奥の坊遺跡の南部に位置する。現地表面はほぼ平坦面で、標高は40.5mである。調査に際しては、調査区の北壁において土層観察を行い、第24・25図に掲載した。第1～4層は現代の耕作土及び床土であり、調査区全体に30～50cmの堆積が認められる。調査区の東半はこの直下で地山にぶい黄色の粗砂層となっている。地山は近世以降の耕作により、階段状になっている部分もあるが、北東から南西にかけて緩やかに下っており、標高38.5～40.2mである。このため、西半は堆積が厚くなり、地山との間に第5層の灰黄褐色砂泥粘質土と第6層の黒色砂泥粘質土層が認められる。第6層は、弥生土器・土師器・須恵器・石器を多量に包含する遺物包含層である。

遺構面は、第5層上面と地山上面の2面検出したが、第5層上面の遺構は希薄で、近世以降の遺構と考えられたことから、地山上面の1面のみの調査を行った。堅穴住居跡3棟、掘立柱建物跡5棟、土坑28基、溝6条、ピット多数を検出した。遺構面の時期は出土遺物から概ね弥生時代中期前半～古代であるが、南東部では包含層が所在せず、近世の遺構も検出した。東半は近世以降の耕作により削平を受けたためか、遺構は希薄であり、西半に集中する。

(2) 包含層出土遺物 (第26～33図)

包含層からは多量の土器・石器が出土した。II区の北側の調査（III・VI・VII区）において、緩斜面に集落の中心部が所在することが判明しており、これらの集落中心部から流れ込んできたものと推定される。出土遺物の時期は弥生時代中期前半、7～8世紀の2時期に限定できる。

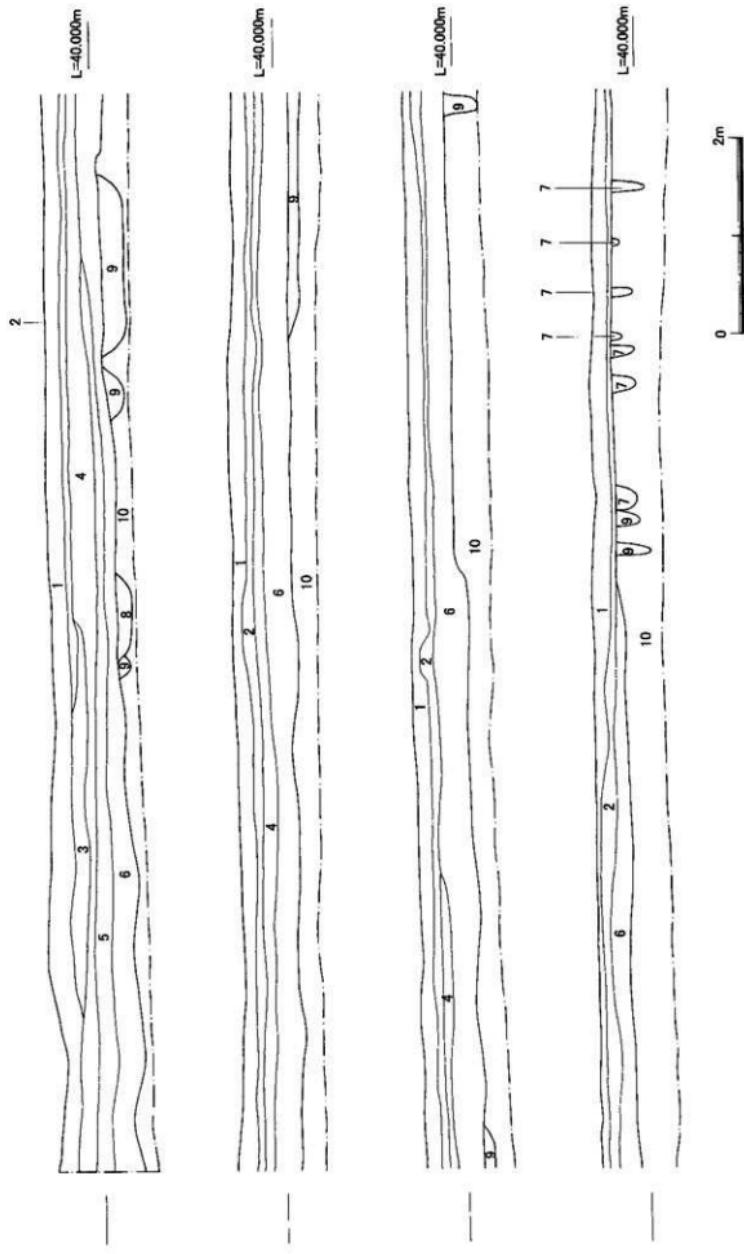
出土遺物は第26～33図に掲載した。5～25は弥生土器の甕である。5は如意状口縁で、外面はタテハケ後下半のみタテヘラミガキ、内面はヨコヘラミガキである。体部外面に多条の櫛描直線文を施し、その最下段に波状文を施している。6は口縁部を強く折り曲げ、逆L字状に仕上げている。外面ナデ、内面指頭圧である。体部外面に4本一束の櫛描直線文を6条施し、その最下段に櫛描波状文を施している。7はくの字に近い口縁で多条の櫛描直線文を施している。8は如意状口縁で、外面に多条の櫛描直線文を施している。9は如意状口縁で、口縁端部に刻目を施している。10～15は施文が見られない甕である。10は逆L字状口縁である。11～13・16・21・24・25は如意状口縁である。14・15・17～20・22・23はくの字口縁である。26・27は弥生土器の鉢である。いずれも如意状口縁で施文は見られない。28は弥生土器の蓋である。29～37は弥生土器の広口壺である。29は頸部内面に2条の突帯を貼り付けるものである。30は外反しながら口縁部を大きく開くもので、口縁端部を上下に拡張させ、端面に山形文を施している。外面はタテハケで、内面に櫛描波状文を施している。31は外反しながら口縁部を大きく開くもので、口縁部を上下に拡張させ、端面に斜格子文を施している。外面タテハケ、内面ヨコヘラミガキである。口縁部内面には3条の櫛描波状文を施している。32は外反する口縁部の端部を下方に拡張させ、端面に斜格子文を施している。外面タテハケ、内面ヨコハケである。33はほぼ水平に開く口縁部を持ち、端面に刻目を施している。34は小型品で、外面タテハケ、内面ヨコヘラミガキである。口縁端部に斜格子文、頸部に櫛描直線文を施している。35は口縁部の外反が少ないもので、口縁端部に刻目を施している。36は体部から強く屈曲させ口縁部を作っている。外面ナデ、内面板ナデである。37は体部からほぼ垂直に直立する頸部を持ち、口縁部を外方に屈曲させるものである。内外面とも指頭圧である。38～41は弥生土器の無頸壺である。38は外面に櫛描直線文を施している。39は櫛描直線文2原体と櫛描波状文1原体を交互に施している。40・41は体部片である。40は櫛描波状文と櫛描直線文を交互に施した後、円形浮文を貼り付けている。内面は指頭圧である。41は櫛描直線文を3条施し、1段目と2段目の櫛描直線文間は櫛描波状文を施し、2段目と3段目の間は櫛原体によって縦方向に区画している。内面は板ナデである。42～44は弥生土器の鉢である。いずれもバケツ型を呈するものと考えられる。42は外面に櫛描直線文と櫛描波状文を施している。外面ナデ、内面指頭圧である。43は櫛描直線文を施しており、焼成後口縁部に円孔を穿っている。44はマメツが著しいためか、文様は見られない。45～63は弥生土器の底部である。外面の調整はタテヘラミガキが主体を占めるが、50・54は板ナデ、55はタテハケである。内面の調整については指頭圧や指頭ナデによるものが多い。63は底面から底部外面に向けて2個1対の穿孔が2方向にあるもので、蓋の可能性も考えられる。これらの土器は概ね弥生時代中期前半の遺物と考えられる。

64・65は上師器の壺である。64はくの字に屈曲する口縁である。65は頸部の屈曲が弱く、口縁端部

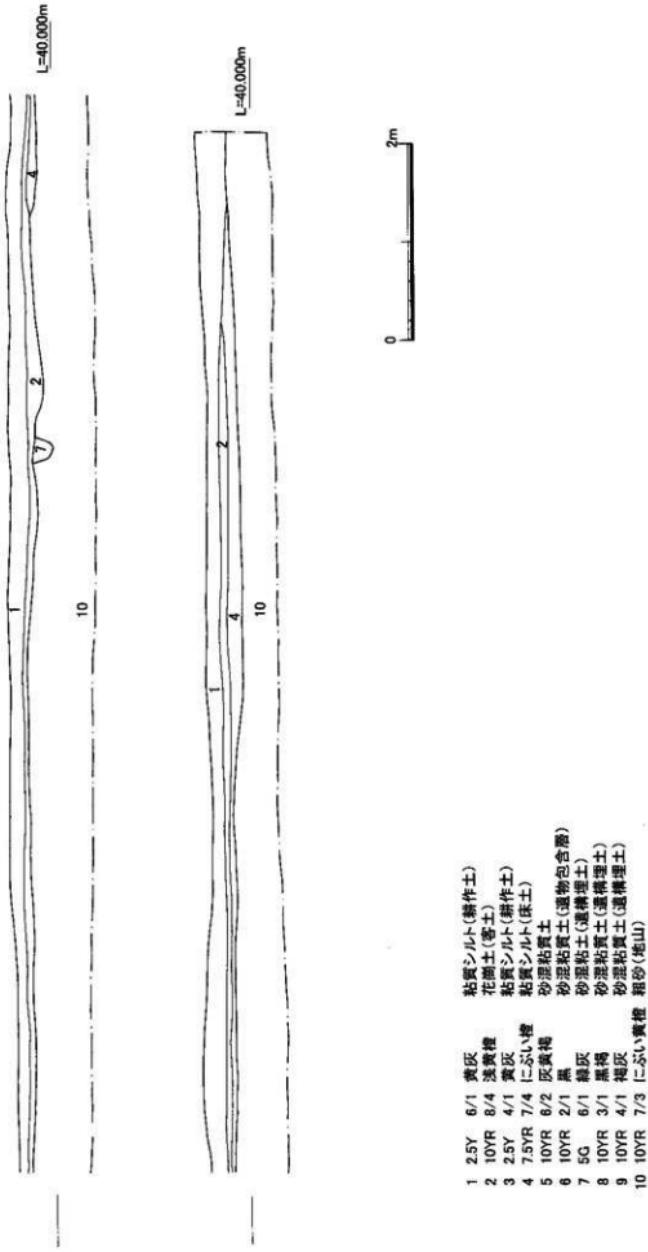


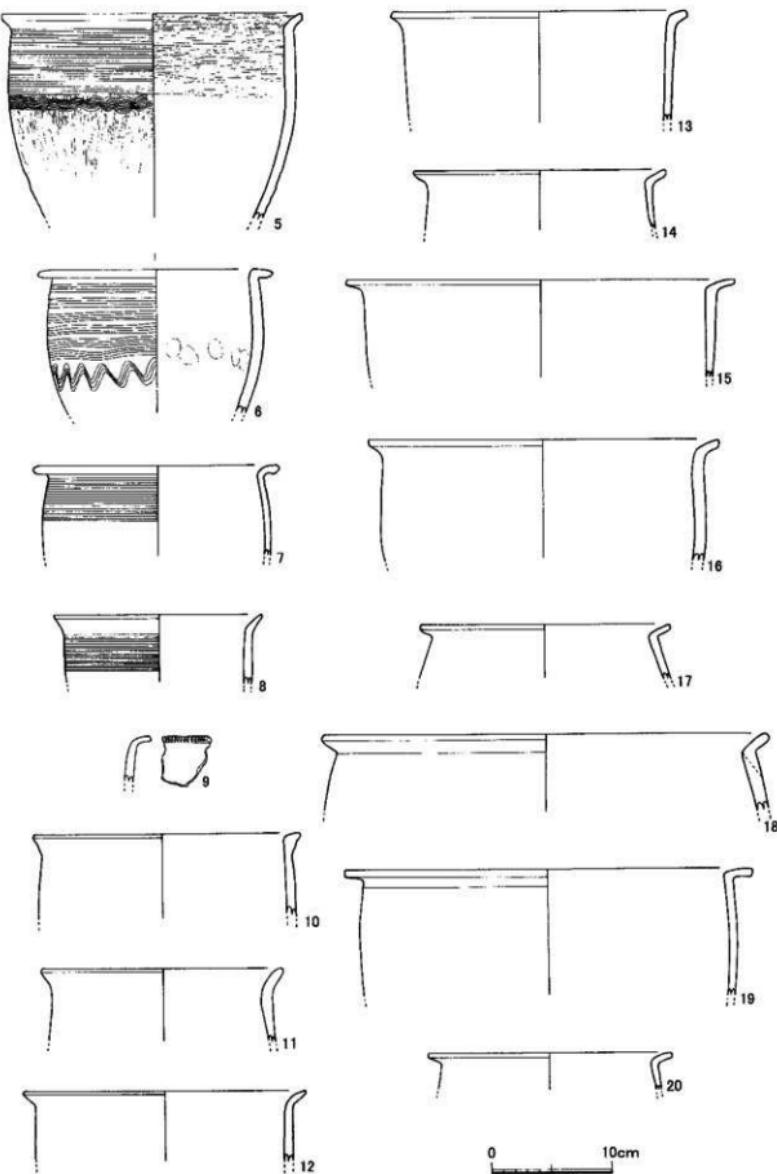
第23図 II区遺構平面図 (S=1/200)

第24図 II区北壁土壠断面図①(S=1/50)

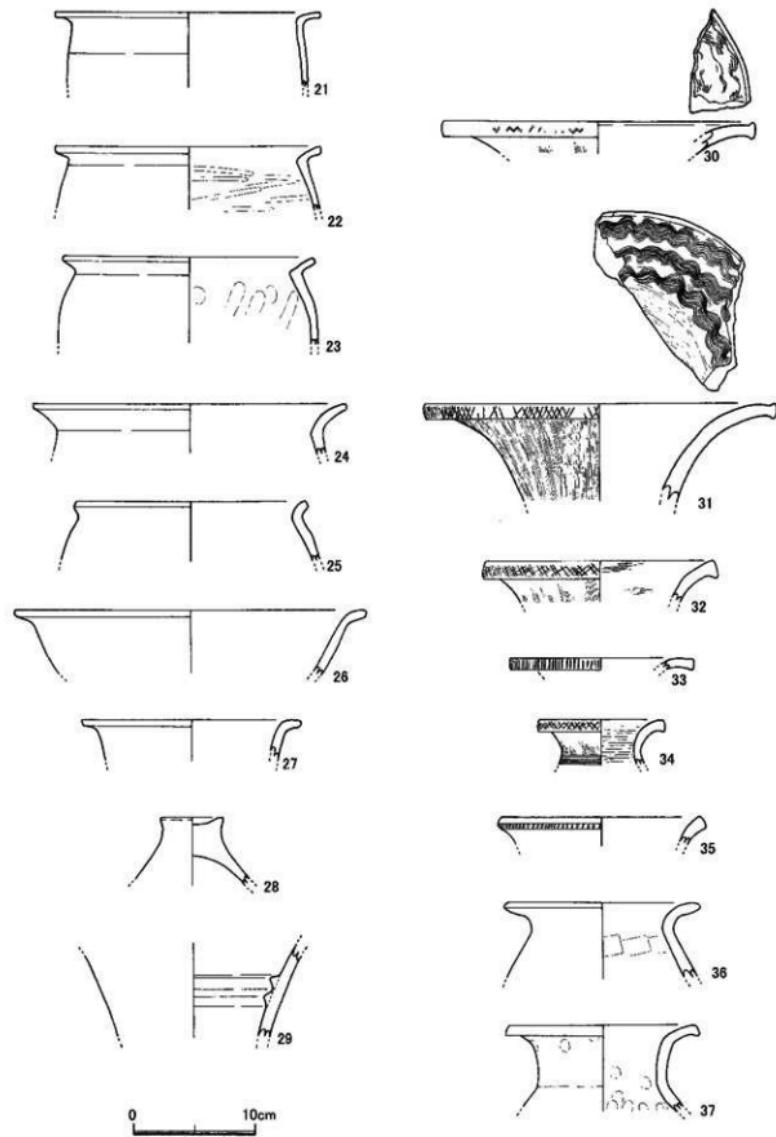


第25図 II区北壁土層断面図②(S=1/50)

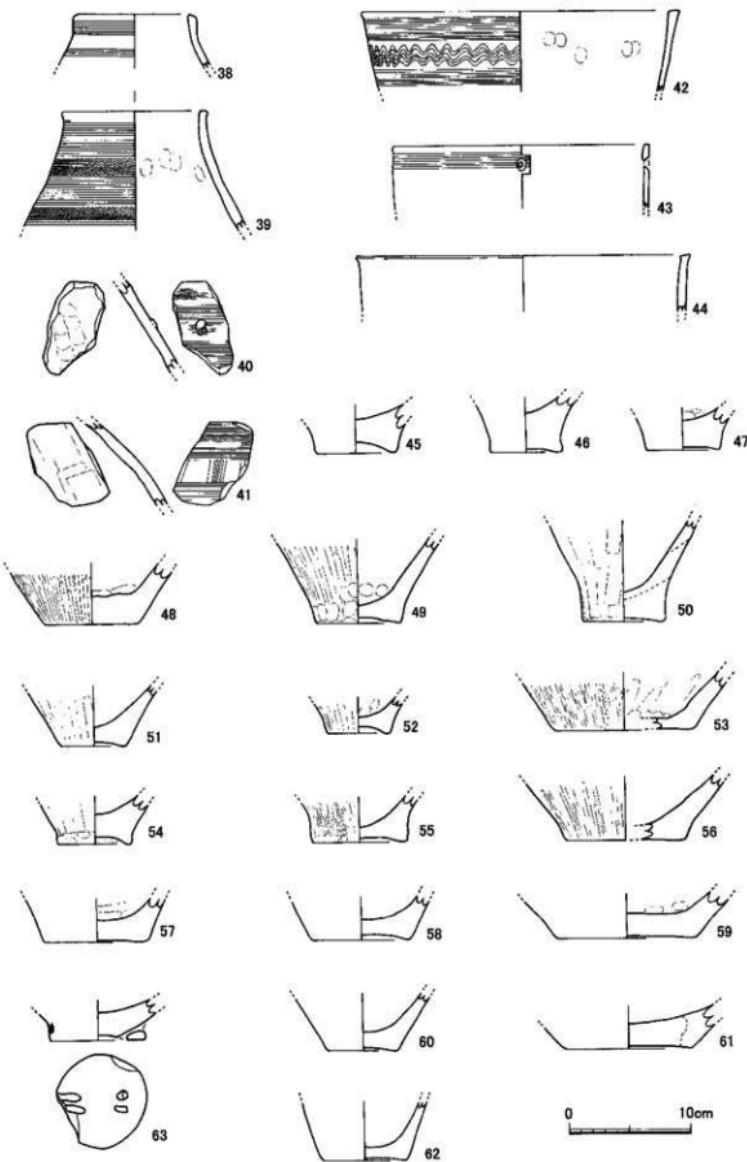




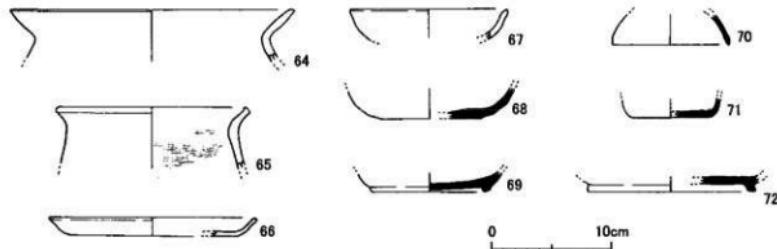
第26図 包含層出土遺物実測図①



第27図 包含層出土遺物実測図②



第28図 包含層出土遺物実測図③



第29図 包含層出土遺物実測図④

をやや拡張させ、面を持つ。内面は粗いヨコハケである。66は上部器の皿である。内外面ともナデである。67は土師器の壺である。内外面ともナデである。68・69は須恵器の壺である。焼成不良のため土師質となっている。68は塊状を呈し、69は高台を持つ。70は須恵器の蓋である。小型で、残存部に回転ヘラケズリは認められない。71・72は須恵器の壺である。71は塊状を呈し、72は高台を持つ。これらの土器は概ね7~8世紀頃の遺物と考えられる。

S1・S2はサスカイトの素材剥片である。S1は周囲に粗い加工痕が見られ、加工途中の可能性がある。重量は291.6gである。S2は自然面を残し、大きい剥離面が見られるだけである。奥の坊遺跡群全体で最大の素材剥片であり、重量は700gである。S3・S4は石礫である。S3は基部を欠くがやや大型の石礫である。S4は平基式である。S5は基部のみ残るが、石槍と考えられる。S6は石小刀である。刃部はほとんど調整を行っていないが、背部は両面から入念に調整している。側縁部には自然面を残している。S7~S15は石庵丁である。S7・S9・S11・S12・S15は抉りを持つ。S16は石匙である。撥状の形態を呈し、片面から調整している。S17は石鉄である。基部のみ残り、自然面を残している。S18~S25は削器である。S26はチャート製の石錐である。頭部から錐部まで一體的な滴状の形態を呈し、分厚いつくりである。S27~S29は大型蛤貝石斧である。S27は花崗岩、S28・S29は緑泥片岩である。S29の刃部には擦痕が見られる。S30・S31は砂岩の磨石である。S32は砂岩の石皿である。側面に敲打痕があり、叩き石に利用されたと考えられる。これら石器は、いずれも弥生時代中期前半の遺物と考えられる。

(3) 造構

SH21001 (第34図)

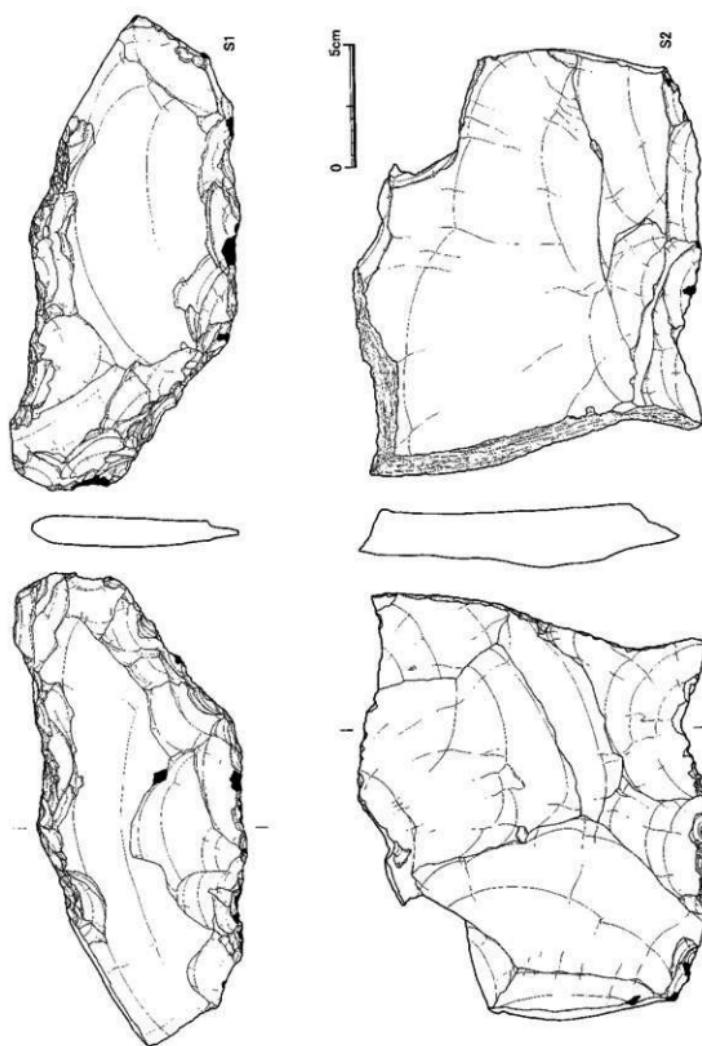
調査区西端で検出した堅穴住居跡である。西端はSD21001に切られるが、平面形態は橿円形を呈し、長径4.7m、短径3.8m、深さ17cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘質土の単層である。床面において直徑25~70cm、深さ5~20cmの円形のピット10基を検出したが、いずれが主柱穴になるかは不明である。出土遺物は弥生土器の小片のみであり、造構の詳細な時期は不明であるが、周辺の造構の時期から弥生時代中期前半と考えられる。

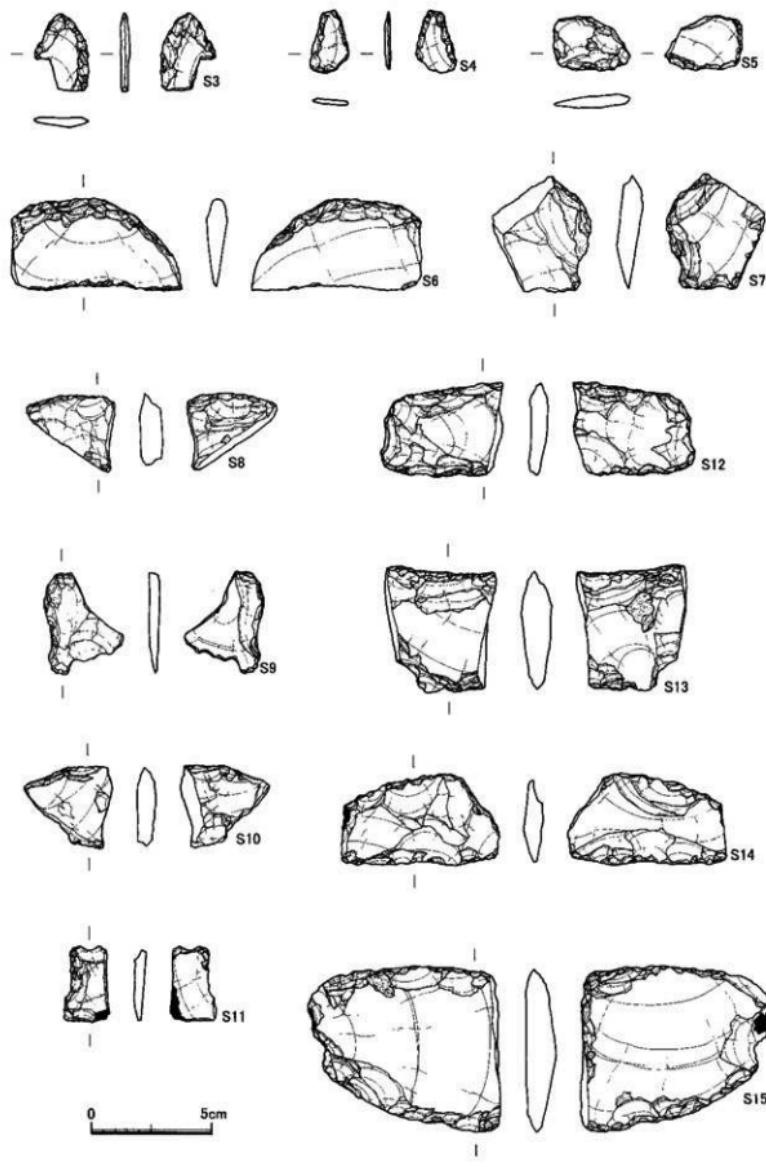
SH21002・21003 (第35・36図)

調査区西端で検出した堅穴住居跡である。平面では切り合い関係が確認できず同一造構として掘削したが、調査中に断面及び床面の造構の切り合い関係から、2棟の堅穴住居跡が所在することが判明した。北側をSH21002、南側をSH21003とした。切り合い関係からSH21002が後出す。

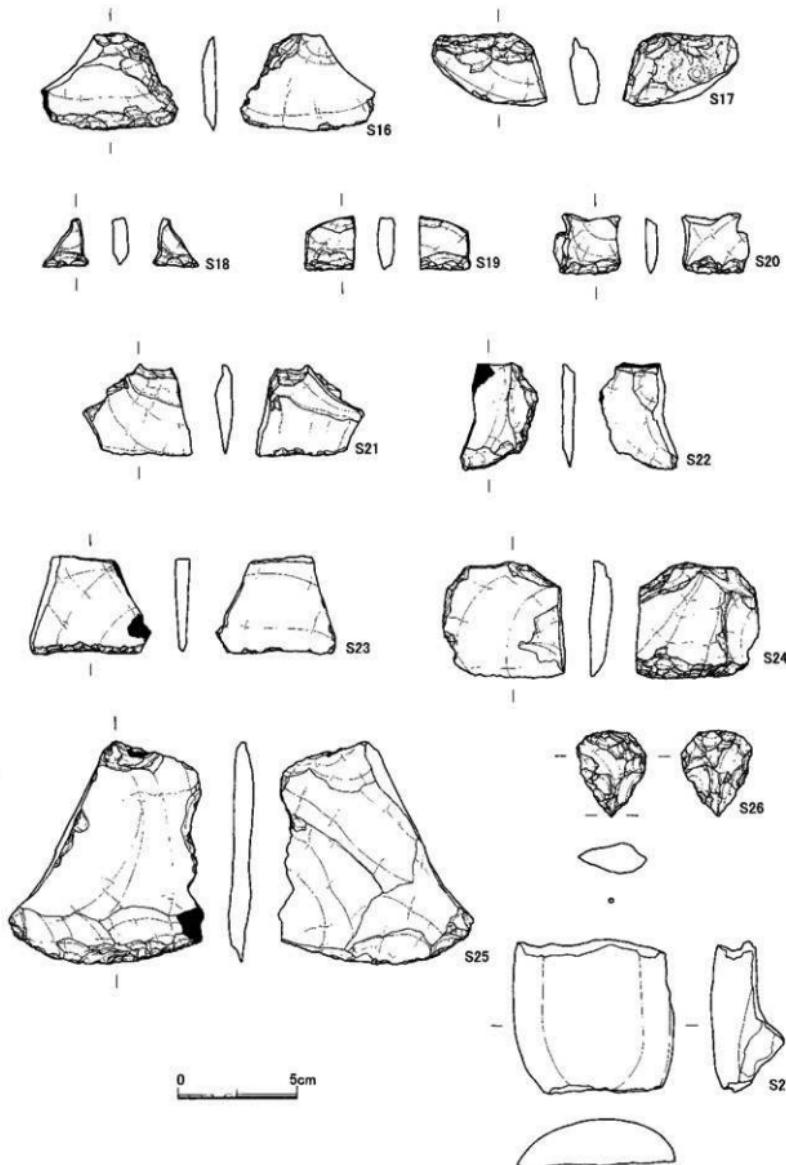
SH21002は西側の大部分が調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、平面形態は円形を呈すると考えられ、直徑4.8m以上、深さ31cmを測る。残存部分から判断すると、断面形態は逆台形を呈すると考えられ、埋土は褐灰色砂泥粘質土の単層である。床面において最大幅22cm、深さ5cmの壁溝を検出しておらず、その内側でピット4基を検出した。いずれも調査区外に延びており、一部しか掘削できていないが、これら造構の埋土も褐灰色砂泥粘質土である。

第30圖 包含層出土遺物素描圖⑤

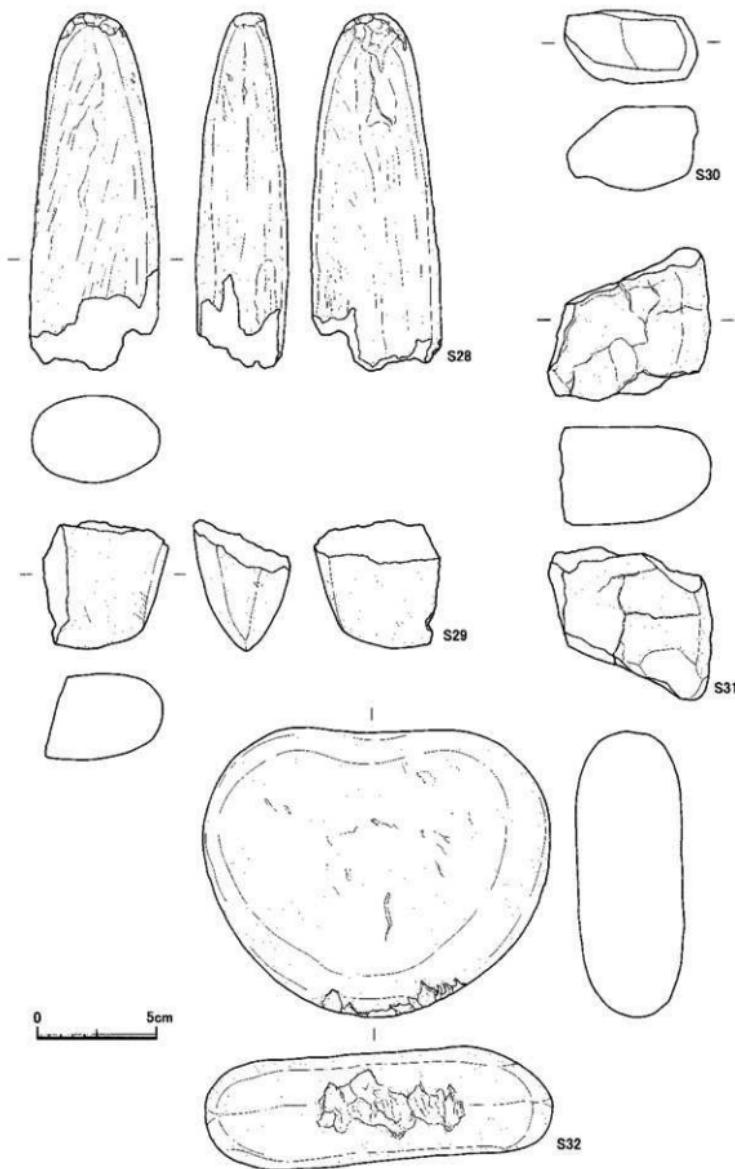




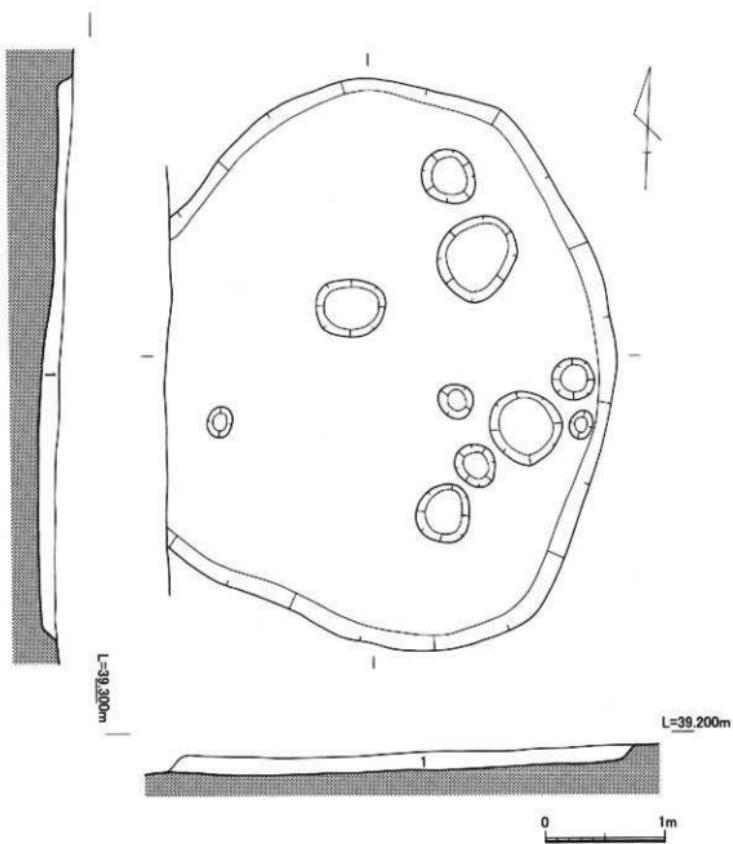
第31図 包含層出土遺物実測図⑥



第32図 包含層出土遺物実測図⑦

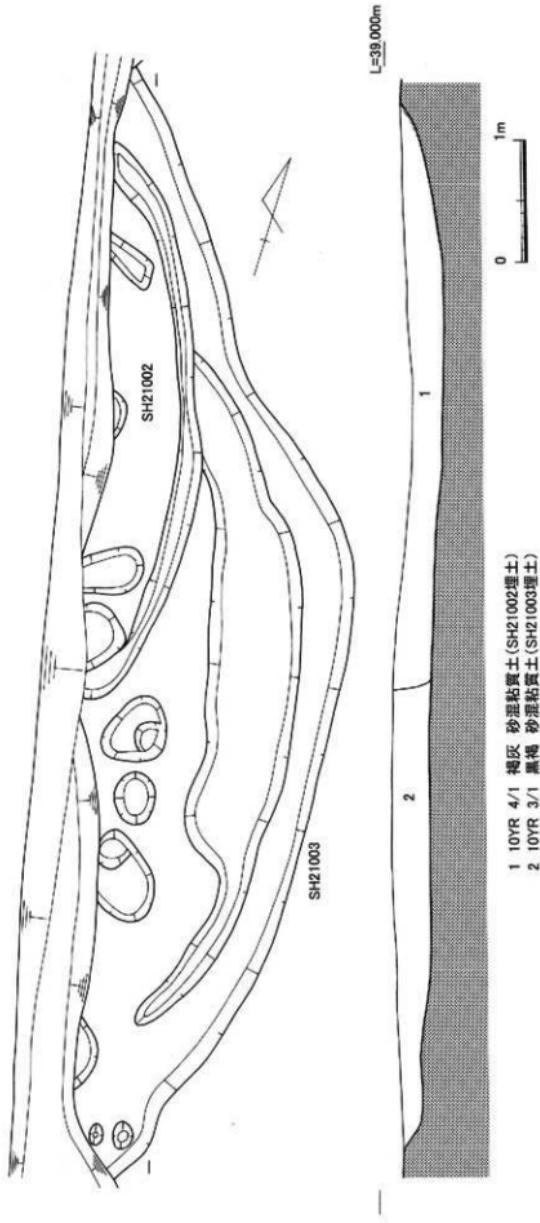


第33図 包含層出土遺物実測図⑧

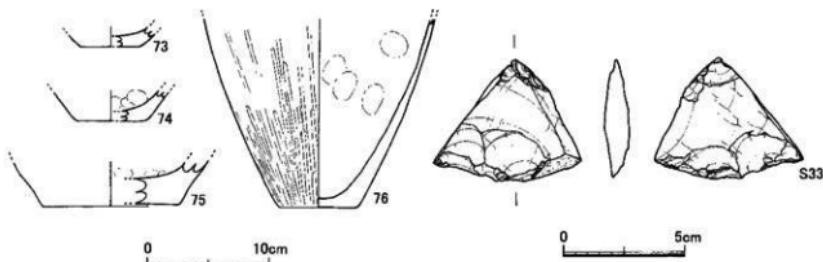


1 10YR 3/1 黑褐 砂混粘質土

第34図 SH21001平・断面図



第35図 SH21002・SH21003平・断面図



第36図 SH21002・21003出土遺物実測図

SH21003は断面観察によりSI21002に切られている。西側の大部分が調査区外に伸びるために詳細は不明であるが、平面形態は円形を呈すると考えられ、直径6.8m以上、深さ32cmを測る。残存部分から判断すると、断面形態は逆台形を呈すると考えられ、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。床面において最大幅75cm、深さ10cmの壁溝を検出しているが、両端では壁溝が途切れる。壁溝の内側で長径45~70cm、深さ10~20cmのピット3基を検出した。また、壁溝の外側においても長径18cm及び22cm、深さ10cmの2基のピットを検出した。これら遺構の埋土も黒褐色砂混粘質土である。

出土遺物は第36図に掲載した。先述のとおり切り合ひ関係不明のまま同一遺構として掘削したため、出土地の細分はできていない。73~76は弥生土器の底部である。74~76の内面は指頭圧である。76の外側はタテヘラミガキである。S33は削器である。出土遺物から、SI21002・SH21003ともに弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SB21001（第37・38図）

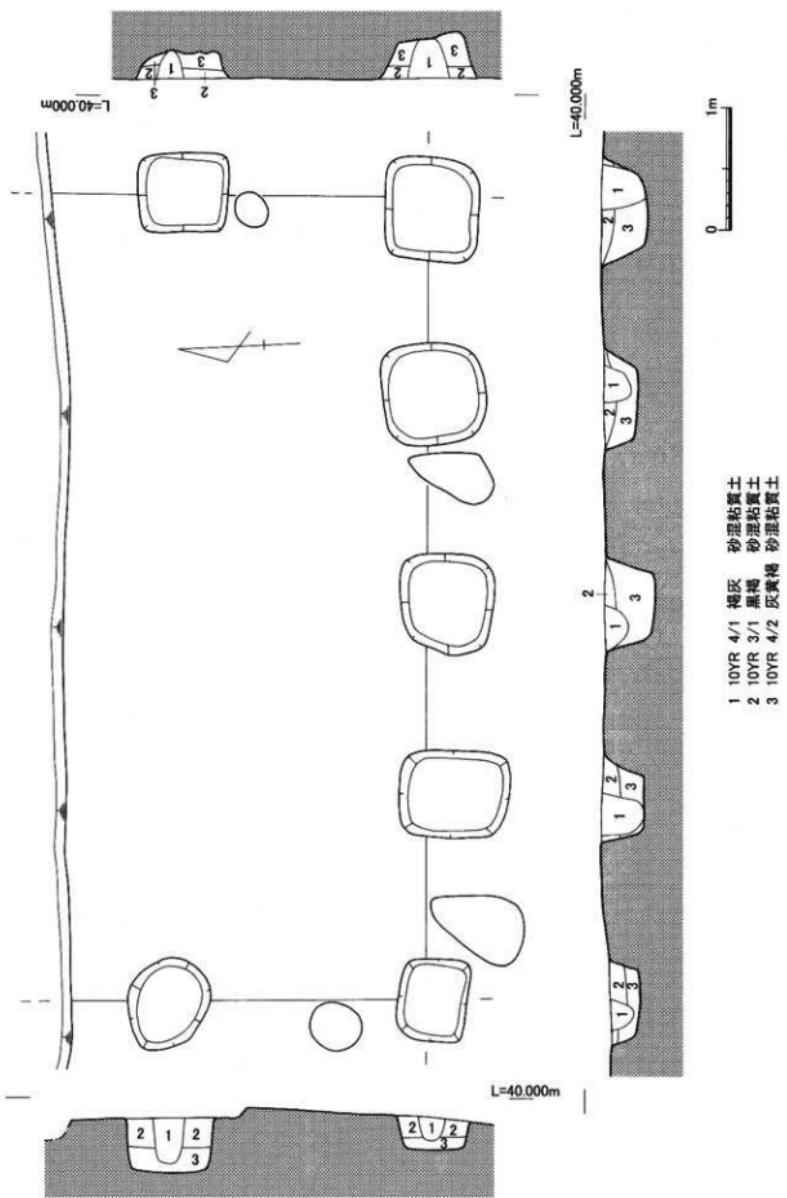
調査区の北部中央で検出した掘立柱建物跡である。北半が調査区外に伸びるために規模は不明であるが、東西4間（6.58m）×南北1間（2.1m）以上で、主軸方位はN-87°-Wである。建物を構成する柱穴は隅丸長方形を呈し、最小のもので長辺68cm、短辺51cm、深さ27cm、最大のもので長辺92cm、短辺72cm、深さ38cmを測る。柱痕は直径22~35cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。柱痕埋土は褐灰色砂混粘質土、掘方埋土は上層が黒褐色砂混粘質土、下層が灰黄褐色砂混粘質土である。東西方向の柱間はほぼ均一で、概ね1.65mを1間としている。南北方向は2.2mを1間としている。

なお、建物の南辺の柱穴列の西側延長部分において4基のピットを並んだ状態で検出した。ピットの平面形態は楕円形を呈し、長径40~70cmと小さく、深さも20~30cmと浅く、埋土も異なる。ピットの芯志間も約1.5mと狭いことから、SB21001との関係はないものと判断した。

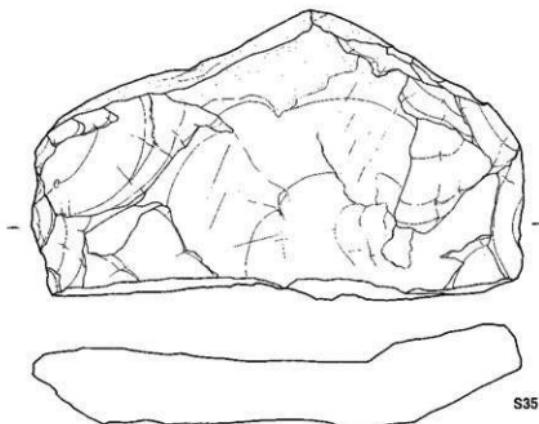
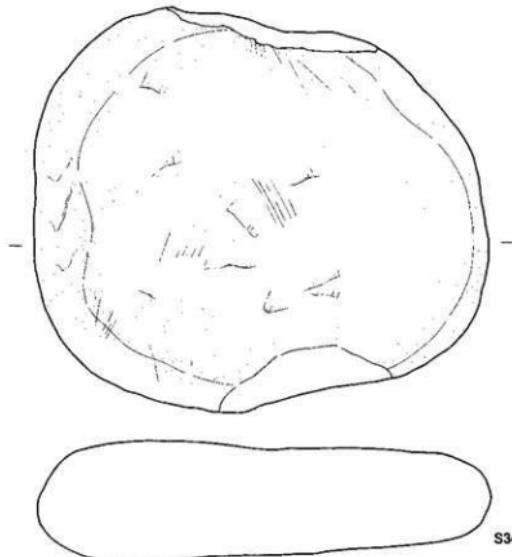
出土遺物は第38図に掲載した。S34は砂岩の石皿である。S35は泥岩の石皿である。根石状に使用されではおらず、掘方から出土した。いずれも弥生時代のものである。石皿以外出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、柱間が統一されていること、周辺部の7~8世紀の遺構の方位と近似すること等から7~8世紀の遺構と考えられる。

SB21002（第39図）

調査区の北部中央で検出した掘立柱建物跡である。東西3間（5.66m）×南北1間（1.8m）以上で、主軸方位はほぼ東西方向である。建物を構成する柱穴は長辺68~76cm、短辺52~58cmの楕円形を呈する。東西方向に並ぶ4基の柱穴の深さは42~50cmと深く、ほぼ均一であるのに対し、北西側は10cm、北東側は20cmで浅い。いずれも断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。柱間はほぼ均一で、1.85~1.9mを1間としている。遺物は出土しておらず詳細な時期は不明であるが、周辺部の7~8世紀の遺構の方位と近似することから7~8世紀の遺構と考えられる。

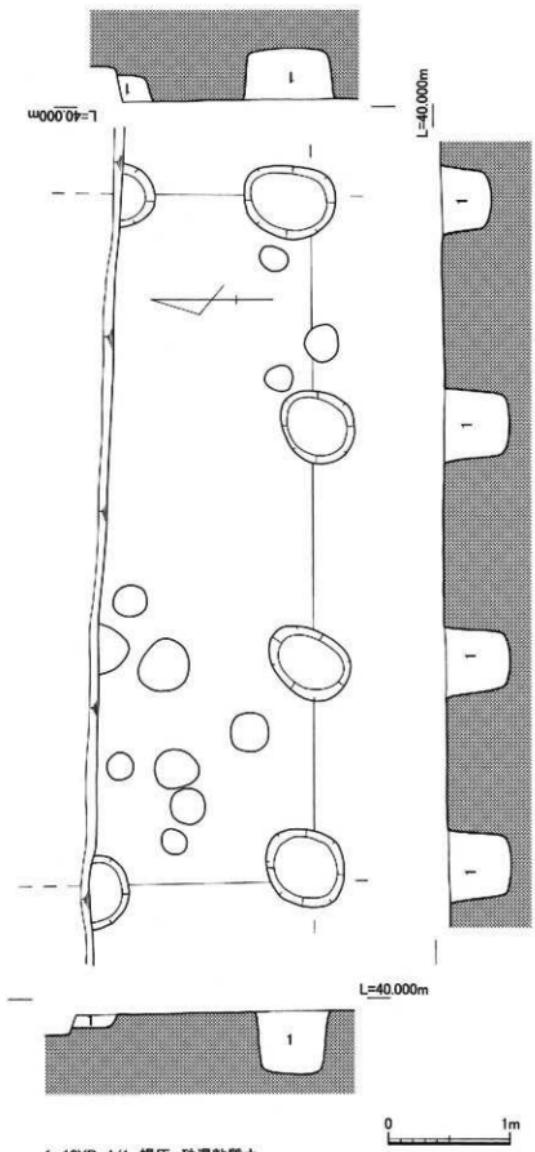


第37圖 SB21001平・断面図

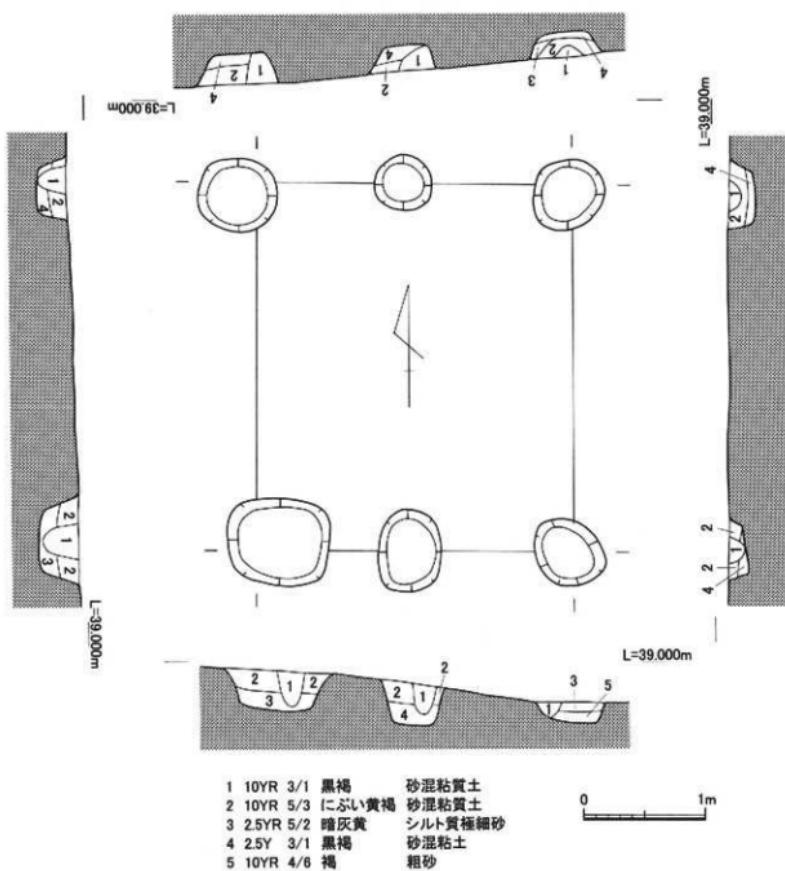


0 5cm

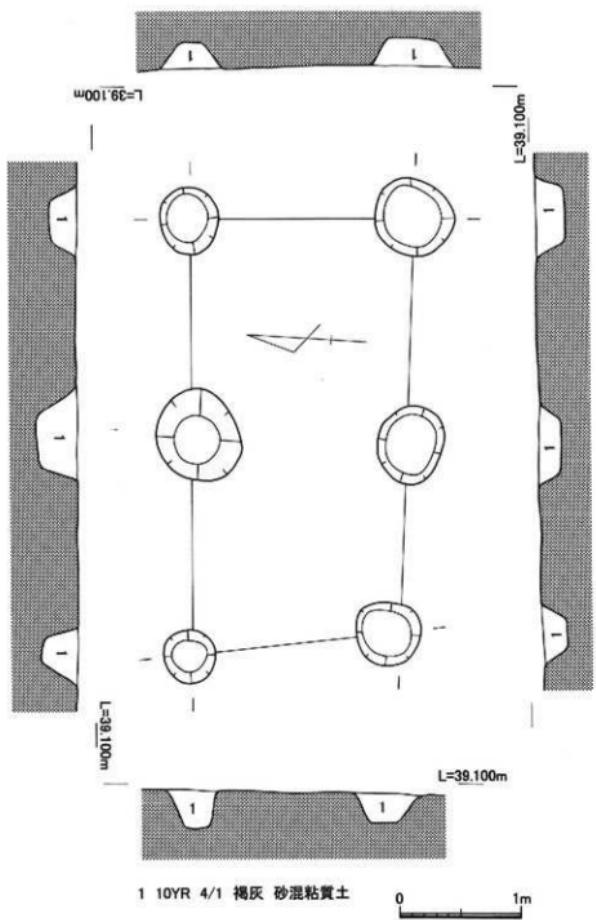
第38図 SB21001出土遺物実測図



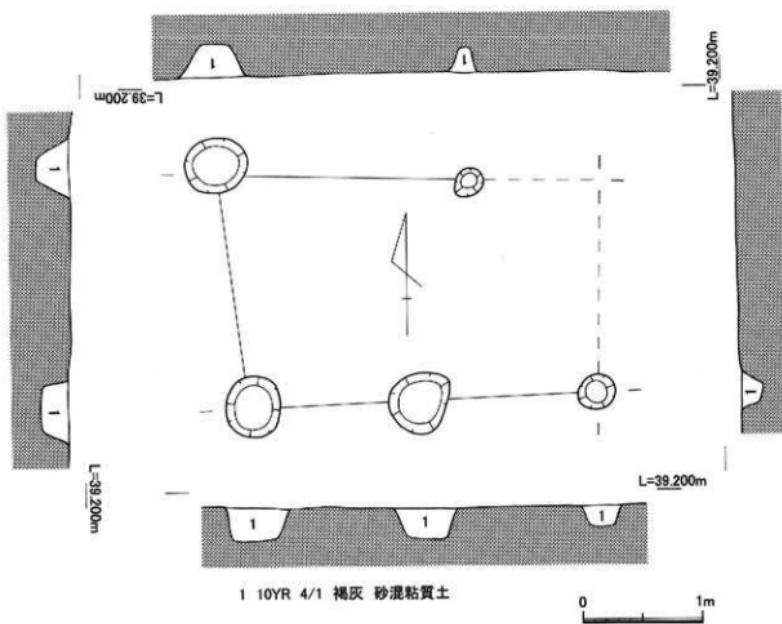
第39図 SB21002平・断面図



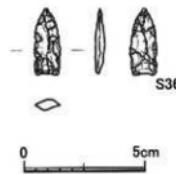
第40図 SB21003平・断面図



第41図 SB21004平・断面図



第42図 SB21005平・断面図



第43図 SB21005出土遺物実測図

SB21003 (第40図)

調査区の南西部で検出した掘立柱建物跡である。東西2間(2.64m)×南北1間(3.02m), 床面積7.97m²を測り、主軸方位はほぼ東西方向である。建物を構成する柱穴は楕円形、隅丸長方形、円形を呈し、最小のもので長径48cm、短径45cm、深さ20cm、最大のもので長径86cm、短径76cm、深さ34cmを測り、ばらつきがある。柱痕は直径20~28cmである。断面形態は逆台形を呈し、埋土は5層に分層できる。柱痕埋土は黒褐色砂混粘質土、掘方埋土は上層がにぶい黄褐色砂混粘質土、下層が黒褐色砂混粘質土で、一部に暗灰黄色シルト質極細砂や褐色粗砂がみられる。東西方向の柱間は1.1~1.3mで、均等ではない。遺物は出土しておらず詳細な時期は不明であるが、周辺部の7~8世紀の遺構の方位と近似することから7~8世紀の遺構と考えられる。

SB21004 (第41図)

調査区の南部中央で検出した掘立柱建物跡である。建物の南辺が北辺と比べやや短いが、東西2間(3.55m)×南北1間(1.85m), 床面積6.57m²を測り、主軸方位はほぼ東西方向である。建物を構成する柱穴は楕円形及び円形を呈し、長径45~75cm、短径42~68cm、深さ20~32cmを測り、ばらつきがある。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。柱間はほぼ均等で、1.75~1.85mを1間としている。遺物は出土しておらず詳細な時期は不明であるが、周辺部の7~8世紀の遺構の方位と近似することから7~8世紀の遺構と考えられる。

SB21005 (第42・43図)

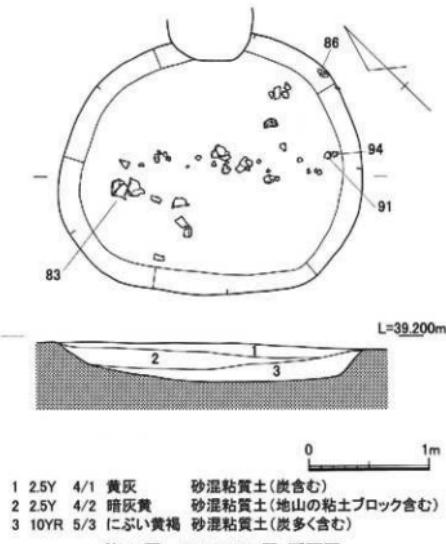
調査区の南部中央で検出した掘立柱建物跡である。前平により北東隅の柱穴を欠くが、東西2間(2.97m)×南北1間(1.89m), 床面積5.61m²を測り、主軸方位はほぼ東西方向である。建物を構成する柱穴は楕円形及び円形を呈し、長径28~56cm、短径22~48cm、深さ18~27cmを測り、ばらつきがある。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。柱間は1.4~2.1mで、均等ではない。

出土遺物は第43図S36の石鏡のみである。凹基式の石鏡で、細長い形態である。弥生時代の遺物であるが、周辺部の7~8世紀の遺構の方位と近似することから7~8世紀の遺構と考えられる。

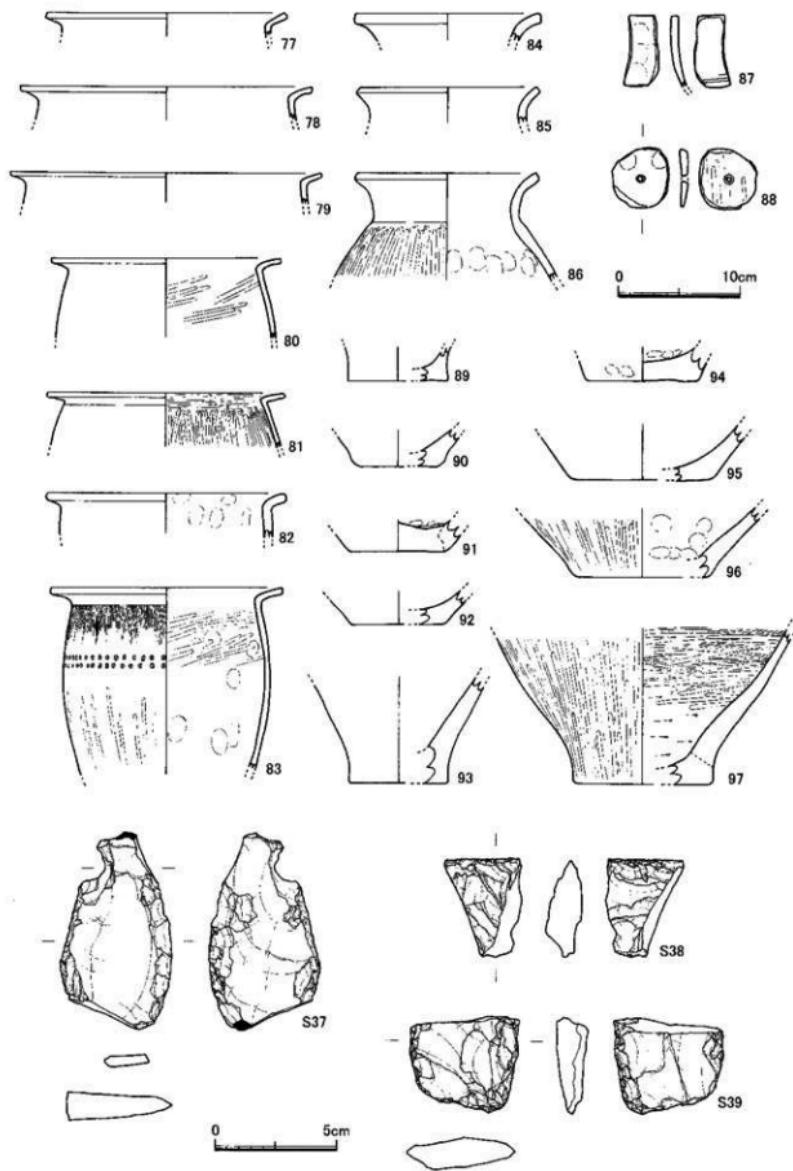
SK21001 (第44・45図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径2.53m、短径2.01m、深さ32cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。第1層は炭を含む灰褐色砂混粘質土、第2層は地山の粘土ブロックを含む暗灰黄色砂混粘質土、第3層は炭を多量に含むにぶい黄褐色砂混粘質土である。全体に遺物を包含するが、中央部の下層で多く出土した。

出土遺物は第45図に掲載した。出土土器はすべて弥生土器である。77~83は壺である。77~81はくの字口縁で、施文は見られない。80は内面ヨコヘラミガキ、81は内面タテヘラミガキで、口縁部ヨコヘラミガキである。82は如意状口縁で、内面指頭圧である。83はくの字口縁で、外面上半タ



第44図 SK21001平・断面図



第45図 SK21001出土遺物実測図

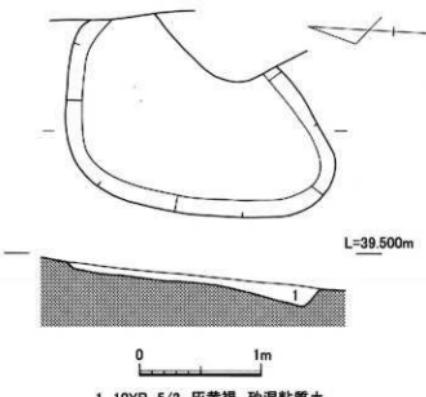
テハケ、下半タテヘラミガキで、体部最大径付近に棒状工具による上下2個1対の刺突文を施している。内面は指頭圧後ヨコヘラミガキである。84～86は広口壺である。頸部から短く外反する口縁部を持つ。86は外面タテヘラミガキ、内面指頭圧である。87は無頸壺である。外面に描画直線文を施している。内面は指頭圧である。88は紡錘車である。土器片を転用したもので、外面タテヘラミガキ、内面指頭圧である。両面から穿孔している。89～97は底部である。外面タテヘラミガキ、内面指頭圧のものが多い。S37は石匙である。背部は自然面を残し、抉りを施している。刃部は両面より調整している。S38は石庖丁である。背部のみ残るものである。S39は基部のみであるが、石槍と考えられる。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21002 (第46図)

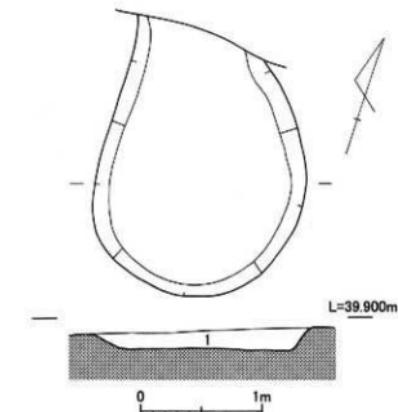
調査区の北西部で検出した土坑である。SK21008及びSD21001に切られているが、平面形態は橢円形を呈すると考えられ、長径2.42m、短径1.37m、深さ16cmを測る。遺構面が緩斜面となっており、その斜面方向に長軸をとる。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、7～8世紀の遺構SD21001に切られていることから、古代以前の遺構である。明確ではないが、弥生時代中期前半の遺構の可能性が考えられるSK21008に切られていることから、弥生時代中期前半の遺構の可能性が最も高い。

SK21003 (第47図)

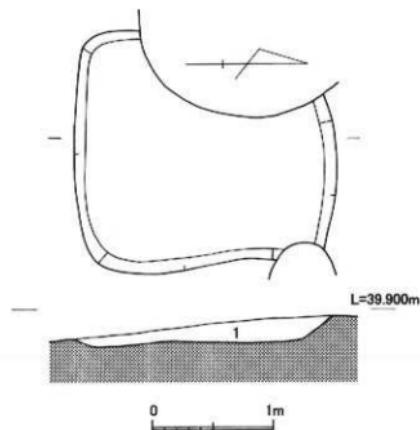
調査区の北西部で検出した土坑である。北部が調査区外に延びるため不明であるが、平面形態は橢円形を呈すると考えられ、長径2.23m以上、短径1.74m、深さ18cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐色砂混粘質土の単層である。遺物は弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第46図 SK21002平・断面図

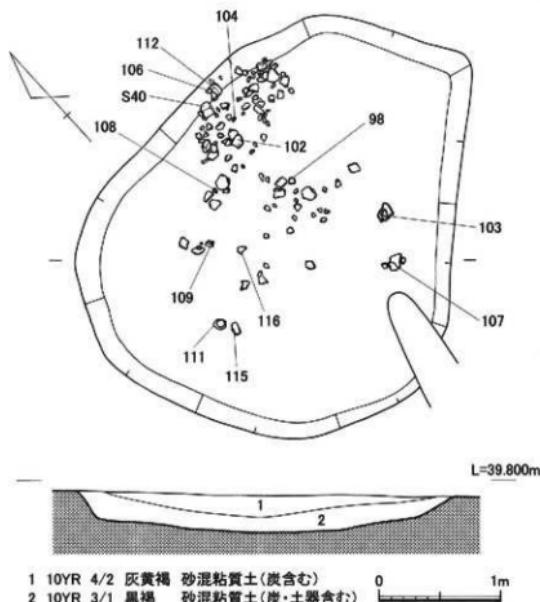


第47図 SK21003平・断面図



1 10YR 5/2 灰黃褐 砂混粘質土

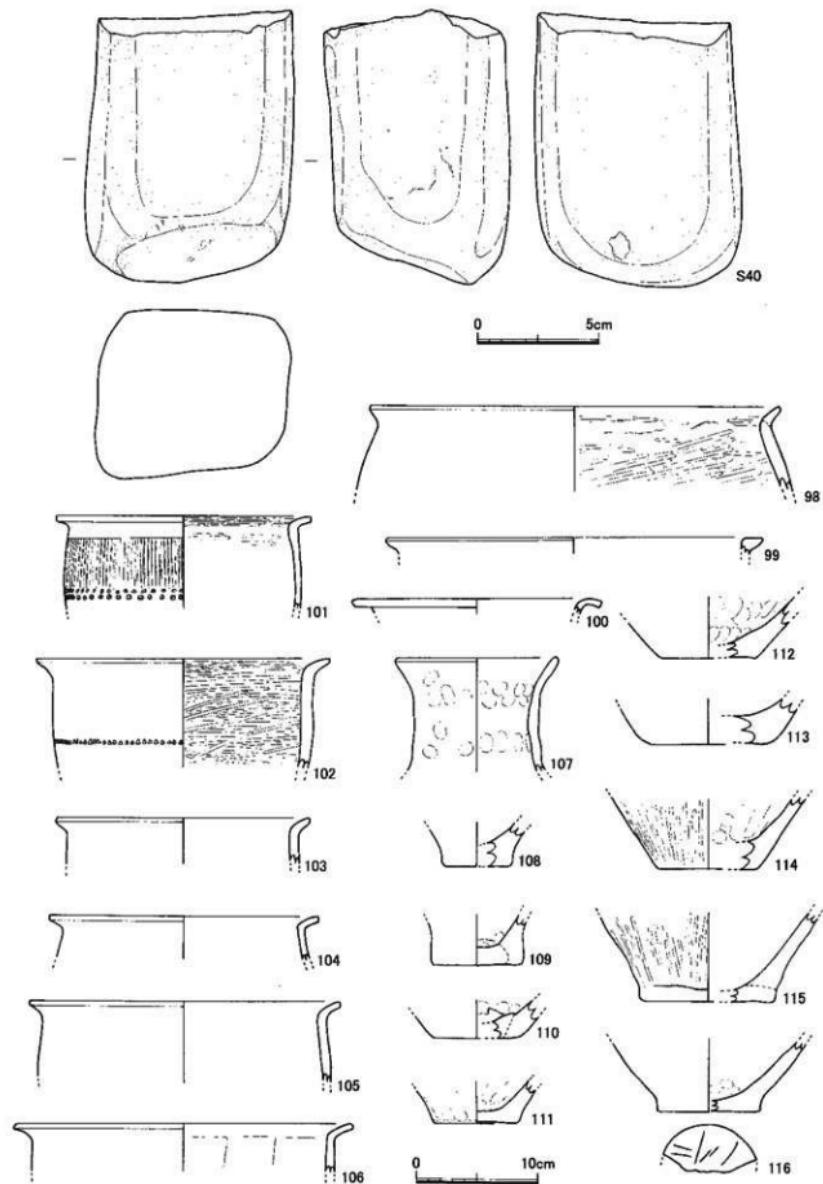
第48図 SK21004平・断面図



1 10YR 4/2 灰黃褐 砂混粘質土(炭含心)

2 10YR 3/1 黑褐 砂混粘質土(炭・土器含心)

第49図 SK21005平・断面図



第50図 SK21005出土遺物実測図

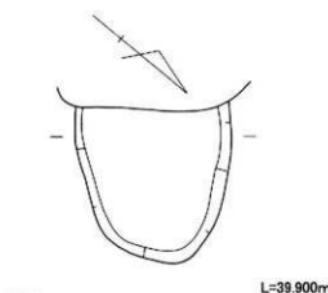
SK21004 (第48図)

調査区の北西部で検出した土坑である。SK21003に切られているが、平面形態は長方形を呈するを考えられ、長辺2.15m、短辺1.98m、深さ18cmを測る。断面形態は浅い皿状を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構SK21003に切られており、遺跡内で弥生中期前半以前の遺物が出土していないことから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

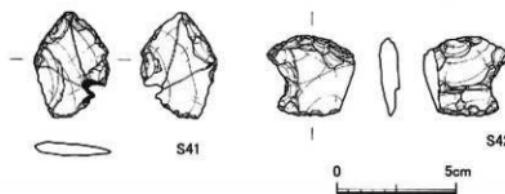
SK21005 (第49・50図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径3.86m、短径3.03m、深さ30cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は灰黄褐色砂混粘質土、下層は黒褐色砂混粘質土である。上・下層とも炭を多く含んでいた。また、全体に遺物を包含するが、下層の中央から北側にかけては密集して出土した。

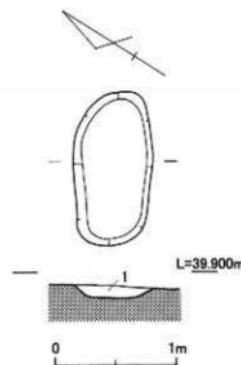
出土遺物は第50図に掲載した。石器はS40の砂岩の砥石だけである。各面とも平滑である。土器はすべて弥生土器である。98は如意状口縁の大形の甕である。内面ヨコヘラミガキである。99は逆L字状口縁の甕である。内外面ともナデである。100は如意状口縁の鉢である。内外面ともナデである。101は如意状口縁の甕で、口縁端部は角張る。外面粗いタテハケ、内面ヨコヘラミガキで、外面体部最大径付近に棒状工具による上下2個1対の刺突文を施している。102も如意状口縁の甕で、端部ほど細くなる。外面ナデ、内面ヨコヘラミガキで、外面体部最大径付近に三角形を呈する刺突文を施している。103～106は如意状口縁の甕で、施文は見られない。107は広口甕である。長い頸部にわずかに外反する口縁部を持つ。やや粗製で、内外面に指



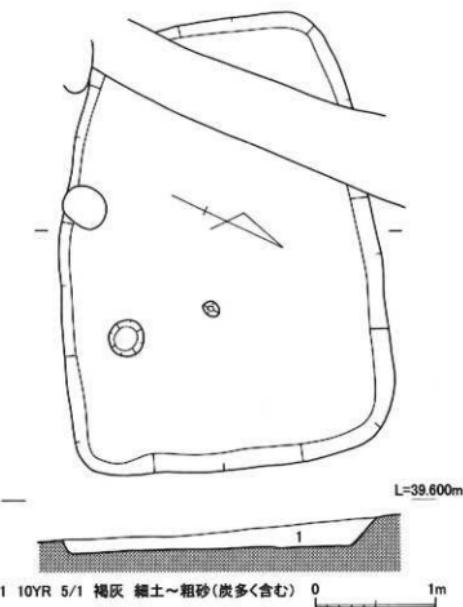
第51図 SK21006平・断面図



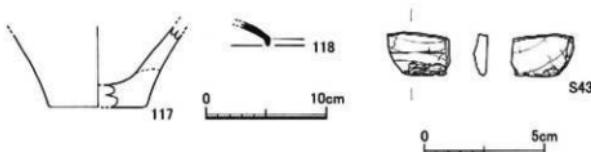
第52図 SK21006出土遺物実測図



第53図 SK21007平・断面図



第54図 SK21008平・断面図



第55図 SK21008出土遺物実測図

頭圧を多く残す。108～116は底部である。外面タテヘラミガキ、内面指頭圧のものが多い。116の底面には線刻が見られる。出土遺物から弥生時代中期前半の造構と考えられる。

SK21006（第51・52図）

調査区の北西部で検出した土坑である。SK21005に切られているが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、長径1.3m以上、短径1.24m、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。

出土遺物は第52図に掲載した。S41は小剥片を利用した石器の未製品と考えられる。S42は石庖丁である。偏縁部に抉りを持つが、非常に小型であり、凹基式の石器の未製品の可能性も考えられる。石器しか出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の造構SK21005に切られていることから、弥生時代中期前半の造構と考えられる。

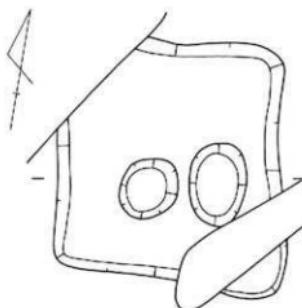
SK21007 (第53図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は梢円形を呈し、長辺1.25m、短辺66cm、深さ10cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐色灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

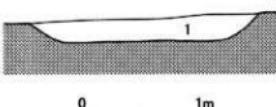
SK21008 (第54・55図)

調査区の北西部で検出した土坑である。SD21001に切られているが、平面形態は長方形を呈し、長辺3.68m、短辺1.24m、深さ22cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は炭を多く含む褐色灰色細砂～粗砂の単層である。床面で、ピット2基を検出したが、遺構に伴うかどうかは不明である。

出土遺物は第55図に掲載した。117は弥生土器の底部である。118は須恵器の蓋である。S43は削器である。遺構の時期については、118の須恵器が含まれることから古代の遺構の可能性も捨てきれないが、118以外は図示できなかった土器小片も含め、すべて弥生土器である。切り合ひ関係にあるSD21001が古代の遺構であることから、118の須恵器は混入品の可能性があり、弥生時代中期前半の可能性が高いと考えられる。

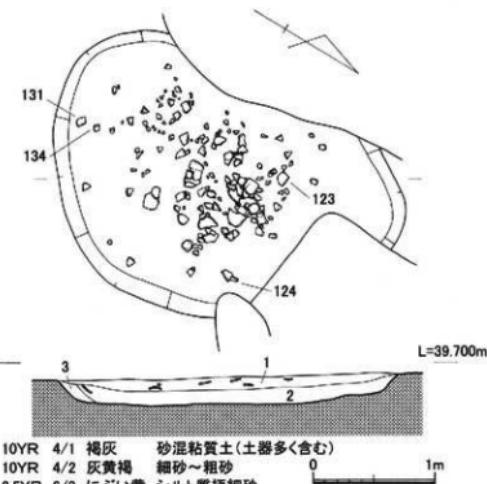


L=39.700m



1 2.5Y 5/1 黄灰 砂混粘質土

第56図 SK21009平・断面図



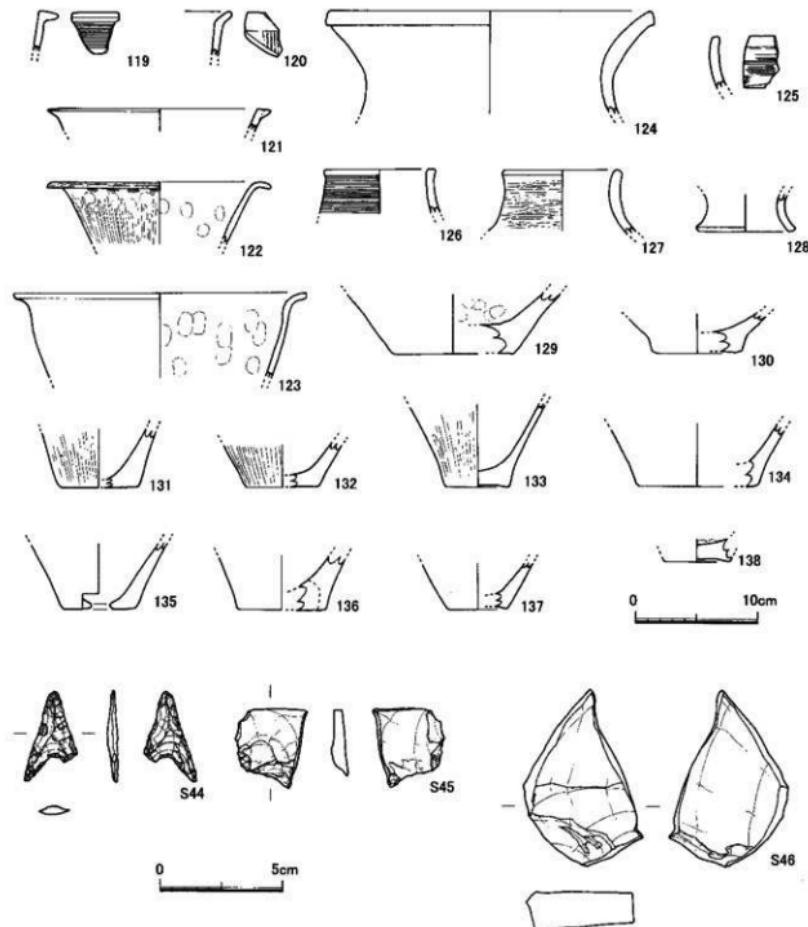
L=39.700m

1 10YR 4/1 棕灰 砂混粘質土(土器多く含む)
2 10YR 4/2 灰黄褐 細砂～粗砂
3 2.5Y 6/3 にぶい黄 シルト質極細砂

第57図 SK21010平・断面図

SK21009 (第56図)

調査区の北西部で検出した土坑である。SK21005・SD21005に切られているが、平面形態は長方形を呈すると考えられ、長辺2.08m、短辺1.84m、深さ22cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黄灰色砂泥粘質土の単層である。床面で長径68cm、短径47cm、深さ5cmと、長辺53cm、短辺47cm、深さ3cmを測る2基の楕円形のピットを検出したが、遺構に伴うかどうかは不明である。遺物は出土していないが、弥生時代中期前半の遺構であるSK21005・SK21010と切り合い関係にあることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第58図 SK21010出土遺物実測図

SK21010 (第 57・58 図)

調査区の北西部で検出した土坑である。SK21009・SK21011に切られているが、平面形態は梢円形を呈すると言えられ、長径 3.02m、短辺 1.84m、深さ 23cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は 3 層に分層できる。第 1 層は褐灰色砂混粘質土、第 2 層は灰黄褐色細砂～粗砂、第 3 層はにぶい黄色シルト質細砂である。第 3 層は遺構の南端部分にのみ所在する土層である。全体に遺物を多く包含するが、特に遺構中央の上層で密集して出土した。

出土遺物は第 58 図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。119 は逆 L 字状口縁の壺である。外面に多条の櫛描直線文を施している。120 は如意状口縁の壺で、外面は粗いタテハケである。121 は逆 L 字状口縁の鉢である。122 は如意状口縁の鉢である。外面指頭圧後タテヘラミガキで、頸部のみタテハケである。内面指頭圧で、口縁部はヨコヘラミガキである。123 も如意状口縁の鉢で、内面指頭圧である。124 は広口壺である。125～128 は無頸壺である。125・126 は外面に多条の櫛描直線文を施している。127 は口縁部の外反がきつく、外面ヨコヘラミガキ、内面ナデである。128 は台付鉢の脚部である。129～138 は底部である。外面タテヘラミガキ、内面指頭圧のものが多い。135 は底面に焼成前の穿孔が見られる。S44 は四基式の石錐である。抉りは深い。S45 は削器である。S46 は剥片である。4 方向に剥離面が見られる。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21011 (第 59・60 図)

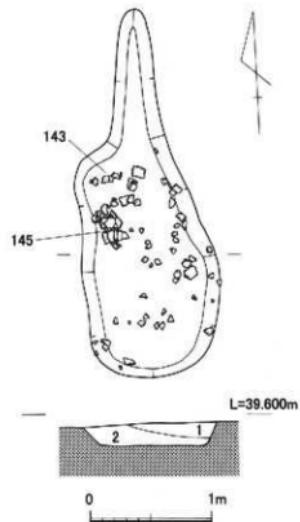
調査区北西部で検出した土坑である。平面形態は長方形の長軸に突出部がつくような溝状を呈し、長辺 3.02m、短辺 1.10m、深さ 19cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は 2 層に分層できる。第 1 層は暗灰黄色シルト質細砂、第 2 層は黒褐色砂混粘土である。全体に遺物を多く包含するが、特に遺構中央の下層で密集して出土した。

出土遺物は第 60 図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。139～141 は如意状口縁の壺である。内外面ナデで、体部上半に多条の櫛描直線文を施している。142 は如意状口縁の壺で、体部外面に多条の櫛描直線文を施し、最下段に櫛描波状文を施している。143 はくの字口縁の壺である。外面はタテハケ、内面は指頭圧後ヨコヘラミガキである。体部最大径付近に棒状工具による上下 2 個 1 対の刺突文を施している。144 はふくらみを持たない体部からわずかに外反する口縁部を持つ如意状口縁の壺である。外面板ナデ、内面ナデである。145 はくの字口縁の壺で、内外面ともタテヘラミガキである。146 は無頸壺である。外面は 5 本一束の櫛描直線文を 3 原体施し、最下段に櫛描波状文を施している。外面ナデ、内面指頭圧である。147 は広口壺で、大きく外反する口縁をもつ。内面指頭圧である。S47 は石錐である。体部と錐部の境は明瞭でなく、錐部のみ調整が見られる。S48 は石窓丁である。背部のみ残る。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21012 (第 61・62 図)

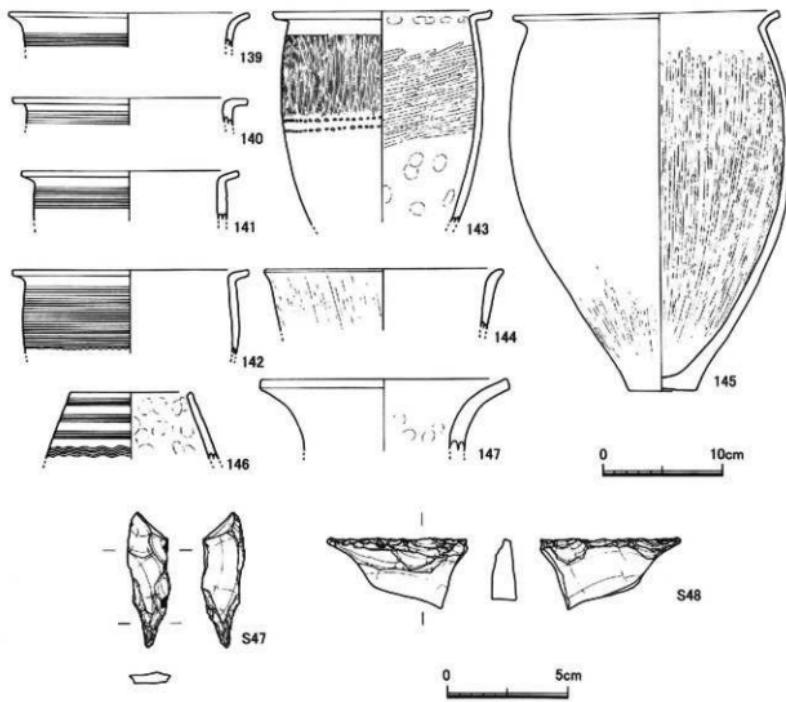
調査区北西部で検出した土坑である。SK21011 に切られているが、平面形態はやや不整な梢円形を呈すると考えられ、長径 2.10m、短辺 1.32m、深さ 10cm を測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物は第 62 図 148 の上部器坏のみである。出土遺物から 7～8 世紀の遺構と考えられる。

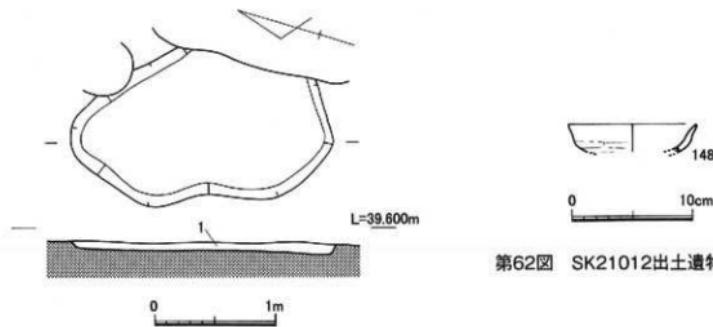


1 2.5Y 5/2 暗灰黄 シルト質細砂
2 2.5Y 3/2 黒褐 砂混粘土(土器多く含む)

第59図 SK21011平・断面図

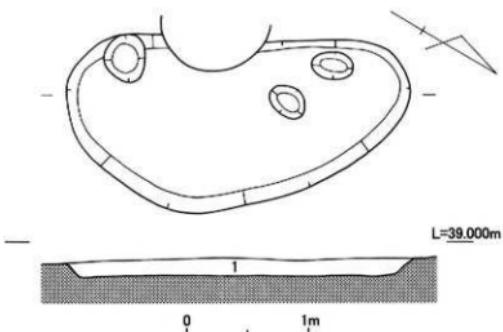


第60図 SK21011出土遺物実測図

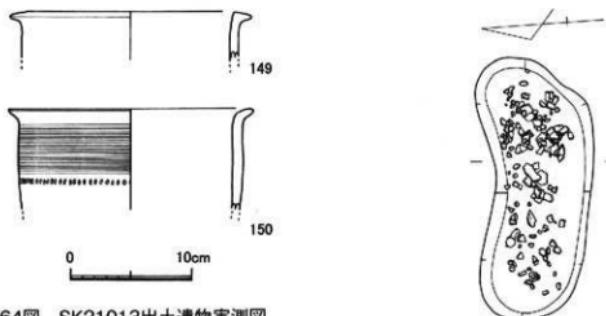


第62図 SK21012出土遺物実測図

1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土
第61図 SK21012平・断面図



1 10YR 4/2 灰黄褐 砂混粘質土
第63図 SK21013平・断面図



第64図 SK21013出土遺物実測図

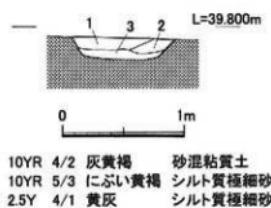
SK21013 (第63・64図)

調査区西部で検出した土坑である。SP21043に切られているが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、長径2.84m、短径1.3m、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。床面から長径35~40cm、短径22~32cm、深さ3~10cmのピットを3基検出したが、造構に伴うかどうかは不明である。

出土遺物は第64図に掲載した。149は弥生土器の逆L字状口縁の壺で、体部はふくらみを持たない。内外面ともナデである。150は弥生土器の如意状口縁の壺である。内外面ともナデである。体部上半に多条の櫛描直線文を施し、最下段に棒状工具による刺突文を施している。出土遺物から弥生時代中期前半の造構と考えられる。

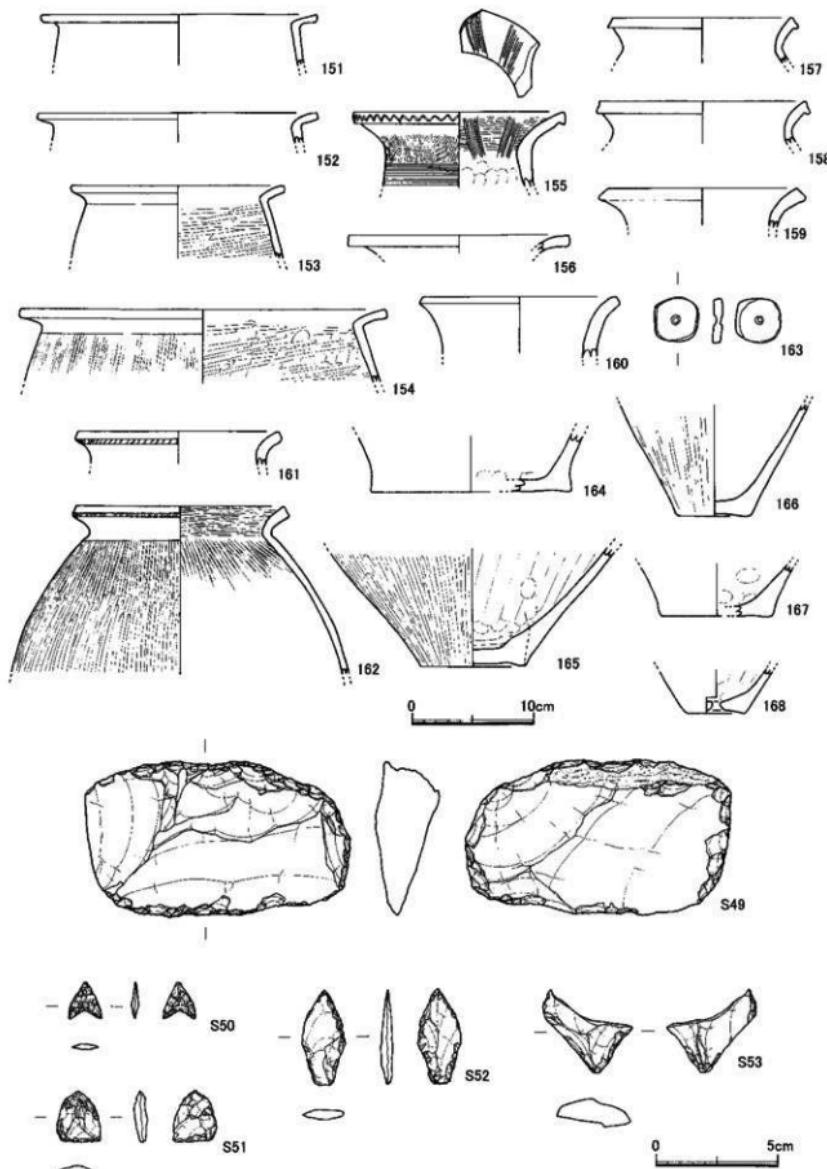
SK21014 (第65・66図)

調査区西北部で検出した土坑である。平面形態はやや不整な隅丸長方形を呈し、長辺2.15m、短辺93cm、深さ18cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。第1層は灰黄褐色砂混



1 10YR 4/2 灰黄褐 砂混粘質土
2 10YR 5/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂
3 2.5Y 4/1 黄灰 シルト質極細砂

第65図 SK21014平・断面図



第66図 SK21014出土遺物実測図

粘質土、第2層はにぶい黄色砂混粘質土、第3層は黄灰色シルト質極細砂である。全体に遺物を多く包含するが、特に第1層部分において密集して出土した。

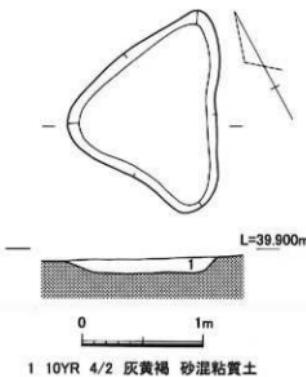
出土遺物は第66図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。151～154はくの字口縁の壺である。151は内外面ナデである。152はマツツが著しい。153は外面ナデ、内面ヨコヘラミガキである。154は外面粗いタテハケ、内面指頭ナデ後ヨコヘラミガキである。155は広口壺である。外タテハケ、内面タテハケ及び指頭圧である。やや下方に拡張された口縁部には山形文を施し、頸部には多条の櫛描直線文を施している。内面は櫛原体により頸部から口縁部に向かって放射状に施文されている。156は口縁部を大きく聞く広口壺で、内外面ナデである。157～159は頸部が屈曲し、わずかに外反する短い口縁部を持つ広口壺で、端部を拡張させる。160は頸部から外反しながら口縁部に至る広口壺である。161・162は壺と広口壺の折衷的な形態である。口縁端部に刻目を施している。162は外面タテヘラミガキ、内面粗いタテハケで、口縁部はヨコヘラミガキである。163は紡錘車である。土器片を転用したもので、両面から穿孔を試みているが未貫通である。内外面ともナデである。164～168は底部である。外面タテヘラミガキ、内面指頭圧のものが多い。168は底面に焼成前の穿孔が見られる。S49は石庵丁である。背部に自然面を残し、分厚いつくりで、刃部の調整もわずかである。S50は円基式の石鎚である。全体に細かく調整されている。S51は平基式の石鎚である。白色風化が著しく、全体に調整が粗い。S52は凸基式の石鎚である。剥離面を多く残し、細部調整もわずかである。S53は石錐である。剥片の先端部をわずかに調整し錐部を作っている。全体に白色風化が著しい。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21015（第67図）

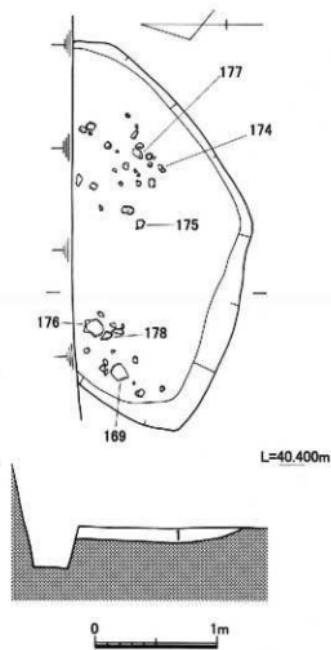
調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は三角形を呈し、長辺1.65m、短辺1.23m、深さ12cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21016（第68・69図）

調査区北端で検出した土坑である。北半がトレンチにより切られ、さらに調査区外へ延びるため、平面形態は不明である。検出部分の規模は長



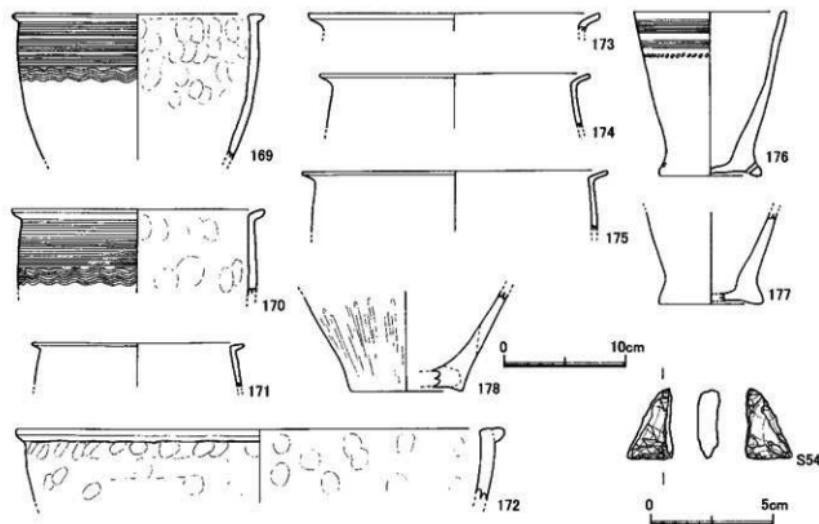
第67図 SK21015平・断面図



第68図 SK21016平・断面図

径3.3m、短径2.1m、深さ11cmを測る。断面形態は浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色砂泥粘質土の単層である。遺構中央部はSB21001を構成する柱穴に切られている。全体に遺物を多く包含していた。

出土遺物は第69図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。169は逆L字状口縁の壺である。外面は7本一束の櫛描直線文を3条施し、最下段に櫛描波状文を施している。内面は指頭圧である。170は如意状口縁の壺で、外面は多条の櫛描直線文を施し、最下段に櫛描波状文を施している。外面ナデ、内面指頭圧である。171は口縁部を折り曲げ、逆L字状口縁としている壺である。172は逆L字状口縁の壺で、大型品である。内外面とも指頭圧である。173～175は如意状口縁の壺で、施文は見られない。176・177はコップ型の鉢で、底部を外方に拡張させている。176は体部上半に多条の櫛描直線文を施し最下段に棒状工具による刺突文が施文されている。また、底部には底面から外面に向けて斜めに2個1対で2方向に穿孔が施されており、粗通し穴と考えられる。178は底部で、外面タテヘラミガキである。S54は削器である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

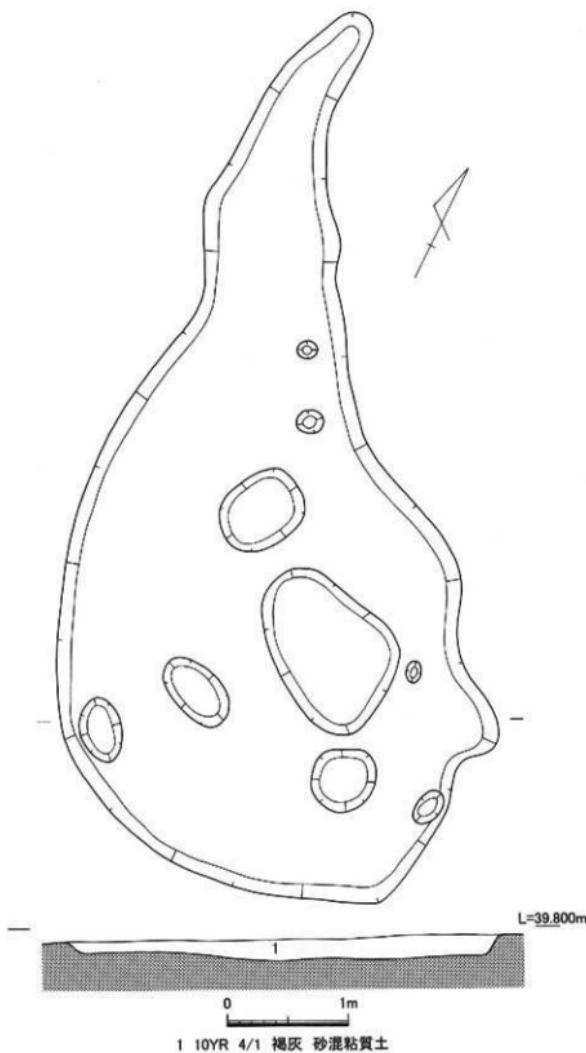


第69図 SK21016出土遺物実測図

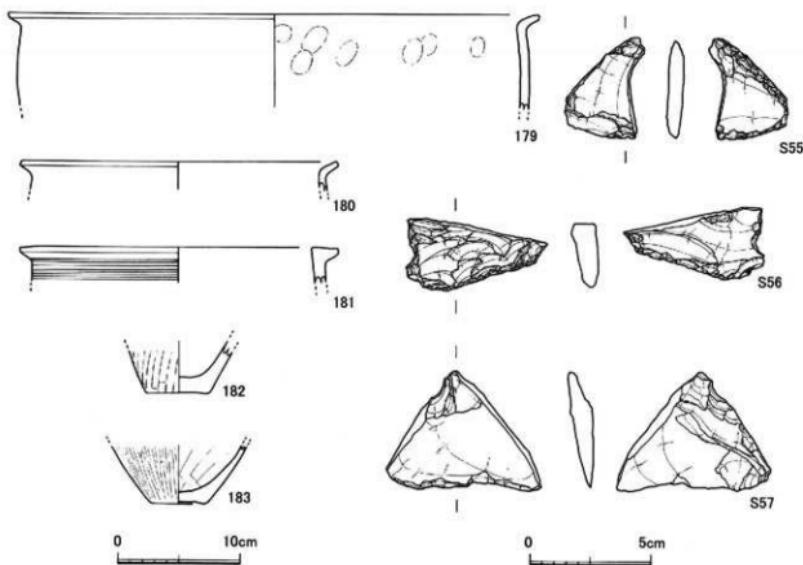
SK21017（第70・71図）

調査区北部中央で検出した土坑である。平面形態は不整形な滴形を呈し、長径7.05m、短径3.75m、深さ19cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂泥粘質土の単層である。床面において長径1.42m、短径97cm、深さ10cmの土坑を中心とし長径50～75cm、深さ10～20cmのピットを3基検出した他、小型のピットも検出した。いずれも埋土は遺構埋土と同じであるが、遺構に伴うものかどうかは不明である。なお、床面の土坑を中心とした竪穴住居の残存部分であることも考えられるが、ピットの深さが浅く、その可能性は低いと考えられる。

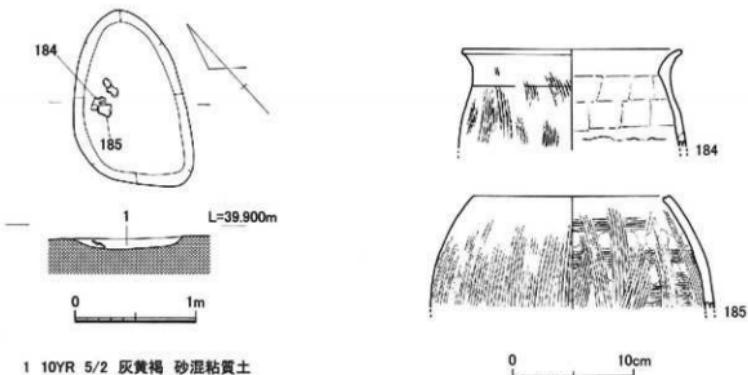
出土遺物は第71図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。179・180は如意状口縁の壺である。181は逆L字状口縁の壺である。内外面ともナデで、外面に多条の櫛描直線文を施している。182は底部で、外面板ナデ状のタテヘラミガキである。183は底部で、外面タテヘラミガキ、内面板ナデである。S55・S56は石庖丁である。S57は剥片である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第70図 SK21017平・断面図



第71図 SK21017出土遺物実測図



第72図 SK21018平・断面図

第73図 SK21018出土遺物実測図

SK21018 (第72・73図)

調査区北部中央で検出した土坑である。平面形態は梢円形を呈し、長径1.46m、短径93cm、深さ8cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物は第73図に掲載した。184は土師器の甕である。外面粗いタテハケ、内面板ナデである。185は土師器の甕で、頸部の接合面で剥離したものと考えられる。外面粗いタテハケ、内面指頭压後粗いヨコハケ後粗いタテハケである。出土遺物から7~8世紀の遺構と考えられる。

SK21019 (第74図)

調査区北部中央で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長径1.28m、短径44cm、深さ12cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21020 (第75図)

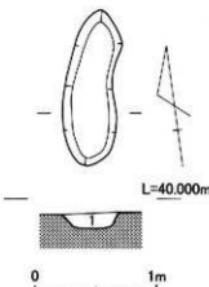
調査区中央で検出した土坑である。平面形態は不整形で、長径3.66m、短径2.1m、深さ11cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。床面で、長径28cm、短径22cm、深さ5cmのピットを検出したが、遺構に伴うものかどうかは不明である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21021 (第76図)

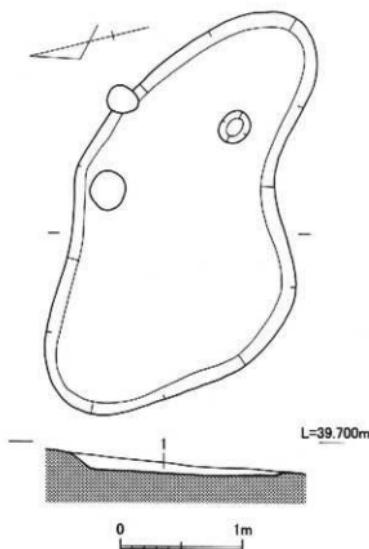
調査区中央で検出した土坑である。平面形態は梢円形を呈し、長径1.31m、短径45cm、深さ30cmを測る。断面形態はU字を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21022 (第77図)

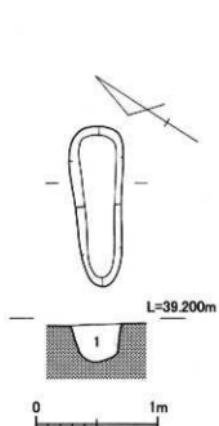
調査区南部で検出した土坑である。SK21023と並んで所在する。平面形態は隅丸方形を呈し、長径1.60m、短径1.54m、深さ31cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。第1層はにぶい黄褐色粗砂、第2層はにぶい黄褐色粗砂である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、I区検出の近世以降の遺構埋土と類似することから、近世以降の遺構と考えられる。



第74図 SK21019平・断面図

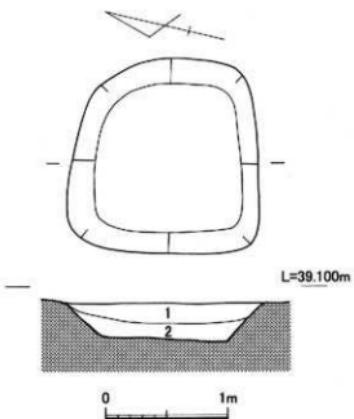


第75図 SK21020平・断面図



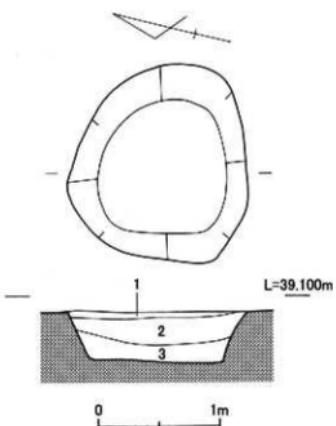
1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

第76図 SK21021平・断面図



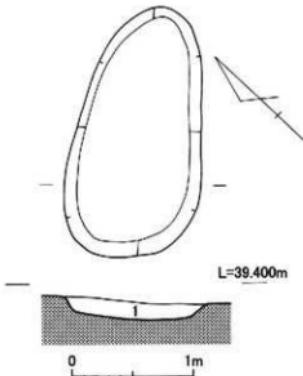
1 10YR 6/3 にぶい黄橙 粗砂
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 粗砂

第77図 SK21022平・断面図



1 10YR 7/3 にぶい黄橙 粗砂
2 10YR 6/3 にぶい黄橙 粗砂
3 10YR 4/3 にぶい黄褐 粗砂

第78図 SK21023平・断面図



1 10YR 4/1 褐灰 細砂

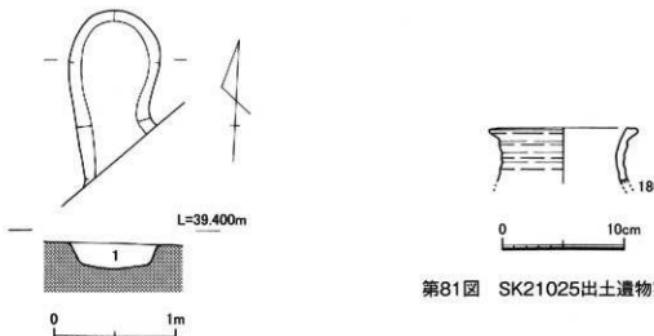
第79図 SK21024平・断面図

SK21023 (第78図)

調査区南部で検出した土坑である。平面形態は椭円形を呈し、長径 1.62m、短径 1.46m、深さ 42cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は 3 層に分層できる。第 1・2 層はにぶい黄橙色粗砂、第 3 層はにぶい黄褐色粗砂である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、SK21022 と並列しており、ほぼ同じ埋土であることから、近世以降の遺構と考えられる。

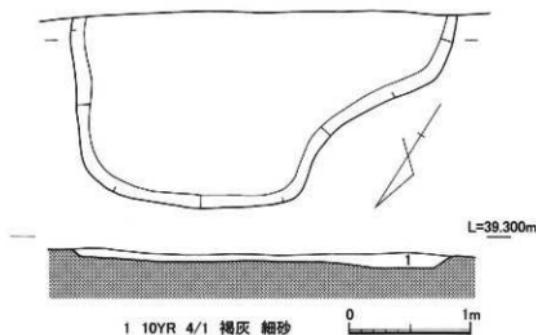
SK21024 (第79図)

調査区南東部で検出した土坑である。平面形態は椭円形を呈し、長径 2.09m、短径 1.12m、深さ 14cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色細砂の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、後述する SK21025 と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第81図 SK21025出土遺物実測図

第80図 SK21025平・断面図



第82図 SK21026平・断面図

SK21025 (第 80・81 図)

調査区南東部で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面形態は不明であるが、溝状を呈すると考えられる。検出部分の規模は長径 1.34m、短径 74cm、深さ 21cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色細砂の単層である。

出土遺物は第 81 図 186 の弥生土器の広口壺だけである。頸部に凹線 3 条を施している。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21026 (第 82 図)

調査区南東部で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面形態は不明である。検出部分は長径 3.16m、短径 1.61m、深さ 12cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色細砂の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、SK21025 と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21027 (第 83 図)

調査区西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径 3.3m、短径 1.43m、深さ 28cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。床面で直径 23cm と 40cm、深さ 5cm のピットを検出したが、遺構に伴うかどうかは不明である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21028 (第 84～86 図)

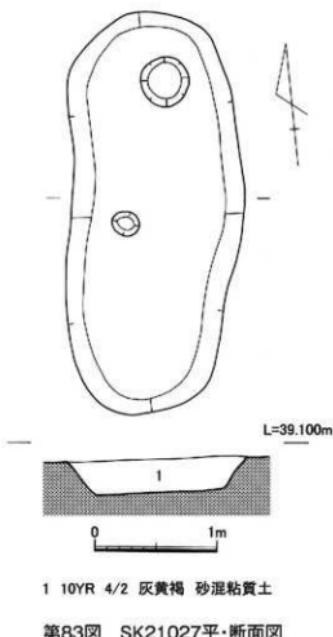
調査区西端で検出した土坑である。西半が調査区外に延びるため、平面形態は不明であるが、不整形な形態と考えられる。検出部分の規模は、長径 3.66m、短径 3.36m、深さ 20cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。床面で遺構埋土と同じ埋土のピットを 4 基検出したが、遺構に伴うかどうかは不明である。

出土遺物は 85・86 図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。187 は逆 L 字状口縁の壺である。188 はくの字口縁の壺である。189 は広口壺である。内面指頭圧である。190 はバケツ型の鉢である。体部はマツツが著しく文様構成は不明であるが、櫛描直線文と櫛描波状文を施しており、口縁端部には刻目が見られる。口縁部には 2 個 1 対の円孔が見られ、經通し穴と考えられる。内面は指頭圧である。191～194 は底部である。S58 は磨製石庖丁で、側縁部に抉りを持つものである。S59 は凹基式の石鎌である。出土遺物から、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

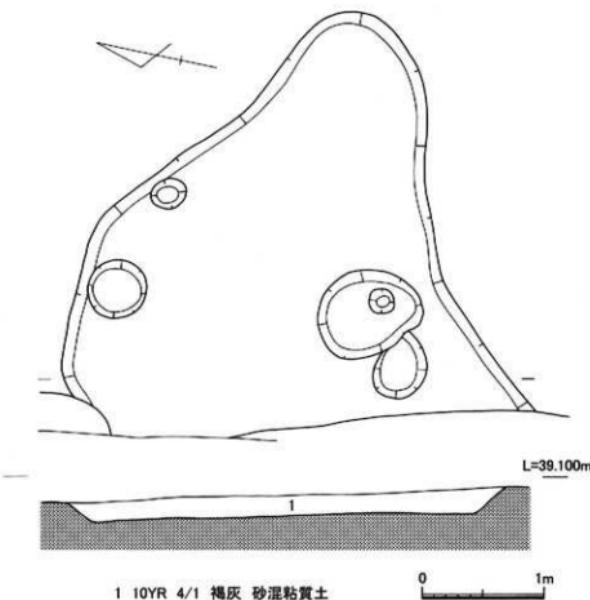
86 図は床面検出のピットから出土した遺物である。195・196 とも弥生土器の底部である。いずれも弥生時代中期前半のものである。

SK21029 (第 87 図)

調査区北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径 1.09m、短径 64cm、深さ 31cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は 2 層に分層できる。第 1 層はにぶい黄褐色粗砂、第 2 層は暗褐色粗砂である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第83図 SK21027平・断面図



第84図 SK21028平・断面図

SD21001 (第 88 図)

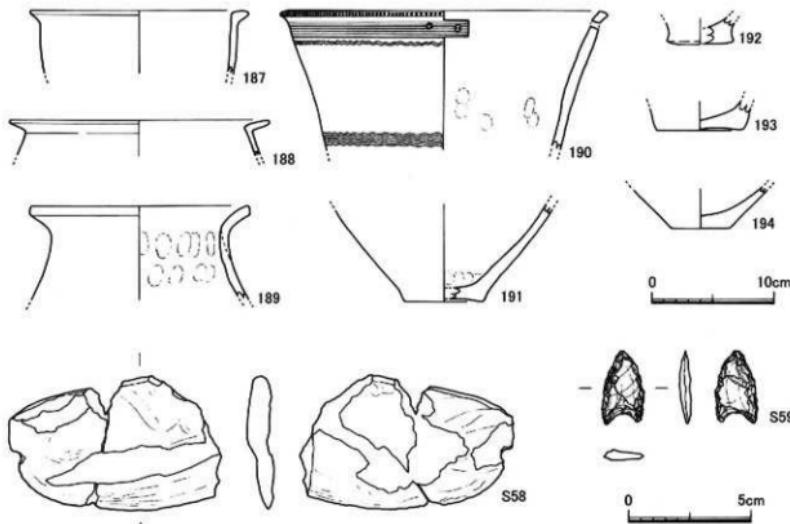
調査区西部で検出した南北方向の溝である。幅 60 ~ 80cm、深さ 30cm、検出部分の長さは 29.5m を測り、主軸方位は N - 5° - W である。断面形態は逆台形を呈し、埋土は 3 層に分層できる。第 1 層は灰黄褐色砂混粘質土、第 2 層は褐灰色砂混粘質土、第 3 層は褐色粗砂である。出土遺物には弥生土器の小片が含まれるもの、弥生時代中期前半の遺構を切っており、溝の方位が周辺の古代条里地割に合致することから、7 ~ 8 世紀の遺構と考えられる。

SD21002 (第 89 図)

調査区北西部で検出した溝である。東端は SK21011、西側は SK21028、中央は SD21001 に切られている。幅 15 ~ 22cm、深さ 8cm、検出部分の長さは 4.2m を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、弥生中期前半の遺構に切られていることから、それ以前の遺構と考えられる。

SD21003 (第 23 図)

調査区の南東部で検出した溝である。平面形態は東側を上にした F 字を呈する。北側に所在する東西方向の溝は幅 20 ~ 30cm、深さ 10cm、南北方向の溝のうち東側の溝は幅 20 ~ 45cm、深さ 10cm、南北方向の溝のうち西側の溝は幅 20 ~ 25cm、深さ 10cm を測る。断面形態はいずれも浅い U 字を呈し、埋土は灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土していないため、詳細な時期は不明である。なお、調査前の調査地状況は、当該溝の東西方向の溝部分を境に北側が高く、南側が低い上下 2段の地割りになっていたことから、現在の地割りに近く、比較的新しい遺構と考えられる。



第85図 SK21028出土遺物実測図



第86図 SK21028内 ピット出土遺物実測図

SD21004（第90・91図）

調査区南東部で検出した溝である。北東から南西方向に流れる溝で、やや蛇行する。幅1.3～2.5m、深さ18cm、長さ19.2mを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。調査区の南東部には旧河道が所在していることが試掘調査により判明しており、SD21004もほぼ自然河道と同じ方向に流れるものであり、人為的な溝か、自然河道の一部であるかは不明である。

出土遺物は第91図197の弥生土器底部のみである。内外面マツツが著しい。出土遺物から弥生時代中期前半頃の造構と考えられる。

SD21005（第92図）

調査区北西部で検出した溝である。長さ1.58m、最大幅23cm、深さ12cmを測る。断面形態はやや丸みのあるV字を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。切り合い関係にある造構の遺物の混入の可能性もあるが、弥生土器の小片が出土しており、また、7～8世紀の造構の方位とも異なることから、弥生時代中期前半の造構と考えられる。

SD21006（第93図）

調査区南部で検出した溝である。長さ1.98m、最大幅24cm、深さ5cmを測る。断面形状は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、近

世以降の遺構である SK21022 に切られており、埋土が他の弥生中期前半の遺構と同じであることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SP21043 (第 23・96 図)

調査区南西部で検出したピットである。平面形態は円形を呈し、直径 90cm、深さ 20cm を測る。断面形態は逆台形を呈する。

出土遺物は 96 図に掲載した。S60 は石庖丁である。S61 は凹基式の石鏃である。粗雑なつくりで未製品の破損品の可能性が考えられる。S62 は石錐である。錐部は短く太い。石器のみで、詳細な時期は不明であるが、出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SP21086 (第 23・95 図)

調査区北西部で検出したピットである。SD21001 及び SK21008 に切られているが、平面形態は横円形を呈していたと考えられ、長径 73cm、短径 40cm、深さ 43cm を測る。断面形態は U 字を呈し、他の遺構に切られており不明であるが、残存部の形状から判断すると、北東側だけ上部が緩やかに掘削されていたと考えられる。埋土は 2 層に分層できた。第 1 層は炭を含む暗灰色砂混粘質土、第 2 層は炭を含む褐灰色砂混粘質土である。

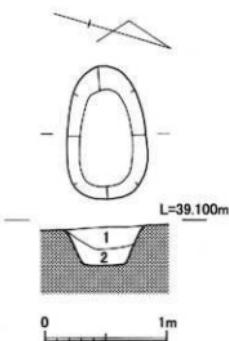
出土遺物は第 95 図に掲載した。198 は弥生土器の甕である。底径は小さく、下半は急な立ち上がりで、細身の体部は最大径付近から上部をほぼ直立させ、口縁部はわずかに外方へ屈曲させる如意状口縁である。外面はタテヘラミガキ、内面はタテヘラミガキ後上半のみヨコヘラミガキである。199 は弥生土器の無頸甕である。下膨れの体部で、口縁部分はわずかに外反する。外面はタテハケ後下半のみタテヘラミガキ、内面上半は指頭圧、下半はタテハケ、底面はナデである。外面上半は 9 本一束の櫛描直線文と櫛描波状文を交互に 3 回施文している。体部下半には焼成時に弾けた痕跡を残している。また、その反対面側には体部中央に黒斑が認められる。200 は広口壺である。口縁部と頸部から体部上半の破片であり、接合しないが色調や胎土が似ていることから同一個体と考えられる。口縁部の破片は端部を四角に角張らせており、端面に斜格子文を施している。内外面ともヨコナデである。頸部から体部上半の破片は、外面ナデ、内面指頭圧である。頸部外面に押印突帯を巡らせており、さらに体部上半には 9 本一束の櫛描直線文と櫛描波状文を施している。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

出土遺物のうち、200 の広口壺は埋土上層から小片に分かれて出土したが、ピットの南西部において口縁部をやや南に傾けられた状態で 199 の無頸甕が所在し、その無頸甕に北東側から倒れ掛かるような状態で 198 の甕が出土した。199 は完形品であり、198 も SD21001 に切られた部分まではほぼ残存しており、本来は完形品であった可能性が考えられる。なお、199 は体部下半に焼成時に弾けた痕跡を残しているものの、入念な調整によるためか、胎土に含まれる砂粒の量は表面上目立たない。また、調整や文様、さらには色調からも秀麗な印象を受ける土器である。また、198 は、非常にもらい土器ではあるものの、入念なミガキが施されており、細身の器形は特徴的である。以上のように、土器の選定から土器の出土状況まで意図的であり、人為的に埋納されたと考えられる。なお、それぞれの土器の内部の土をふるいにかけたが、埋土に包含される微小な炭は含まれていたが、他には何も認められなかった。

SP21102 (第 23・96 図)

調査区北西部で検出したピットである。平面形態は円形を呈し、直径 60cm、深さ 15cm を測る。断面形態は逆台形を呈する。

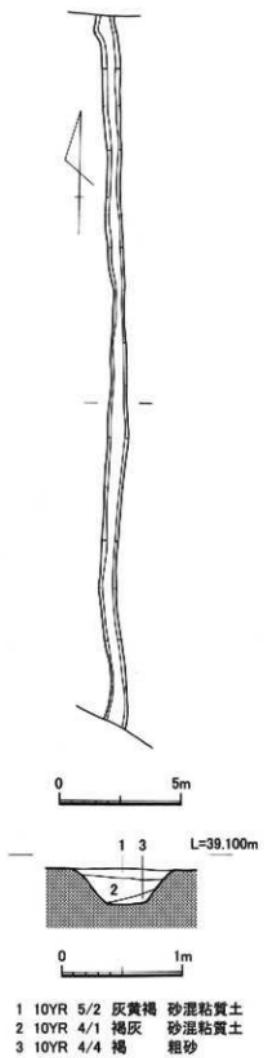
出土遺物は 96 図に掲載した。S63 は凹基式の石鏃である。細長い形態で、先端部を欠く。出土遺物から弥生時代中期前半の可能性が考えられるが、古代の掘立柱建物跡 SB21001 の南辺柱穴列の延長部分で、ほぼ等間隔に並ぶ 4 基のピット群の 1 つであり、古代の遺構の可能性も考えられる。



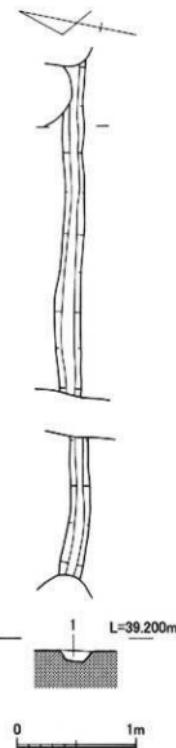
第 87 図 SK21029 平・断面図

1 10YR 4/3 にぶい黄褐色 粗砂

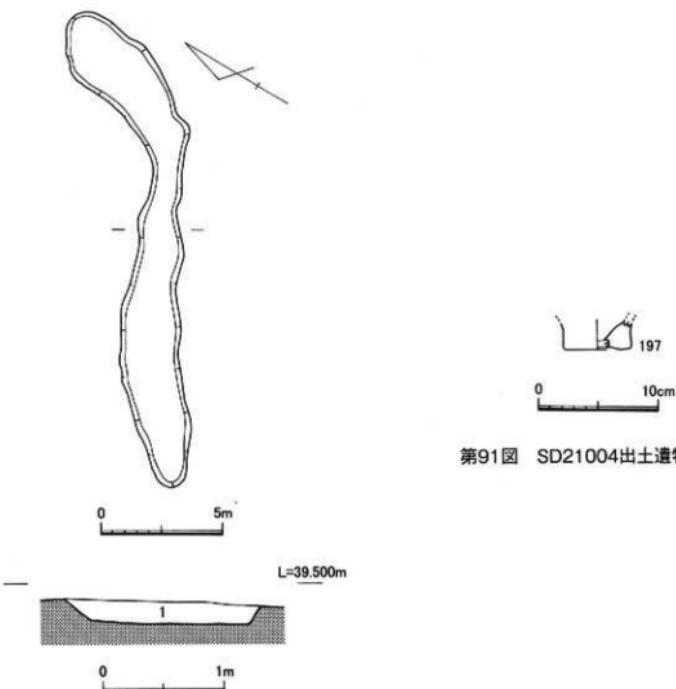
2 10YR 3/3 暗褐色 粗砂



第88図 SD21001平面図(S=1/200)
及び断面図(S=1/40)



第89図 SD21002平・断面図



第90図 SD21004平面図($S=1/200$)
及び断面図($S=1/40$)

SP21209 (第23・96図)

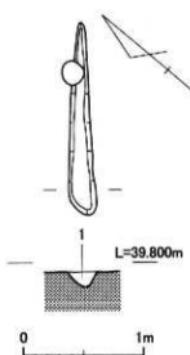
調査区中央部で検出したビットである。平面形態は円形を呈し、直径30cm、深さ20cmを測る。断面形態はU字を呈する。

出土遺物は96図に掲載した。S64は石庖丁である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

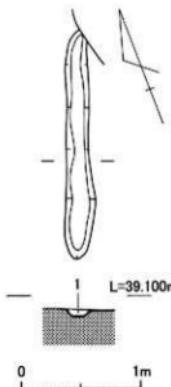
SP21216 (第23・96図)

調査区中央部で検出したビットである。平面形態は梢円形を呈し、長径30cm、短径20cm、深さ20cmを測る。断面形態はU字を呈する。

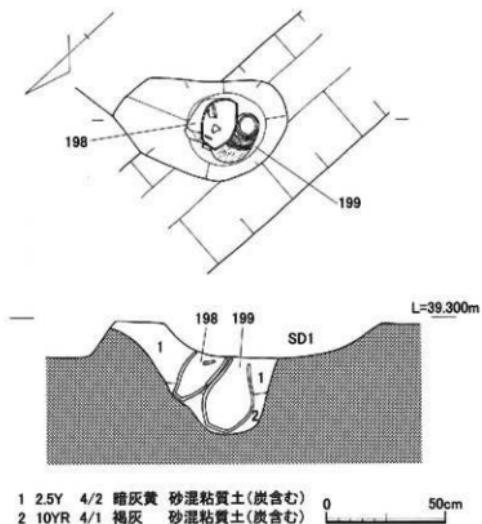
出土遺物は96図に掲載した。S65は剥片である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



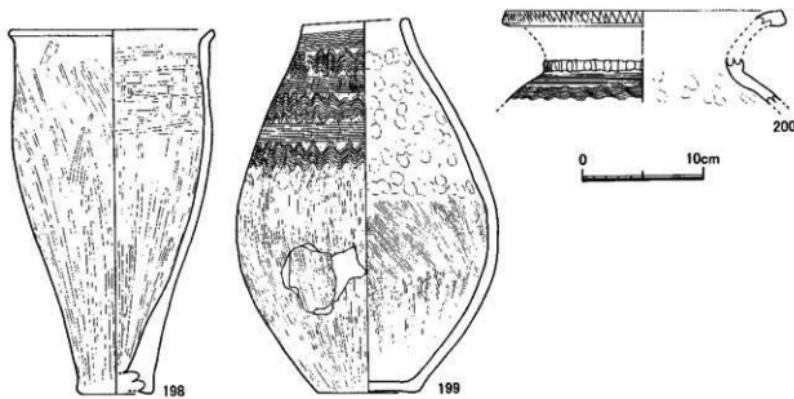
第92図 SD21005平・断面図



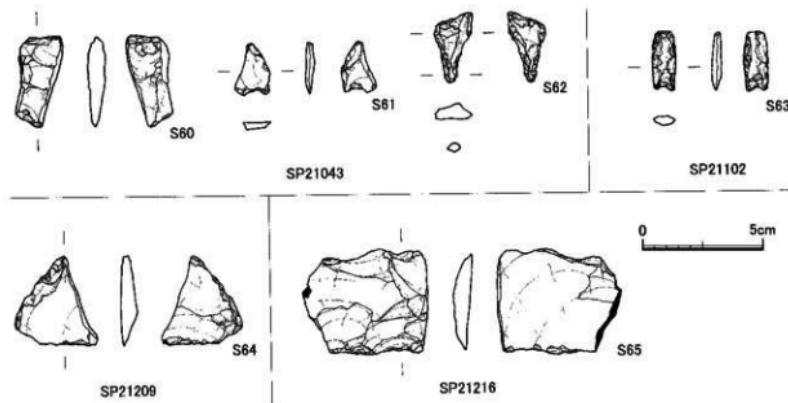
第93図 SD21006平・断面図



第94図 SP21086平・断面図 (S = 1/20)



第95図 SP21086出土遺物実測図



第96図 ピット出土遺物実測図

第4章 まとめ

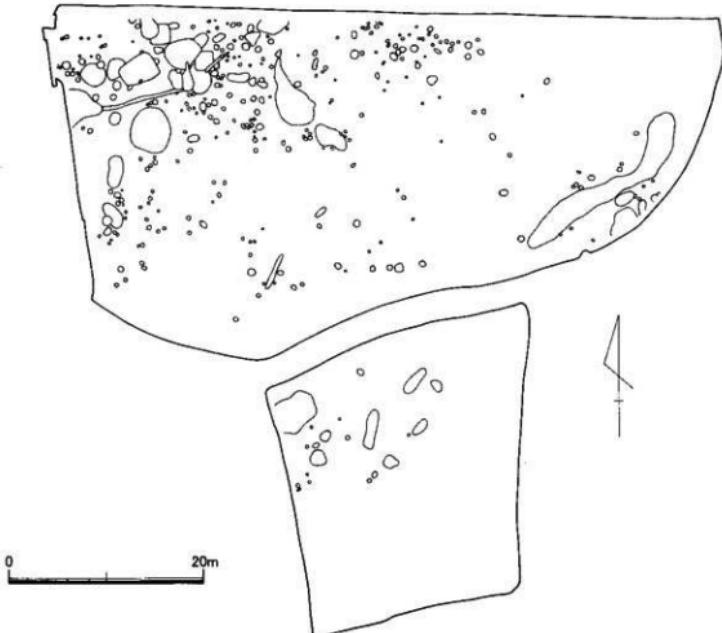
第1節 遺構の変遷について

奥の坊遺跡は、主に弥生時代中期前半の集落遺跡で、近世までの遺構・遺物が検出されている。南向きの緩斜面に営まれた集落のほぼ全域を発掘調査しており、今回の報告書では、その南端部分しか紹介できていないが、本報告書で取り上げたI・II区の遺構の変遷を考えたい。I・II区においては、弥生時代中期前半、古代、近世以降の3時期の遺構・遺物が検出されている。

弥生時代中期前半

当概調査区で最も多く遺構・遺物を検出した時期である。調査地は南向きの緩斜面となっており、出土遺物の大半は包含層中のもので、II区北側のIII・VI区の集落の中心部から流れ込んだものと考えられる。土器に比して石器の量が多く、素材剥片を含む剥片類や未製品も見られる。なお、III・VI区の集落中心部の調査では、その傾向が顕著に見られ、石器の制作を行っていたと考えられる。

遺構はSH12001、SH21001～21003の4棟の竪穴住居を検出している。土坑や柱穴も多く検出しており、集落域であったと考えられる。遺構の分布は、調査地の北東部が削平されていることもあるが、概ねII区北西部に偏る傾向を示し、I区南半では全く検出していない。このため、I区北半部分が集落域の南限であると考えられる。なお、試掘調査において、II区東側からI区南側へ流れる深い山河道の存



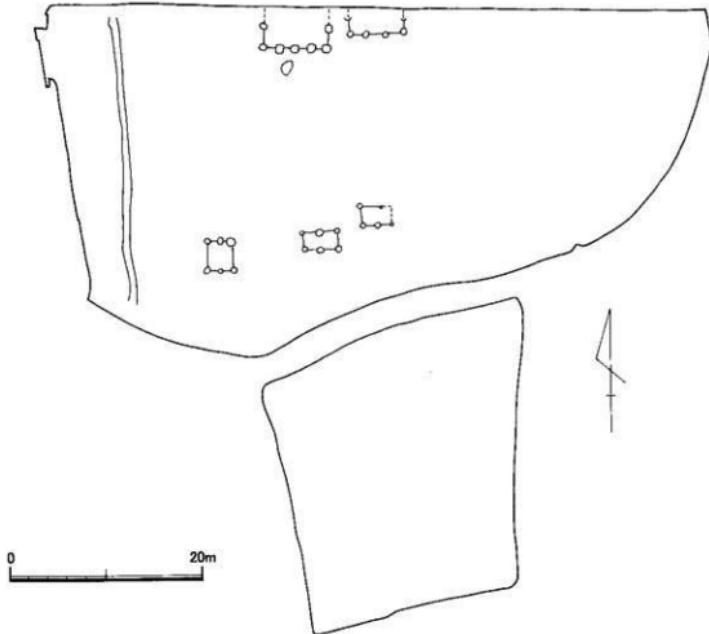
第97図 弥生時代中期前半の遺構平面図

在が確認されており（大嶋 1999），I 区西側も現況で 1m 以上の段差が見られることから，地形的な制約を受けたと考えられる。

古代

包含層中には一定量の土師器や須恵器が見られることから，古代の遺構が想定されるが，確実な古代の遺跡としては，土師器の甕が出土した SK21018 のみである。遺物は出土していないが古代の遺構と考えられるものは，主軸方位がほぼ南北を示す溝 SD21001 及び主軸方位がほぼ東西を示す掘立柱建物跡 SB21001～21005 の 5 棟があげられる。本報告書では掲載していないが，東側に隣接する奥の坊塙現前遺跡で検出した溝 SD53001 は，ほぼ東西方向の主軸をとり，その延長部分と考えられる溝が北側のⅢ区で検出されていることから，古代の遺構と考えられる。また，奥の坊塙現前遺跡においては，SD53001 の南側において掘立柱建物跡を 2 棟検出しており，今回の調査区でも，同様の傾向が認められ，古代においては奥の坊塙現前遺跡と一体の集落であったと考えられる。

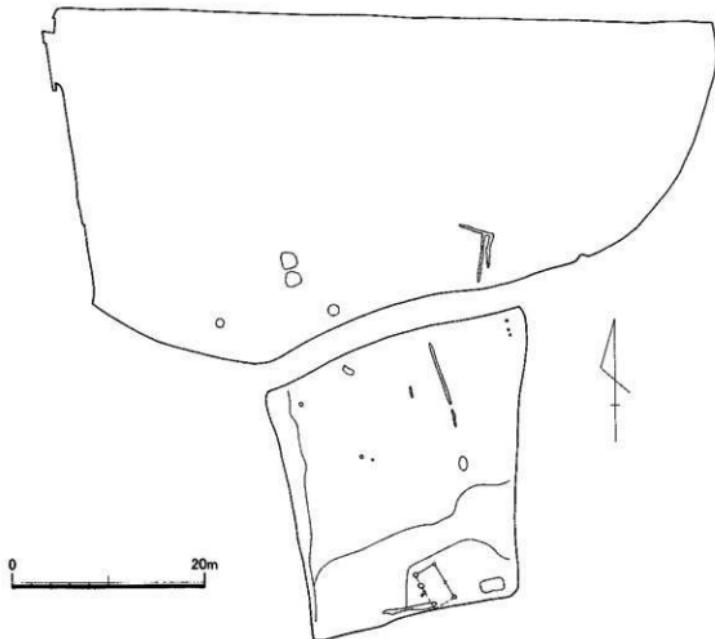
なお，今回の調査で検出した古代の遺構は，図視的に見れば，約 800～900m 西側に所在する小山南谷遺跡や新田本村遺跡において検出された N-5°-E の方位の条里地割を基準としていると考えられる。同方位は山田郡の条里地割 N-11°-E と異なる異方位条里地割であることから，山田郡北部条里地割と呼称されている（藤好 1997）。



第98図 古代の遺構平面図

近世以降

今回の調査では、II区において近世の遺構面を調査しておらず、またI区東半の削平が著しいことから、正確な遺構の分布状況をつかむことはできない。近世以降としたが、さらに2時期に細別できる。当該期で最も古い遺構は、I区南東端で検出した土坑SK11001で、中世末～近世初頭の時期が考えられる。しかし、同時期と考えられる遺構は他に無い。その他の検出遺構は概ね19世紀以降のものと考えられる。I区南端において掘立柱建物跡SB11001を検出しており、その北側を自然河道NR11001が東から南へ向かって流れている。なお、自然河道より北側については、小規模な土坑やピットはあるものの、鶴溝なども見られることから、耕作地として利用されていたことがうかがえる。



第99図 近世以降の遺構平面図

第2節 高松平野における石器素材剥片

香川県は、石器の素材として利用されるサヌカイトの原産地である。旧石器時代から使用されており、その流通は広範囲にわたる。石器の流通には、製品が運ばれる場合と、素材が運ばれ集落内で生産される場合が考えられる。奥の坊遺跡では、石器が多量に出土すること、剥片が多量に出土すること、未製品が一定量含まれること、定型化しない不整形な石器が多いことから、石器の製作を行っていたと考えられ、II区ではサヌカイトの大型素材剥片（第100図1・2）が出土しており、素材を搬入していたことが伺える。

高松平野内の大型素材剥片については不明であったが、近年その報告例が散見できる。今回は概ね200g以上の素材剥片を対象とし集成を行った。高松平野で最も古い事例は、鬼無藤井遺跡出土のもので、弥生時代前期前半～中葉と考えられる。それ以前の様相については、高松平野においては、遺跡数が少ないこともあり不明である。同じく前期と考えられるものは、空港跡地遺跡出土のものである。中世の井戸から出土しているため詳細は不明であるが、周辺に弥生時代前期末の遺構が認められることから、混入の可能性が考えられる。弥生時代中期になると報告例が多く、奥の坊遺跡をはじめ、多肥松林遺跡や浴・長池遺跡において出土しており、素材が多く流通していたと考えられる。特に、浴・長池遺跡では2800gの素材剥片が出土しており、高松平野で最大のものである。一方、弥生時代後期から終末期の遺跡からの報告例は見られない。このため、石器生産のあり方や流通の変化があったことが予想される。

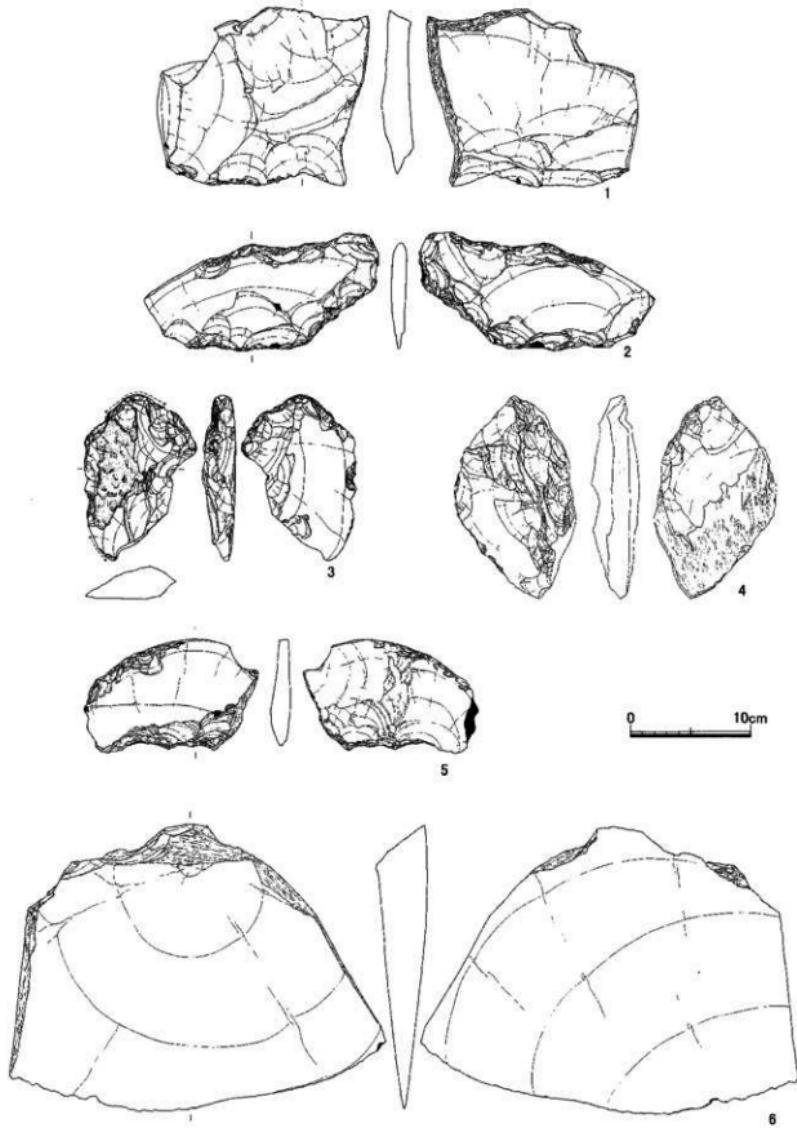
また、素材剥片は3種類に分類できる。まずI類として、第100図1・6・第101図7のように特に大きいもので、自然面や大剥離面を残し、重量が重いものが見られる。石材採取地において採取された状態に近いと考えられる。次にII類として、3・4のようにやや分厚く打削され、石核状を呈したもので、周囲に剥離痕が見られる。また、III類として2・5に見られるように、やや小振りに打削され、扁平な形態を呈し、周囲を打ち欠いているものが認められる。これらは、未製品の状態に近く、細部調整を行えば十分石器として使用できるようなものである。なお、I～III類の剥片形態による分布や時期的な差は認められない。I類は確実に石材採取地から直接搬入されたものと考えられるが、II・III類は石材採取地で打削されたものであるか、各集落内においてI類から打削されたものであるかは不明である。今後の発掘調査成果で明らかになることを期待する。

高松平野出土の大型素材剥片（概ね200g以上のもの）

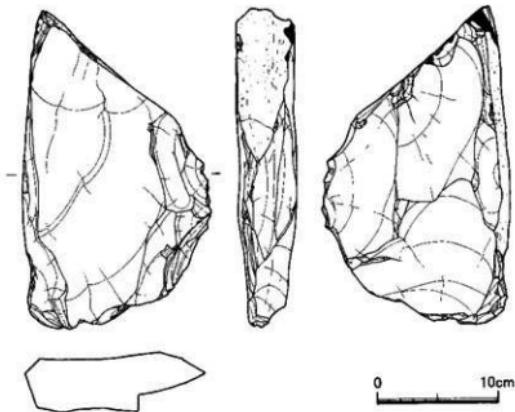
| | 遺跡名 | 遺構名 | 長辺 | 短辺 | 厚み | 重量 | 時期 |
|---|---------|--------------|--------|--------|-------|---------|----------|
| 1 | 奥の坊遺跡 | 包含層 | 17.6cm | 14.6cm | 2.6cm | 700.0g | 中期前半末 |
| 2 | 奥の坊遺跡 | 包含層 | 19.5cm | 9.6cm | 1.3cm | 291.6g | 中期前半末 |
| 3 | 多肥松林遺跡 | 予備洞室11トレンチSR | 12.5cm | 8.1cm | 2.8cm | 277.6g | 中期中葉～後半 |
| 4 | 空港跡地遺跡V | SEa01 | 15.6cm | 9.9cm | 4.0cm | 529.7g | 不明（前期末？） |
| 5 | 浴・長池遺跡 | 3区（未報告資料） | 14.5cm | 9.3cm | 1.7cm | 222.7g | 中期中葉 |
| 6 | 浴・長池遺跡 | SR01（未報告資料） | 31.0cm | 23.3cm | 4.2cm | 2800.0g | 中期中葉 |
| 7 | 鬼無藤井遺跡 | SP-A2-01 | 25.9cm | 15.5cm | 4.8cm | 2200.0g | 前期前半～中葉 |

参考文献

- 井上勝之 1980「サヌカイト製石器の製作址」『香川県自然科学館研究報告 第2巻』香川県自然科学館
- 大鷲和則 1999『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 奥の坊遺跡群Ⅰ』高松市教育委員会
- 大鷲和則 2000『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 川南・東遺跡』高松市教育委員会
- 大鷲和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 奥の坊遺跡群Ⅱ』高松市教育委員会
- 大鷲和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 奥の坊遺跡群Ⅲ』高松市教育委員会
- 大鷲和則 2004『高松市指定史跡「久本古墳」』高松市教育委員会
- 大鷲和則 2006『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 奥の坊遺跡群Ⅳ』高松市教育委員会
- 小川賢 2001『高松港頭地区内開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 鬼無藤井遺跡』高松市教育委員会
- 片桐孝浩 1994『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 小山・南谷遺跡 平成5年度』香川県教育委員会
- 片桐孝浩 1997『県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅰ』香川県教育委員会



第100図 高松平野出土の大型素材剥片①(S=1/4)



第101図 高松平野出土の大型素材剥片②(S=1/4)

木下晴一 2000『県道高松志度線緊急整備工事および県立鹿屋短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 原中村遺跡』香川県教育委員会

木下晴一 2002『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第5番 空港跡地遺跡V』香川県教育委員会

奥木晋司・森下友子 1992『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1番 東山崎・水田遺跡』香川県教育委員会

吉田人郎 1992『弥生時代の石器牛產と流傳 - 羅坂平野における一樣札と近畿地域との関連性 - 』同志社大学考古学シリーズ V 考古学と生活史 同志社大学考古学シリーズ刊行会

高田浩司 2001『古墳に見られる弥生・時代中期における石器の牛產と流傳』『古代古倫 第23集』

高田浩司 2002『中部瀬戸内と畿内の打製石器 - その経済的侧面と觀念的侧面-』『考古学研究 第49卷 第1号』

中西克也 2006『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第3番 新田本村遺跡』高松市教育委員会

西岡達哉 2003『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第四十六番 池の奥遺跡・金堤羅山遺跡II』香川県教育委員会

森井雄三・山本英之 1989『久米池南遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会

古高松郷土誌編集委員会 1977『古高松郷土誌』

藤好史郎・西村尋文 1990『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 下川津遺跡』香川県教育委員会

藤好史郎 1997『県島城と城山城 - 古代山城研究の一視点 - 』『財團法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要V』謝香川県埋蔵文化財調査センター

森格也 1995『高松平野における弥生時代の石器牛產と流傳』『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6番 上天神遺跡』香川県教育委員会

森 格也 1997『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第7番 横部・川田遺跡I』香川県教育委員会

山下平重 1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1番 多肥松林遺跡』香川県教育委員会

山下平重 2000『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第三十六番 金堤羅山遺跡I・塔の山遺跡・庵の谷遺跡』香川県教育委員会

山本英之・山元敏裕 1993『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 泷・長池遺跡』高松市教育委員会

山元敏裕 1995『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 井手東1遺跡』高松市教育委員会

山元敏裕・末光平江 1999『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 川南・西遺跡』高松市教育委員会

山元敏裕 2003『史跡天然記念物斑鳩 - 史跡天然記念物斑鳩基礎調査事業調査報告書I-1』高松市教育委員会

觀 察 表

土壤観察表

| 番号 | 種類 | 地図 | 法面名 | 法面高さ(cm) | 外 面 | 内 面 | 色 調 | | 地土 | 成 |
|----|------------|----|---------|-------------|------------------------------|-----------------------|-----------------------------|-----------------------------|----|----|
| | | | | | | | (上)外側(下)内側 | | | |
| 1 | 汚生土器 無葉 | 14 | SK12006 | 5.2 (5.7) | タケヘラミガキ | ナデ | SIVR/4 にじいろ 7SVR/4 にじいろ | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 2 | 汚生土器 無葉 | 20 | SK11002 | 33.0 (10.8) | 高いタバコハの木様子夕タ少年 | ナデ | 7SVR/3 にじいろ 7SVR/3 にじいろ | 中 2mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 3 | 汚生土器 無葉 | 22 | SG11001 | 7.2 (2.8) | ナデ | ナデ 内側無筋 | 7SVR/3 白 7SVR/3 白 | 中 2mm以下の石英-長石含む | 細良 | 良好 |
| 4 | 汚生土器 無葉 | 22 | SG11001 | (1.3) | 根状葉-名木 ナデ | ナデ 内側無筋 | 7SVR/7 明赤 7SVR/7 明赤 | 細 2mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 5 | 汚生土器 無葉 | 25 | 包合層 | 24.6 (16.8) | タケヘラミの木らへラミガキ 透鏡文多孔-波状文1条 | ヨコヘラミガキ | 7SVR/3 にじいろ 10VR/2 にじいろ | 中や黒 2mm以下の石英-長石-角閃石-雲母含む | 良好 | 良好 |
| 6 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 15.0 (11.8) | ナデ 透鏡文多孔-波状文1条 | 指揮庄 | 10VR/3 にじいろ 10VR/3 にじいろ | 中や黒 4mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 7 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 20.4 (7.5) | ナデ | ナデ | 7SVR/5 明赤 7SVR/5 明赤 | 中 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 8 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 17.2 (5.7) | 透鏡文多孔 | マメツ | 60RC/5 細 60RC/5 細 | 中や黒 5mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 9 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 14.0 (4.0) | ナデ | ナデ | 5YR/6 橙 7SVR/7 橙 | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 10 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 23.0 (7.0) | マメツ | マメツ | 7SVR/6 橙 7SVR/6 橙 | 中や黒 5mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 11 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 20.0 (6.0) | ナデ | ナデ | 10VR/3 にじいろ 10VR/3 にじいろ | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 12 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 23.0 (5.8) | マメツ | マメツ | 7SVR/7 橙 10VR/4 にじいろ | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 13 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 24.4 (9.2) | マメツ | マメツ | 10VR/5 橙 7SVR/2 反黄褐 | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 14 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 20.8 (4.8) | マメツ | マメツ | 7SVR/7 橙 7SVR/7 橙 | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 15 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 32.2 (8.0) | マメツ | マメツ | 7SVR/6 橙 7SVR/6 橙 | 中や黒 5mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 16 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 29.0 (10.0) | マメツ | ナデ | 7SVR/7 橙 5YR/6 橙 | 中や黒 5mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 17 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 20.4 (4.5) | ナデ | ナデ | 7SVR/4 にじいろ 2YR/6 橙 | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 18 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 36.3 (8.6) | マメツ | マメツ | 7SVR/7 橙 7SVR/7 橙 | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 19 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 33.4 (10.4) | ナデ | ナデ | 5YR/6 橙 5YR/6 橙 | 中や黒 3mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 20 | 汚生土器 無葉 | 26 | 包合層 | 20.0 (3.1) | ヨコナデ | ヨコナデ | 2YR/6 橙 2YR/6 橙 | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 21 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 21.7 (6.2) | ナデ | ナデ | 10VR/3 にじいろ 10VR/3 にじいろ | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 22 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 21.0 (5.2) | ナデ | ナデ | 7SVR/4 にじいろ 7SVR/4 にじいろ | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 23 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 20.4 (7.1) | ナデ | 指揮ナデ | 10VR/2 にじいろ 10VR/4 にじいろ | 中や黒 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 24 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 25.8 (4.1) | マメツ | マメツ | 10VR/3 にじいろ 10VR/3 にじいろ | 中や黒 1mm以下の石英-長石-雲母含む | 良好 | 良好 |
| 25 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 18.8 (4.8) | ナデ | ナデ | 10VR/3 にじいろ 10VR/3 にじいろ | 中や黒 1mm以下の石英-長石-雲母含む | 良好 | 良好 |
| 26 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 26.6 (5.2) | マメツ | マメツ | 10VR/5 橙 2SV/1 反灰 | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 27 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 18.2 (3.6) | ナデ | ナデ | 7SVR/4 にじいろ 7SVR/4 にじいろ | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 28 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 5.1 (5.7) | ナデ | ナデ | 2YR/6 橙 2YR/7 にじいろ | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 29 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 21.0 (7.0) | ナデ | ナデ | 5YR/6 橙 5YR/7 橙 | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 30 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 13.0 (2.8) | タケヘラミ 樹形文 | マメツ | 2.5YR/5 明赤塊 2.5YR/5 反灰 | 中や黒 5mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 31 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 29.0 (8.0) | タケヘラミ 樹形文 透鏡文3脚 | タケヘラミ 透鏡文 透鏡文3脚 | 10RS/4 黑 7SVR/4 にじいろ | 中や黒 3mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 32 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 18.7 (3.8) | ナデ | ナデ | 5YR/4 にじいろ 10VR/1 反灰 | 中や黒 5mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 33 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 15.2 (0.8) | マメツ | マメツ | 7SVR/7 橙 7SVR/7 橙 | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 34 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 19.0 (4.0) | ナデ | ナデ | 7SVR/4 にじいろ 10VR/4 にじいろ | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 35 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 18.0 (4.0) | ナデ | ナデ | 2.5YR/3 にじいろ 10VR/4 にじいろ | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 36 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 18.2 (6.2) | ナデ | 指揮ナデ | 10VR/4 にじいろ 10VR/4 にじいろ | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 37 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 15.4 (7.1) | 指揮ナデ | ナデ | 5YR/6 橙 7SVR/6 橙 | 中や黒 5mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 38 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 18.2 (6.2) | ナデ | ナデ | 10VR/4 にじいろ 10VR/4 にじいろ | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 39 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 15.4 (7.1) | 指揮ナデ | ナデ | 5YR/6 橙 7SVR/6 橙 | 中や黒 5mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 40 | 汚生土器 無葉 | 27 | 包合層 | 18.0 (4.0) | ナデ | ナデ | 2.5YR/3 にじいろ 10VR/4 にじいろ | 中や黒 1mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |
| 41 | 汚生土器 無葉 | 28 | 包合層 | (6.1) | ナデ | ナデ | 5YR/4 にじいろ 5YR/6 明赤 | 中 5mm以下の石英-長石-角閃石含む | 良好 | 良好 |
| 42 | 汚生土器 無葉 | 28 | 包合層 | 26.0 (6.7) | ナデ | 指揮ナデ | 7SVR/6 橙 7SVR/6 橙 | 中や黒 3mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 43 | 汚生土器 無葉 | 28 | 包合層 | 23.4 (5.3) | マメツ | ナデ | 10VR/4 にじいろ 7SVR/4 にじいろ | 中や黒 4mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 44 | 汚生土器 無葉 | 28 | 包合層 | 21.6 (4.1) | マメツ | マメツ | 7SVR/5 にじいろ 2.5YR/5 明赤 | 中や黒 3mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 45 | 汚生土器 無葉 | 28 | 包合層 | 6.4 (4.6) | マメツ | マメツ | 10RS/6 黑 10RS/4 反灰 | 中 2mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 46 | 汚生土器 無葉 | 28 | 包合層 | 5.8 (4.5) | ナデ | ナデ | 2.5YR/5 黑 10VR/2 反黄褐 | 中や黒 4mm以下の石英-長石含む | 良 | 良 |
| 47 | 汚生土器 無葉 | 28 | 包合層 | 8.0 (3.4) | ナデ | 指揮ナデ | 7SVR/6 にじいろ 10VR/2 にじいろ | 中や黒 5mm以下の石英-長石含む | 良好 | 良好 |

| 番号 | 種類 | 番号 | 遺傳名 | 遺傳(cm) 口幅(底幅) 高さ | 外観 | | 内観 | | 色調 (左=外側、右=内側) | | 胎土 | 便成 |
|----|------------|----|---------|---------------------|------------------|--------------|---------------|-------------------|-------------------|---|----|----|
| | | | | | 幅 | 高さ | 幅 | 高さ | 色 | 調 | | |
| 46 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 7.6 (5.1) | タテヘラミガキ | 指屈圧 | SYR6-1 緑 | 中や緑 | 良好 | | | |
| | | | | | | | SYR6-2 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 49 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 6.8 (7.0) | タテヘラミガキのち頂屈圧 | 指屈圧+ナデ | SYR6-3 緑 | 中や緑 | 良好 | | | |
| | | | | | | | SYR6-4 に少し黄緑 | 4cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 50 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 6.0 (8.3) | 板ナデ | ナデ | SYR6-5 緑 | 中や緑 | 良好 | | | |
| | | | | | | | SYR6-6 灰 | 1cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 51 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 5.0 (5.0) | タテヘラミガキ | ナデ | SYR6-7 に少し褐 | やや褐 | 良好 | | | |
| | | | | | | | SYR6-8 黄褐色 | 1cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 52 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 5.1 (3.1) | タテヘラミガキ | 指屈圧 | SYR6-9 に少し褐 | やや褐 | 良好 | | | |
| | | | | | | | SYR6-10 黄褐色 | 1cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 53 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 11.2 (4.7) | タテヘラミガキ | 指屈圧+ナデ | SYR6-11 緑 | 中や緑 | 良好 | | | |
| | | | | | | | SYR6-12 灰 | 3cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 54 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 5.0 (4.0) | 指屈圧のち板ナデ | マツツ | SYR6-13 に少し赤 | やや紅 | 良好 | | | |
| | | | | | | | SYR6-14 に少し黄緑 | 5cm以下の石英・長石・黒母石含む | | | | |
| 55 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 7.8 (3.8) | タテハケ | マツツ | SYR6-15 緑 | 中や緑 | 良好 | | | |
| | | | | | | | SYR6-16 に少し黄緑 | 1cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 56 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 9.0 (5.5) | タテヘラミガキ | マツツ | SYR6-17 緑 | 中や緑 | 良好 | | | |
| | | | | | | | SYR6-18 灰 | 7cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 57 | 野生土器 瓶型 | 26 | 社会層 | 6.6 (3.6) | マツツ | 指屈圧+ナデ | SYR6-19 紫 | 中や紫 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-20 灰 | 2cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 58 | 野生土器 瓶型 | 29 | 包含層 | 7.6 (3.6) | ナデ | ナデ | SYR6-21 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-22 黄褐色 | 1cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 59 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 5.0 (4.0) | 指屈圧のち板ナデ | マツツ | SYR6-23 に少し赤 | やや紅 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-24 に少し黄緑 | 5cm以下の石英・長石・黒母石含む | | | | |
| 60 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 7.8 (3.8) | タテハケ | マツツ | SYR6-25 紫 | 中や紫 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-26 灰 | 7cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 61 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 10.3 (3.4) | マツツ | マツツ | SYR6-27 紫 | 中や紫 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-28 黄褐色 | 3cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 62 | 野生土器 瓶型 | 29 | 包含層 | 6.8 (4.9) | マツツ 円凸2箇所対称方向 | マツツ | SYR6-29 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-30 黄褐色 | 1cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 63 | 野生土器 瓶型 | 28 | 包含層 | 7.8 (3.4) | ナデ | ナデ | SYR6-31 紫 | 中や紫 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-32 灰 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 64 | 土器底 | 29 | 包含層 | 23.0 (4.3) | マツツ | マツツ | SYR6-33 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-34 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 65 | 土器底 | 29 | 包含層 | 15.4 (5.0) | マツツ | マツツ | SYR6-35 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-36 黄褐色 | 4cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 66 | 土器底 | 29 | 包含層 | 17.6 (13.6) | 1.5 ナデ | ナデ | SYR6-37 黄褐色 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-38 黄褐色 | 1cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 67 | 土器底 | 29 | 包含層 | 12.8 (2.6) | ナデ | ナデ | SYR6-39 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-40 黄褐色 | 1cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 68 | 深基盤 | 29 | 包含層 | 8.0 (2.6) | 圓転ナデ | 圓転ナデ | SYR6-41 黄褐色 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-42 白 | 白 | 不良 | | | |
| 69 | 深基盤 | 29 | 包含層 | 6.8 (1.5) | マツツ | マツツ | SYR6-43 黄褐色 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-44 に少し褐 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 70 | 深基盤 | 29 | 包含層 | 9.6 (2.5) | 圓転ナデ | 圓転ナデ | SYR6-45 黄褐色 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-46 白 | 白 | 不良 | | | |
| 71 | 深基盤 | 29 | 包含層 | 6.6 (1.6) | 圓転ナデ | 圓転ナデ | SYR6-47 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-48 黄褐色 | 1cm以下の石英・長石・黒母石含む | | | | |
| 72 | 深基盤 | 29 | 包含層 | 13.7 (1.4) | 圓転ナデ | 圓転ナデ | SYR6-49 黄褐色 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-50 白 | 白 | 不良 | | | |
| 73 | 野生土器 瓶型 | 28 | SK12001 | 4.8 (1.5) | マツツ | マツツ | SYR6-51 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-52 黄褐色 | 2cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 74 | 野生土器 瓶型 | 36 | SK12001 | 6.0 (2.4) | マツツ | 指屈圧 | SYR6-53 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-54 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 75 | 野生土器 瓶型 | 36 | SK12001 | 11.1 (3.6) | マツツ | 指屈圧 | SYR6-55 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-56 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 76 | 野生土器 瓶型 | 36 | SK12002 | 6.2 (15.6) | タテヘラミガキ | 指屈圧 | SYR6-57 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-58 黄褐色 | 1cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 77 | 野生土器 瓶型 | 36 | SK12002 | 18.4 (2.4) | ナデ | ナデ | SYR6-59 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-60 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 78 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 19.0 (2.4) | マツツ | マツツ | SYR6-61 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-62 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 79 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 23.8 (2.8) | マツツ | マツツ | SYR6-63 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-64 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 80 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 19.6 (2.6) | マツツ | マツツ | SYR6-65 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-66 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 81 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 19.0 (4.5) | マツツ | ヨコヘラミガキ | SYR6-67 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-68 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 82 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 19.2 (3.6) | マツツ | 指屈圧 | SYR6-69 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-70 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 83 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 19.0 (15.6) | タテハケ・タテヘラミガキ | 指屈圧のちヨコヘラミガキ | SYR6-71 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-72 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 84 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 18.0 (2.0) | ナデ | ナデ | SYR6-73 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-74 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 85 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 19.2 (3.0) | ナデ | ナデ | SYR6-75 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-76 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 86 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 13.6 (0.8) | タテヘラミガキ | 指屈圧 | SYR6-77 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-78 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 87 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | (3.6) | マツツ | 指屈圧 | SYR6-79 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-80 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 88 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | | タテヘラミガキ 埋没の跡乳 | 指屈圧 | SYR6-81 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-82 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 89 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 8.0 (2.6) | マツツ | マツツ | SYR6-83 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-84 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 90 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 6.6 (3.1) | マツツ | マツツ | SYR6-85 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-86 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 91 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 7.8 (2.7) | マツツ | 指屈圧 | SYR6-87 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-88 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 92 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 7.6 (2.6) | ナデ | ナデ | SYR6-89 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-90 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 93 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 7.8 (8.7) | マツツ | マツツ | SYR6-91 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-92 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 94 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 8.0 (2.6) | 指屈圧 | 指屈圧 | SYR6-93 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-94 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |
| 95 | 野生土器 瓶型 | 45 | SK21001 | 10.8 (4.6) | マツツ | マツツ | SYR6-95 に少し褐 | やや褐 | 良 | | | |
| | | | | | | | SYR6-96 黄褐色 | 5cm以下の石英・長石含む | | | | |

| 物名 | 器種 | 牌名 | 法面(cm) [国際規格 記載] | 外 面 | | 内 面 | 色 調 (上 : 外面 下 : 内面) | 助土 | 備考 |
|----------------|---------|------------|-------------------------|-----------------|----------------------------------|------------------------|--------------------------|----|----|
| | | | | 前面 | 側面 | | | | |
| 96 休生土器 蓋部 | 5K21001 | 10.0 (5.7) | タテヘラミガキ | 陶磁質 | 7SYR5/6 植 7SYR7/6 にじい焼 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 97 休生土器 蓋部 | 5K21001 | 10.0 (2.6) | タテヘラミガキ | 粗いヨコハケのちヨコヘラミガキ | 7SYR5/6 長 7SYR7/6 植 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 98 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 33.0 (7.0) | マメツ | ヨコラミガキ | 7SYR5/6 植 7SYR7/6 にじい焼 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良好 | | |
| 99 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 20.4 (1.4) | ナデ | ナデ | 7SYR7/6 植 7SYR8/6 植 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 100 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 20.4 (1.3) | ナデ | ナデ | 10YR5/2 黄褐色 10YR5/1 鮎灰 | やや暗 1mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 101 休生土器 蓋部 | 5K21006 | 20.0 (7.0) | 粗いヨコハケ 粗造文 | ヨコヘラミガキ | 7SYR7/4 にじい焼 | やや暗 3mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 102 休生土器 蓋部 | 5K21007 | 24.2 (0.6) | ナデ | ヨコヘラミガキ | 7SYR7/4 植 7SYR8/6 植 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 103 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 25.5 (3.8) | マメツ | マメツ | 10R8/5 純青 2SYR8/5 植 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 104 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 22.2 (3.5) | ナデ | ナデ | 7SYR4/2 沈褐色 7SYR4/1 鮎灰 | やや暗 1mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 105 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 23.2 (6.7) | マメツ | マメツ | 10YR7/3 にじい黄褐色 10YR5/2 黄褐色 | やや暗 3mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 106 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 27.8 (4.6) | マメツ | 板ナデ | 10YR5/2 沈褐色 10YR5/1 沈褐色 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 107 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 13.0 (0.5) | 陶磁斑・ナデ | 陶磁斑・ナデ | 10YR7/3 にじい黄褐色 10YR7/4 にじい青褐色 | やや暗 3mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 108 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 5.4 (3.7) | ナデ | ナデ | 5YR7/6 植 7SYR7/6 にじい焼 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 109 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 7.2 (4.2) | ナデ | 陶磁斑 | 2SYR7/6 植 2SYR8/6 植 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 110 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 7.0 (3.1) | ナデ | 陶磁斑ナデ | 5SYR7/5 陶斑 7SYR4/4 にじい焼 | やや暗 3mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 111 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 8.6 (3.5) | 陶頭ナデ | 陶頭ナデ | 2.5YR5/6 明赤褐 7SYR7/6 植 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 112 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 7.6 (5.0) | マメツ | 陶頭斑 | 10YR5/2 黄褐色 10YR6/2 沈斑 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 113 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 9.0 (3.0) | マメツ | マメツ | 10YR5/2 にじい青褐色 10YR5/3 にじい青褐色 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 114 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 8.0 (5.6) | タテヘラミガキ | 陶頭ナデ | 7SYR5/4 にじい焼 10YR5/2 にじい青褐色 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良好 | | |
| 115 休生土器 蓋部 | 5K21006 | 16.0 (7.5) | タテラミガキ 結合痕 | マメツ | 7SYR7/6 植 7SYR8/6 植 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 116 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 8.5 (6.1) | マメツ | 陶頭斑 | 2.5YR6/4 にじい焼 7SYR7/6 植 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 117 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 8.0 (6.7) | ナデ | ナデ | 7SYR5/6 E-S-G4 植 10YR5/2 沈斑 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良好 | | |
| 118 休生土器 蓋部 | 5K21005 | 11.0 (1.8) | 陶軸ナデ | 陶軸ナデ | 5YR7/6 植 9YR7/1 植 | やや暗 1mm 以下の石英・長石含む | 良好 | | |
| 119 休生土器 蓋部 | 5K21010 | マサ | マサ | マサ | 2.5YR7/6 植 2SYR5/5 明赤褐 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 120 休生土器 蓋部 | 5K21010 | マサ | マサ | マサ | 10YR5/2 沈褐色 10YR5/3 沈褐色 | やや暗 1mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 121 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 18.2 (2.6) | マメツ | マメツ | 8YR5/3 にじい焼 SYR5/6 明赤褐 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 122 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 18.0 (5.0) | タテハケ・陶軸斑のちタテヘラミガキ | ヨコヘラミガキ・陶軸斑 | 7SYR5/4 にじい焼 8YR5/4 にじい焼 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 123 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 22.6 (7.0) | マメツ | 陶軸斑 | 7SYR7/2 沈褐色 7SYR4/2 にじい焼 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 124 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 27.0 (5.5) | ナデ | ナデ | 7SYR7/2 沈褐色 7SYR8/6 植 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 125 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 27.0 (4.5) | マメツ | マメツ | 7SYR7/2 沈褐色 7SYR7/2 植 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 126 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 9.0 (3.6) | マメツ | マメツ | 7SYR7/4 にじい焼 7SYR7/4 植 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 127 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 9.5 (5.3) | タテヘラミガキ | ナデ | 10YR7/2 沈褐色 10YR7/2 沈褐色 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 128 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 8.2 (3.1) | マメツ | マメツ | 5YR7/6 植 10YR5/4 にじい焼 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 129 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 9.9 (4.6) | マメツ | 陶頭斑 | 10YR5/4 にじい焼 10YR5/4 にじい焼 | やや暗 4mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 130 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 7.4 (3.2) | マメツ | マメツ | 10YR5/3 にじい焼 2.5YR4/6 鮎灰 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 131 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 8.0 (4.6) | タテヘラミガキ | マメツ | 10YR5/3 にじい焼 2.5YR2/2 陶軸 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 132 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 8.8 (3.7) | タテヘラミガキ | マメツ | 7SYR7/6 植 7SYR8/4 にじい焼 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 133 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 5.2 (5.8) | タテヘラミガキ | マメツ | 7SYR5/4 にじい焼 7SYR4/3 植 | やや暗 2mm 以下の石英・長石・含む | 良 | | |
| 134 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 9.6 (5.2) | マメツ | マメツ | 10YR5/6 植 10YR5/6 植 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 135 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 5.8 (3.4) | マメツ | ナデ | 10YR5/3 にじい焼 2.5YR4/2 陶軸 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 136 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 1.2 (4.5) | マメツ | マメツ | 5YR7/6 植 10YR5/2 沈褐色 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 137 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 8.0 (2.6) | マメツ | マメツ | 5YR5/8 明赤褐 5YR7/6 陶軸 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 138 休生土器 蓋部 | 5K21010 | 5.4 (1.9) | マメツ | 陶頭斑 | 10YR5/4 にじい焼 10YR4/4 反射褐色 | やや暗 2mm 以下の石英・長石含む | 良好 | | |
| 139 休生土器 蓋部 | 5K21011 | 19.8 (2.8) | ナデ | ナデ | 2.5YR3/3 陶軸 10YR5/2 沈褐色 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 140 休生土器 蓋部 | 5K21011 | 19.4 (2.2) | ナデ | ナデ | 2.5YR5/2 沈褐色 2.5YR5/2 沈褐色 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良好 | | |
| 141 休生土器 蓋部 | 5K21011 | 17.8 (4.1) | ナデ | ナデ | 2.5YR7/3 沈褐色 2.5YR7/3 沈褐色 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良好 | | |
| 142 休生土器 蓋部 | 5K21011 | 19.6 (6.0) | マメツ | マメツ | 1.5YR7/4 にじい焼 10YR7/3 にじい焼 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 143 休生土器 蓋部 | 5K21011 | 18.0 (5.7) | タテハケ・波状文 刻文 | ヨコヘラミガキ・陶頭斑 | 5YR5/3 にじい焼 10YR5/2 にじい焼 | やや暗 5mm 以下の石英・長石含む | 良 | | |

| 番号 | 種類 | 年回 | 調査名 | 法面(cm) 日付(月日) | 外　面 | 内　面 | 色　様 | | 地土 | 備考 |
|-----|-------------|----|---------|---------------------|-------------------------|--------------|--|------------------------------|------------------------|----|
| | | | | | | | (上)正面 (下)側面(内) | (上)背面 (下)側面(内) | | |
| 144 | 赤生土器 | 66 | SK21011 | 19.6 (5.0) | ナデ | ナデ | 3.5VRE/2 3.5VRE/3 | 灰白-褐 にぶい黒 | 中や白 3m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 145 | 赤生土器 | 66 | SK21011 | 21.7 (5.5) | タテヘラミガキ | タテヘラミガキ | 10VRE/4 10VRE/5 | にじる黒 にじる黒 | やや白 3m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 146 | 赤生土器 無鉛陶 | 66 | BK21011 | 9.8 (5.5) | ナデ 直線文3条・波状文 | 指揮庄・ナデ | 10VRE/3 10VRE/2 10VRE/4 10VRE/5 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 にじる黒 | やや白 3m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 147 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21011 | 20.4 (6.0) | ナデ | 指揮庄 | 10VRE/4 10VRE/5 | にじる黒 にじる黒 | 3m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 148 | 赤生土器 | 66 | SK21012 | 10.7 (2.1) | ナデ | ナデ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 | 黒 黒 | 中や白 4m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 149 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21013 | 19.8 (3.6) | ナデ | ナデ | 3.5VRE/3 3.5VRE/2 | にじる黒 灰 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 150 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21013 | 20.0 (3.8) | ナデ 直線文3条・波状文 | ナデ | 10VRE/3 10VRE/2 | 暗黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 151 | 赤生土器 | 66 | SK21014 | 22.6 (4.2) | ナデ | ナデ | 3.5VRE/4 3.5VRE/3 3.5VRE/2 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 152 | 赤生土器 | 66 | SK21014 | 22.8 (2.4) | マツツ | マツツ | 5VRE/4 5VRE/3 5VRE/2 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 1m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 153 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 16.6 (6.0) | ナデ | ヨコヘラミガキ | 3.5VRE/4 3.5VRE/3 3.5VRE/2 | 灰 にじる黒 にじる黒 | 中や白 1m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 154 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 28.6 (6.0) | 穂ナシタチハケ | 指揮庄のちヨコヘラミガキ | 10VRE/4 10VRE/3 3.5VRE/6 | にじる黒 にじる黒 黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 155 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 17.2 (6.1) | ナデ・マツツ・ナデ 直線文3条・波状文 | ヨコヘラミガキ・指揮庄 | 3.5VRE/4 3.5VRE/3 3.5VRE/2 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 156 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 18.0 (1.5) | ナデ | ナデ | 3.5VRE/4 3.5VRE/3 3.5VRE/2 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 157 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 14.7 (3.7) | マツツ | マツツ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 158 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 16.8 (3.5) | ナデ | ナデ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 159 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 15.4 (3.2) | マツツ | マツツ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | 黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 160 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 15.6 (4.6) | マツツ | ナデ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | 黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 161 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 16.4 (2.7) | マツツ 刮目 | マツツ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 162 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 17.0 (13.7) | ヨコヘラミガキのちタチハケのナラチ | ヨコヘラミガキ・相手 | 3.5VRE/3 3.5VRE/2 3.5VRE/1 ナラチ | にじる黒 にじる黒 にじる黒 ナラチ | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 163 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 15.7 (3.5) | ナデ | ナデ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | 黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 164 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 18.4 (4.7) | マツツ | 指揮庄 | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | 暗黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 165 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 18.7 (3.6) | タチハラミガキ | 海綿ナデ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 166 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 5.8 (9.1) | タチハラミガキ | ナデ | 10VRE/3 10VRE/2 10VRE/1 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 167 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 9.0 (4.0) | マツツ | 指揮庄 | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | 黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 168 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 4.8 (3.7) | ナデ 椎乳頭乳突 | 指揮子ナデ | 2.5VRE/2 2.5VRE/1 | 暗灰黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 169 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21014 | 18.8 (12.0) | マツツ | 指揮庄 | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | 暗黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 170 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21016 | 20.5 (7.1) | タチハラミガキ | 指揮庄 | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 171 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21016 | 17.0 (1.6) | マツツ | マツツ | DYRE/6 DYRE/5 DYRE/4 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 172 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21016 | 40.0 (6.0) | 南隕石 堆疊型 | 指揮庄 | 10VRE/3 10VRE/2 10VRE/1 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 173 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21016 | 22.6 (1.5) | マツツ | マツツ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | 黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 174 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21016 | 22.0 (4.5) | マツツ | マツツ | 3.5VRE/6 3.5VRE/5 3.5VRE/4 | 黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 175 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21016 | 25.0 (5.0) | マツツ | マツツ | SYRE/6 SYRE/5 SYRE/4 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 176 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21016 | 12.4 8.2 13.4 | マツツ 直線文・刻文文・円孔2列1対2方 | マツツ | 2.5VRE/6 2.5VRE/5 2.5VRE/4 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 177 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21016 | 8.3 (7.5) | マツツ | マツツ | 2.5VRE/6 2.5VRE/5 2.5VRE/4 | 暗灰黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 178 | 赤生土器 直線文 | 66 | SK21016 | 9.9 (8.2) | タチハラミガキ | マツツ | 2.5VRE/6 2.5VRE/5 2.5VRE/4 | 暗灰黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 179 | 赤生土器 直線文 | 71 | SK21017 | 44.4 (7.7) | マツツ | 指揮庄 | 10VRE/7 10VRE/6 10VRE/5 | 明黄褐 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 180 | 赤生土器 直線文 | 71 | SK21017 | 26.0 (2.3) | マツツ | マツツ | 10VRE/6 10VRE/5 10VRE/4 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 181 | 赤生土器 直線文 | 71 | SK21017 | 28.4 (3.0) | ナデ | ナデ | 7.5VRE/6 7.5VRE/5 7.5VRE/4 | 明黄褐 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 182 | 赤生土器 直線文 | 71 | SK21017 | 5.6 (4.3) | ナラチ | ナラチ | 7.5VRE/6 7.5VRE/5 7.5VRE/4 | 明黄褐 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 183 | 赤生土器 直線文 | 71 | SK21017 | 4.4 (4.6) | タチハラミガキ | ナデ | 10VRE/6 10VRE/5 10VRE/4 | 暗灰黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 184 | 赤生土器 直線文 | 73 | SK21018 | 18.0 (8.0) | 穂ナシタチハケ | 指揮庄のち穂ナシタチハケ | 10VRE/4 10VRE/3 10VRE/2 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 185 | 赤生土器 直線文 | 73 | SK21018 | 18.4 (9.3) | 穂ナシタチハケ スズベニ | 指揮庄 | 10VRE/4 10VRE/3 10VRE/2 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 186 | 赤生土器 直線文 | 73 | SK21018 | 18.4 (9.3) | 穂ナシタチハケ スズベニ | ナデ | 10VRE/4 10VRE/3 10VRE/2 | にじる黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 187 | 赤生土器 直線文 | 81 | SK21025 | 10.8 (4.6) | ナデ | 指揮庄 | 10VRE/6 10VRE/5 10VRE/4 | 暗灰黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 188 | 赤生土器 直線文 | 85 | SK21026 | 17.8 (5.2) | マツツ | マツツ | 10VRE/6 10VRE/5 10VRE/4 | 暗灰黒 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 189 | 赤生土器 直線文 | 85 | SK21026 | 21.2 (3.0) | マツツ | マツツ | 10VRE/7 10VRE/6 10VRE/5 | 明黄褐 暗灰黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 190 | 赤生土器 直線文 | 85 | SK21026 | 11.0 (7.7) | マツツ | 指揮庄 | 2.5VRE/2 2.5VRE/1 | 暗灰 暗黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |
| 191 | 赤生土器 直線文 | 85 | SK21026 | 25.5 (8.0) | マツツ | ナラチ | 10VRE/6 10VRE/5 10VRE/4 | 暗灰 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良 |
| 192 | 赤生土器 直線文 | 85 | SK21026 | 8.4 (8.0) | マツツ | 指揮庄 | 10VRE/6 10VRE/5 10VRE/4 | 暗灰 にじる黒 にじる黒 | 中や白 2m以下の石英-長石-蛋白石む | 良好 |

| 番号 | 種類 | 地区名 | 左側(cm) 右側直角・斜面 | 外 壁 | | 内 壁 | 毛 破 (上=斜面、下=内面) | 地 士 | 状 態 | |
|-----|-------------|-------------|-------------------|----------------------------------|-----------------------|------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|-----|--|
| | | | | マツツ | ナシ | | | | | |
| 192 | 劣生土層 底盤 | 85 SK2102B | 5.4 (2.2) | マツツ | マツツ | SYR5/3 にぶい異性 SYR5/1 黒塊 | 3mm以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 193 | 劣生土層 底盤 | 85 SK2102B | 7.0 (2.4) | ナシ | ナシ | SYR5/6 相 SYR7/6 横 | 2mm以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 194 | 劣生土層 | 85 SK2102B | 4.8 (3.4) | マツツ | マツツ | SYR5/6 横赤褐色 SYR5/1 黑塊 | 2mm以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 195 | 劣生土層 底盤 | 85 SK2102B | 7.0 (5.7) | マツツ | 指跡にのらナシ 指合痕 | SYR5/4 にぶい異性 SYR6/4 にぶい異性 | 2mm以下の石英・長石含む やや赤 | 良 | | |
| 196 | 劣生土層 底盤 | 85 SK2102B | 6.0 (5.9) | タチヘラミガキ | マツツ | SYR4/3 にぶい赤褐色 SYR5/3 变質端 | SYR5/3 下の石英・長石含む TAN5/3 下の石英・長石含む | 良好 | | |
| 197 | 劣生土層 底盤 | 91 SD210004 | 5.6 (2.8) | マツツ | マツツ | SYR7/4 にぶい異性 SYR7/4 にぶい異性 | SYR7/4 にぶい異性 3mm以下の石英・長石含む | 良 | | |
| 198 | 劣生土層 | 95 SP2108B | 16.4 26.7 | タチヘラミガキ | タチヘラミガキのちヨコヘラミガキ | SYR5/6 横赤褐色 SYR5/6 横 | SYR5/6 横赤褐色 SYR5/6 横 | やや赤 やや紅 | 良好 | |
| 199 | 劣生土層 底盤 | 95 SP2108B | 8.9 8.3 | タチハケのちタチヘラミガキ 斜積文3条・逆字文3条・複合痕 | 佐藤庄・タチハケ | SYR5/4 にぶい赤褐色 SYR6/6 横 | SYR5/4 にぶい赤褐色 SYR6/6 横 | やや赤 やや紅 | 良好 | |
| 200 | 劣生土層 底口層 | 95 SP2108B | 11.3 (4.5) | ナシ | 斜積文3条・逆字文・逆字文3条・複合文3条 | 佐藤庄 | SYR6/3 にぶい異性 SYR6/2 底質端 | SYR6/3 にぶい異性 2mm以下の石英・長石含む | 良 | |

石器觀察表

| 番号 | 器種 | 種別 | 遺構名 | 法面(cm) | | | 重量(g) | 石材 | 特徴 |
|-----|--------|----|----------|--------|------|-----|--------|-------|-----------------------|
| | | | | 高 | 幅 | 厚 | | | |
| S1 | 刮削 | 30 | 刮食層 | 19.5 | 9.6 | 1.3 | 291.6 | サスカイト | 細い開削。素材削片。 |
| S2 | 刮削 | 30 | 刮食層 | 17.6 | 14.6 | 2.6 | 700.0 | サスカイト | 素材削片。自然面を残す。 |
| S3 | 石鏟 | 31 | 刮食層 | 4.2 | 2.3 | 0.4 | 2.2 | サスカイト | 头部欠損。やや大型の石鏟。両面より剥離。 |
| S4 | 石鏟 | 31 | 刮食層 | 2.5 | 1.5 | 0.3 | 1.3 | サスカイト | 平底式。先端部を大きく。両面より剥離。 |
| S5 | 石鏟 | 31 | 刮食層 | 3.2 | 2.2 | 0.3 | 4.3 | サスカイト | 圓面より細く削離。 |
| S6 | 石小刀 | 31 | 刮食層 | 7.1 | 3.8 | 0.8 | 22.9 | サスカイト | 側縁部に自然面を残す。刃部は片面より調整。 |
| S7 | 石磨丁 | 31 | 刮食層 | 4.4 | 4.8 | 1.1 | 20.2 | サスカイト | 刃部は片面より調整。 |
| S8 | 石磨丁 | 31 | 刮食層 | 3.7 | 3.1 | 1.0 | 11.3 | サスカイト | 背部の一部のみ残る。 |
| S9 | 石磨丁 | 31 | 刮食層 | 3.0 | 4.1 | 0.5 | 6.3 | サスカイト | 側縫部のみ残る。わずかに抉りあり。 |
| S10 | 石磨丁 | 31 | 刮食層 | 3.7 | 3.4 | 0.9 | 9.9 | サスカイト | 背面のみ残る。 |
| S11 | 石磨丁 | 31 | 刮食層 | 1.9 | 3.1 | 0.6 | 3.4 | サスカイト | 側縫部のみ残る。抉りあり。 |
| S12 | 石磨丁 | 31 | 刮食層 | 5.2 | 4.8 | 0.6 | 17.9 | サスカイト | 刃部・背部とも両面より調整。 |
| S13 | 石磨丁 | 31 | 刮食層 | 4.9 | 5.2 | 1.6 | 42.2 | サスカイト | 両面より細く削離。 |
| S14 | 石磨丁 | 31 | 刮食層 | 6.6 | 3.8 | 0.8 | 20.2 | サスカイト | 側縫部に自然面を残す。 |
| S15 | 石磨丁 | 31 | 刮食層 | 9.0 | 6.8 | 1.2 | 84.3 | サスカイト | 両面より調整。半分残る。 |
| S16 | 石砧 | 32 | 刮食層 | 5.3 | 3.9 | 0.8 | 17.6 | サスカイト | 全面白色化。刃部は片面より調整。 |
| S17 | 石砧 | 32 | 刮食層 | 4.8 | 3.9 | 1.2 | 21.6 | サスカイト | 強打痕あり。質面に自然面が多く残す。 |
| S18 | 刮削 | 32 | 刮食層 | 1.9 | 2.0 | 0.7 | 2.2 | サスカイト | 刃部の一部のみ残る。 |
| S19 | 刮削 | 32 | 刮食層 | 2.0 | 2.2 | 0.7 | 5.1 | サスカイト | 刃部の一部のみ残る。 |
| S20 | 刮削 | 32 | 刮食層 | 2.6 | 2.5 | 0.5 | 4.6 | サスカイト | 刃部の一部のみ残る。 |
| S21 | 刮削 | 32 | 刮食層 | 4.2 | 3.7 | 0.7 | 8.8 | サスカイト | 削片を利用しやすさに刃部をつくる。 |
| S22 | 刮削 | 32 | 刮食層 | 2.7 | 4.3 | 0.6 | 8.5 | サスカイト | 片面より調整。 |
| S23 | 削器 | 32 | 刮食層 | 4.0 | 5.0 | 0.8 | 15.1 | サスカイト | 削片を利用しやすさに刃部をつくる。 |
| S24 | 削器 | 32 | 刮食層 | 5.1 | 4.8 | 1.0 | 30.3 | サスカイト | 削片を利用し刃部をつくる。 |
| S25 | 削器 | 32 | 刮食層 | 8.0 | 3.1 | 0.9 | 64.2 | サスカイト | 削片を利用し刃部をつくる。 |
| S26 | 石鑿 | 32 | 刮食層 | 3.5 | 2.9 | 1.3 | 10.1 | チートル | 完形品。 |
| S27 | 大型刮刃石斧 | 32 | 刮食層 | 6.2 | 6.7 | 2.9 | 142.7 | | 花崗岩。 |
| S28 | 大型刮刃石斧 | 33 | 刮食層 | 14.6 | 5.3 | 3.8 | 442.3 | 砂岩片岩 | 先端欠け。 |
| S29 | 大型刮刃石斧 | 33 | 刮食層 | 9.3 | 6.5 | 4.0 | 136.0 | 砂岩片岩 | 刃部のみ残る。薄削あり。 |
| S30 | 磨石 | 33 | 刮食層 | 3.0 | 5.4 | 2.5 | 76.0 | 砂岩 | 上面に擦痕あり。 |
| S31 | 磨石 | 33 | 刮食層 | 4.8 | 6.3 | 4.0 | 204.0 | 砂岩 | 研打痕あり。 |
| S32 | 石皿 | 33 | 刮食層 | 11.8 | 14.6 | 5.0 | 1200.0 | 砂岩 | 研打痕あり。叩き石に転用。 |
| S33 | 刮削 | 36 | SP210002 | 8.1 | 5.0 | 1.0 | 26.8 | サスカイト | 削片を利用し刃部をつくる。 |
| S34 | 石鑿 | 38 | SP212401 | 16.7 | 16.7 | 5.0 | 2400 | 砂岩 | 中央部がやや凹む。 |
| S35 | 石鑿 | 38 | SP212446 | 20.1 | 12.0 | 4.0 | 1300.0 | 砂岩 | 中央部がやや凹む。挫痕あり。 |
| S36 | 石鑿 | 38 | SP21278 | 2.7 | 1.1 | 0.5 | 1.0 | サスカイト | 完形品。既基式。両面より細く削離。 |
| S37 | 石鑿 | 46 | SK21001 | 8.0 | 4.6 | 1.2 | 40.6 | サスカイト | 刃部は両面より削離。自然面を残す。 |
| S38 | 石鑿 | 46 | SK21001 | 3.9 | 4.0 | 1.5 | 17.6 | サスカイト | 既基式。刃部のみ残る。 |
| S39 | 石鑿 | 45 | SK21001 | 3.9 | 4.5 | 1.5 | 23.0 | サスカイト | 既基式。刃部のみ残る。 |
| S40 | 石鑿 | 50 | SK21005 | 11.2 | 8.5 | 2.7 | 1200.0 | 砂岩 | 物面と平滑。磨石として利用か? |
| S41 | 石削木製品 | 50 | SK21006 | 4.4 | 3.2 | 0.5 | 52.5 | サスカイト | 小削片を利用した未完成品。 |
| S42 | 刮削 | 50 | SK21006 | 3.5 | 3.7 | 0.8 | 10.2 | サスカイト | 既基式。 |
| S43 | 刮削 | 50 | SK21008 | 2.6 | 1.6 | 0.8 | 3.8 | サスカイト | 一部に挫痕あり。 |
| S44 | 刮削 | 50 | SK21010 | 3.8 | 2.3 | 0.4 | 1.7 | サスカイト | 既基式。刃部を次ぐ。 |
| S45 | 削器 | 50 | SK21010 | 3.3 | 3.0 | 0.7 | 8.5 | サスカイト | 既基式。 |
| S46 | 刮削 | 50 | SK21010 | 7.3 | 4.6 | 1.8 | 59.2 | サスカイト | 既基式。刃部を次ぐ。 |
| S47 | 刮削 | 60 | SK21011 | 5.8 | 1.9 | 0.5 | 1.5 | サスカイト | 頭部と鋸歯の形が明瞭でない。 |
| S48 | 刮削 | 60 | SK21011 | 4.9 | 2.9 | 1.0 | 17.6 | サスカイト | 背面のみ残る。 |
| S49 | 刮削 | 66 | SK21014 | 11.0 | 6.5 | 2.7 | 176.0 | サスカイト | 背面に自然面を残す。 |
| S50 | 石鑿 | 66 | SK21014 | 1.5 | 1.5 | 0.3 | 0.2 | サスカイト | 完形品。既基式。全面に細く削離。 |
| S51 | 石削木製品 | 66 | SK21014 | 2.1 | 1.6 | 0.5 | 2.0 | サスカイト | 全面に自然色化。実物品。平基式。 |
| S52 | 石鑿 | 66 | SK21014 | 3.9 | 1.6 | 0.5 | 2.4 | サスカイト | 完形品。既基式。 |
| S53 | 石鑿 | 66 | SK21014 | 3.4 | 3.8 | 1.7 | 6.2 | サスカイト | 既基式。頭部を次ぐ。白色風化。 |
| S54 | 削器 | 66 | SK21016 | 1.9 | 3.6 | 1.0 | 5.0 | サスカイト | 背面より削片をつくる。背側は研打痕あり。 |
| S55 | 石磨丁 | 71 | SK21017 | 3.3 | 4.2 | 0.8 | 8.7 | サスカイト | 刃部は両面より細く削離。 |
| S56 | 石磨丁 | 71 | SK21017 | 5.8 | 3.0 | 1.2 | 16.9 | サスカイト | 刃部は両面より削離。 |
| S57 | 刮削 | 71 | SK21017 | 4.7 | 6.7 | 1.0 | 22.9 | サスカイト | 全面白色化。一部研磨痕残す。 |
| S58 | 鐵製石磨丁 | 95 | SK21026 | 5.5 | 8.6 | 1.0 | 5.6 | 鉄製 | 既打痕あり。 |
| S59 | 石磨丁 | 95 | SK21028 | 3.0 | 1.9 | 0.5 | 2.3 | サスカイト | 完形品。既基式。両面より細く削離。 |
| S60 | 石磨丁 | 96 | SP21042 | 2.0 | 3.7 | 0.8 | 6.1 | サスカイト | 既打痕あり。 |
| S61 | 石磨丁 | 96 | SP21043 | 2.1 | 1.5 | 0.4 | 0.8 | サスカイト | 既打痕あり。既打痕か? |
| S62 | 刮削 | 96 | SP21043 | 2.3 | 1.7 | 0.3 | 2.1 | サスカイト | 既打痕。既打痕が大きくて鋭い。 |
| S63 | 石磨丁 | 96 | SP21043 | 2.3 | 1.7 | 0.3 | 1.1 | サスカイト | 既打痕。 |
| S64 | 石磨丁 | 96 | SP21046 | 7.4 | 1.0 | 0.4 | 1.1 | サスカイト | 既打痕。 |
| S65 | 刮削 | 96 | SP21106 | 3.4 | 3.7 | 0.7 | 6.6 | サスカイト | 既打痕。 |

写 真 図 版



写真1 調査区全景(南から)



写真2 I 区第2遺構面全景(南西から)



写真3 I 区第2遺構面完掘状況(南西から)



写真4 II 区完掘状況(北西から)



写真5 SH12001完掘状況(北から)



写真6 SB11001完掘状況(南から)

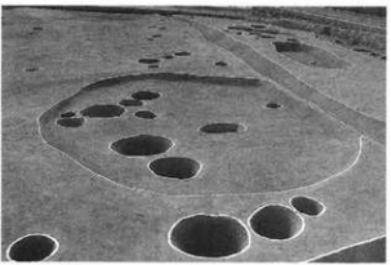


写真7 SH21001完掘状況(北東から)

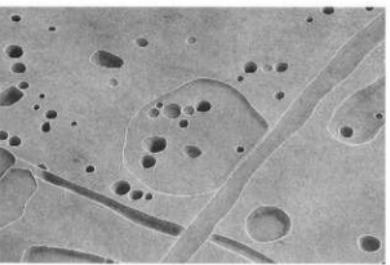


写真8 SH21001完掘状況(北西から)

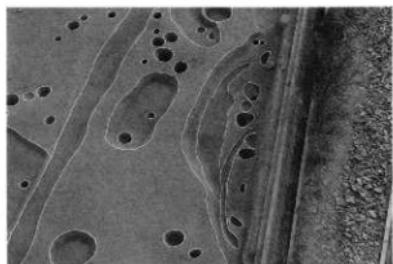


写真9 SH21002・SH21003完掘状況(北から)



写真10 SH21002・SH21003完掘状況(南から)

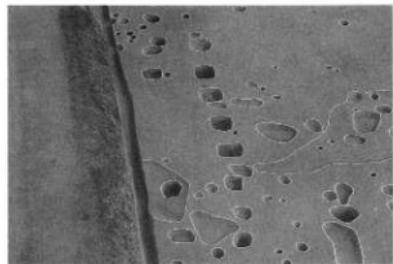


写真11 SB21001完掘状況(西から)



写真12 SB21001完掘状況(北西から)

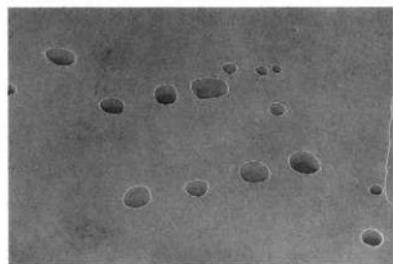


写真13 SB21003完掘状況(南から)



写真14 SK21001土器出土状況(北西から)

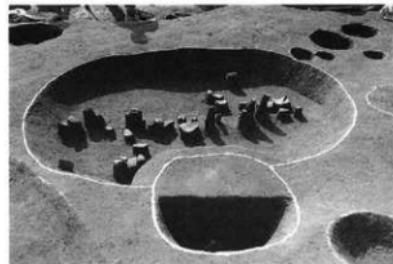


写真15 SK21001土器出土状況(北東から)

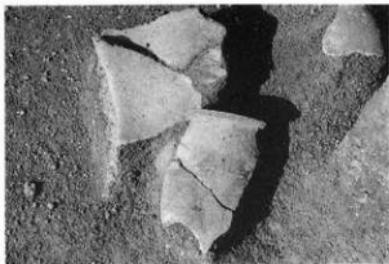


写真16 SK21001土器出土状況(南から)



写真17 SK21001土器出土状況(東から)



写真18 SK21001土器出土状況(東から)



写真19 SK21005土器出土状況(北東から)



写真20 SK21005土器出土状況(西から)



写真21 SK21005土器出土状況(北から)

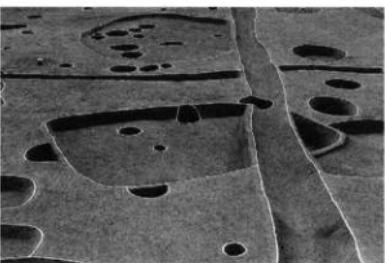


写真22 SK21008完掘状況(北から)

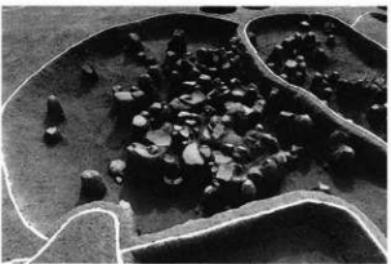


写真23 SK21010土器出土状況(北から)

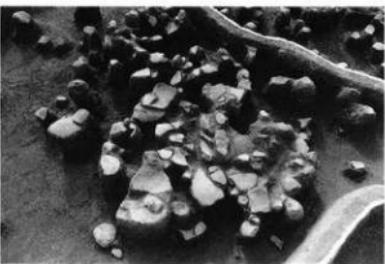


写真24 SK21010土器出土状況(北東から)



写真25 SK21011土器出土状況(北東から)

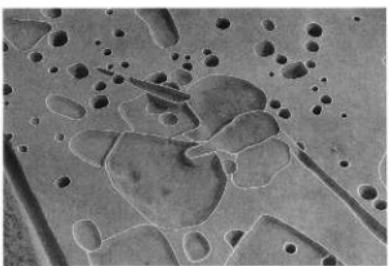


写真26 土器群完掘状況(北西から)



写真27 土坑群完掘状況(北東から)

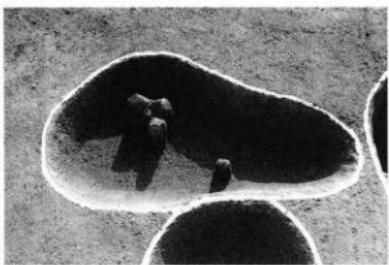


写真28 SK21013土器出土状況(南西から)

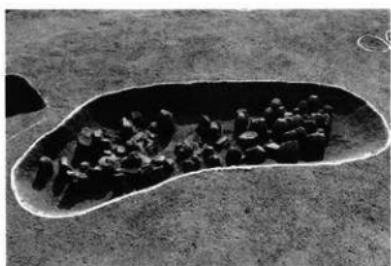


写真29 SK21014土器出土状況(北から)



写真30 SK21016土器出土状況(南東から)



写真31 SK21016土器出土状況(西から)



写真32 SK21017完掘状況(南東から)



写真33 SK21018土器出土状況(西から)



写真34 SK21018土器出土状況(東から)



写真35 SD21001完掘状況(北から)



写真36 SP21086土器出土状況(北西から)



写真37 SP21086土器出土状況(北西から)



写真38 SP21086土器出土状況(北から)



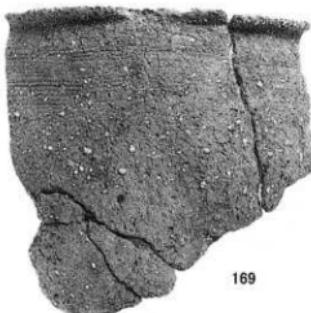
写真39 SP21086土器出土状況(北から)



写真40 作業風景(西から)



143



169



102



150



142



6

写真41 出土遺物①

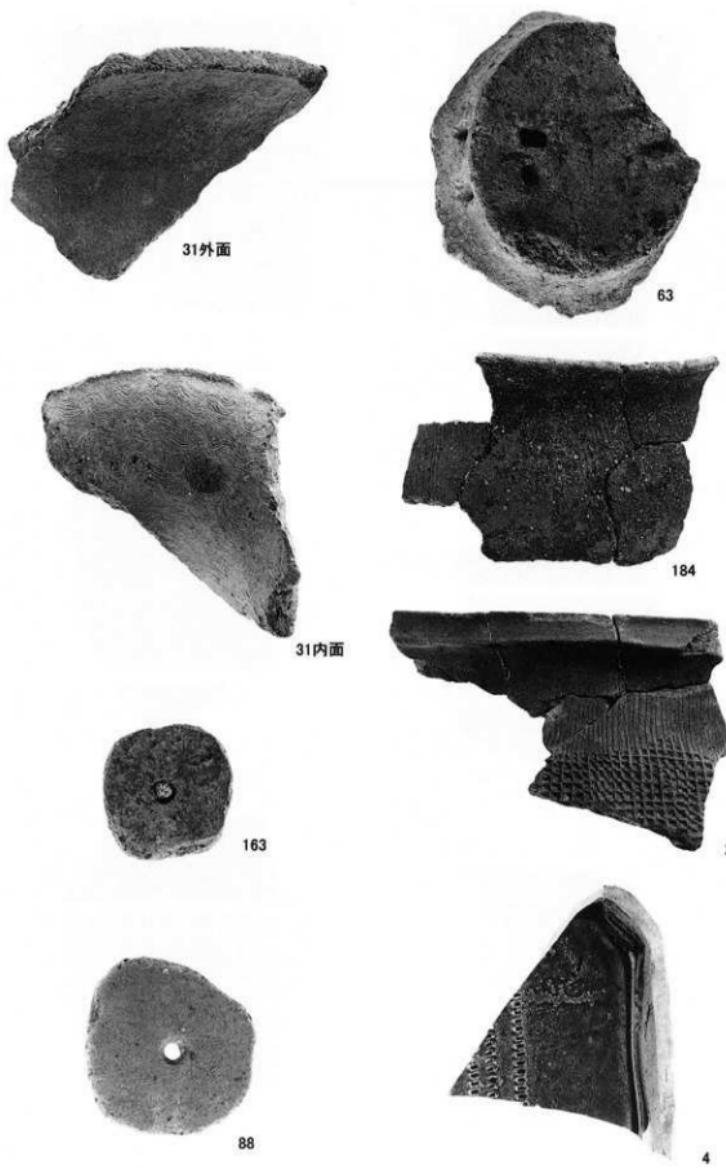


写真42 出土遺物②



83



162



5



76



183



49



50



176

写真43 出土遺物③



8



107



7



190



170



155外面



155里面

写真44 出土遺物④



S16



S26



S58



S34



S29



S32



S28



S35

写真45 出土遺物⑤



S2



S49



S1



S37



S50



S4



S59



S51



S63



S3



S44



S52

写真46 出土遺物⑥

報 告 書 抄 錄

高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第5冊

奥の坊遺跡群V
(奥の坊遺跡 I・II区)

平成18年12月28日

編 集 高松市教育委員会
高松市番町一丁目8番15号

發 行 高松市教育委員会
印 刷 総合印刷ワークステーション有限会社